

幕張新都心若葉住宅地区小学校（仮称） プール新築工事

意 匠 図

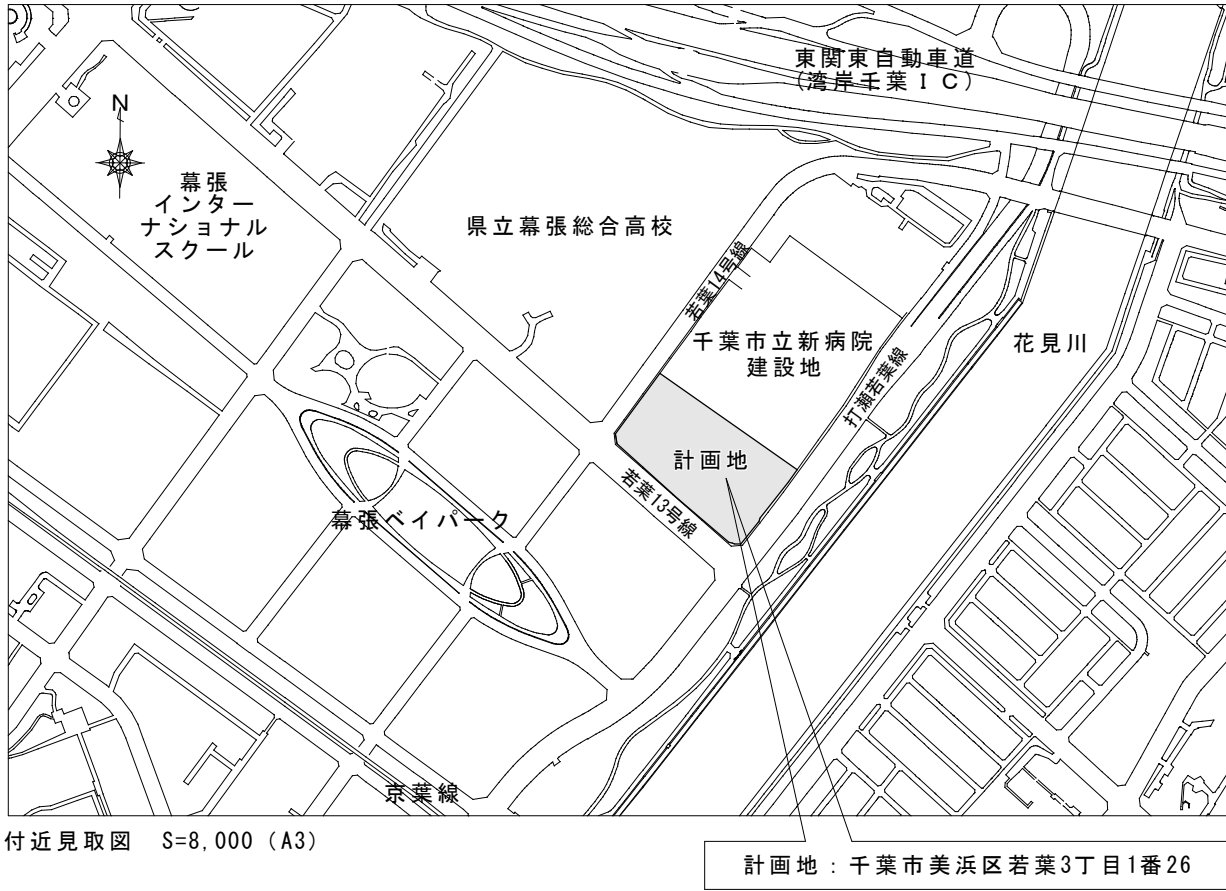
NO.	図面名称
———	図面リスト
A - 001	案内図・建築概要
A - 002	敷地求積図
A - 003	建築面積・床面積算定図（参考図）
A - 004	平均地盤面算定図（参考図）
A - 005	日影図（参考図）
A - 006	敷地現況図
A - 007	配置図・屋根伏図
A - 008 KA - 69	外部・内部仕上表
A - 009 KA - 70	1階平面図・ビット平面図
A - 010 KA - 71	立面図・断面図
A - 011	平面詳細図
A - 012	断面詳細図－1
A - 013	断面詳細図－2
A - 014	断面詳細図－3
A - 015	展開図
A - 016	建具工事特記仕様書
A - 017 KA - 72	建具表
A - 018	家具詳細図

構 造 図

NO.	図面名称
A - 019	サイン詳細図
A - 020	部分詳細図－1
A - 021	部分詳細図－2
A - 022	部分詳細図－3
A - 023	部分詳細図－4
A - 024	プール詳細図－1
A - 025	プール詳細図－2
A - 026	プール詳細図－3
A - 027	プール詳細図－4
A - 028	プール詳細図－5
A - 029	プール詳細図－6
A - 030 KA - 73	屋外倉庫詳細図－1
A - 031 KA - 74	屋外倉庫詳細図－2
A - 032	仮設計画面図（参考図）

NO.	図面名称
S - 001	構造設計標準仕様
S - 002	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（1）
S - 003	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（2）
S - 004	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（3）
S - 005	壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（4）
S - 006	ボーリング調査位置図、土質柱状図（1）
S - 007	土質柱状図（2）
S - 008	杭伏図（参考）
S - 009	基礎・ビット伏図、1階壁・1階床梁伏図、1階壁・R階床梁伏図
S - 010	軸組図
S - 011	杭リスト（参考図）、基礎リスト
S - 012	基礎梁リスト
S - 013	基礎小梁リスト
S - 014	部材リスト、雑詳細図
S - 015	1階壁平面配筋詳細図
S - 016	6通り梁構配筋詳細図

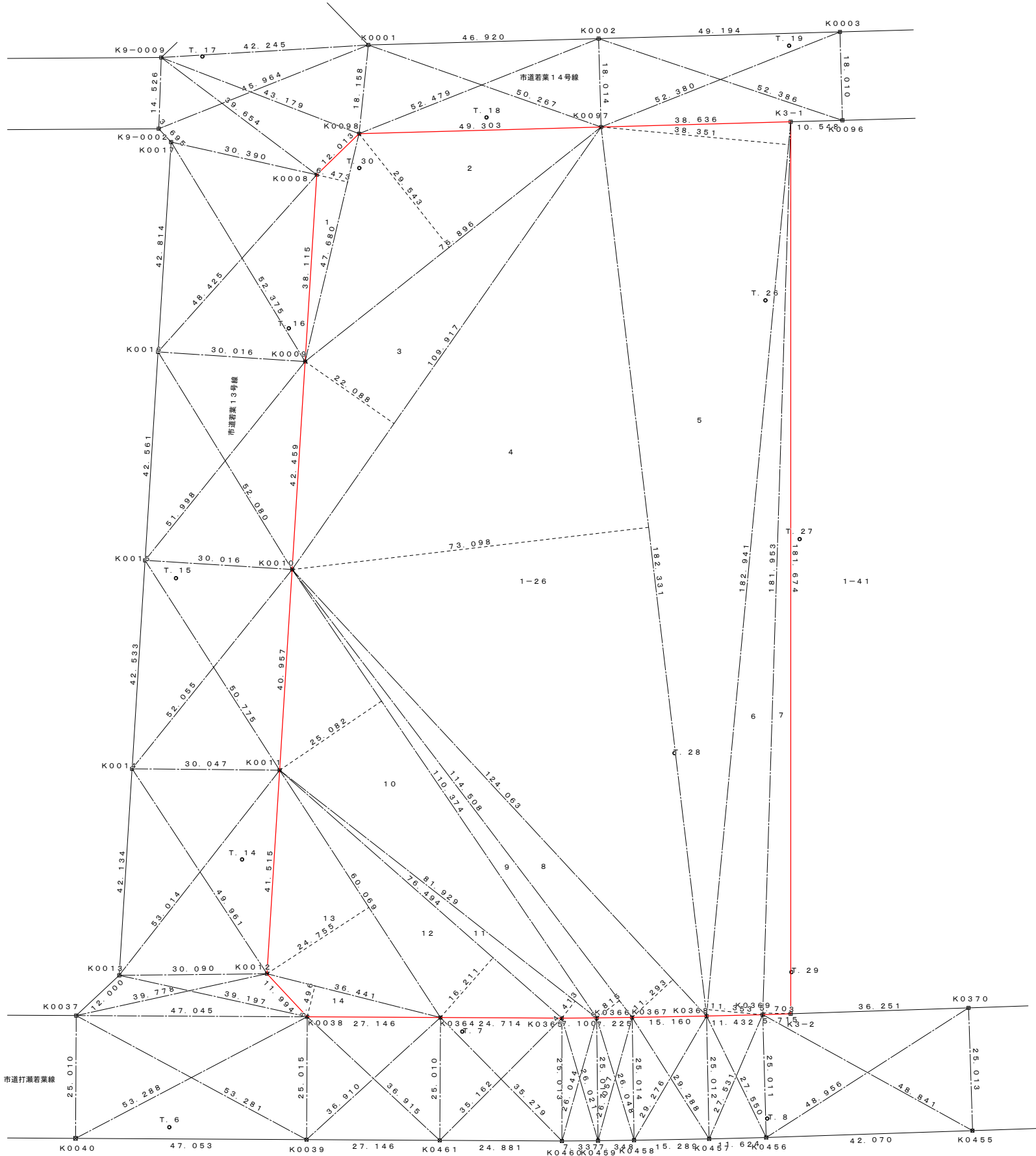
NO.	図面名称



工 事 名	幕張新都心若葉住宅地区小学校（仮称）プール新築工事
地 名 地 番	千葉市美浜区若葉3丁目1番26
1 建築物の主要用途	小学校
2 建築物の工事種別	新築
3 用 途 地 域	第二種住居地域
4 防 火 地 域	指定なし（法22条地域）
5 その他の地域区域	市街化区域
6 防 火 対 象 物	(7)項 小学校
7 道 路 幅 員	18.00m（北西側）、30.00m（南西側）、25.00m（南東側）
8 敷 地 面 積	18,313.73 m ²
9 延 床 面 積	－ m ² 校舎棟参照
10 建 築 面 積	－ m ² 校舎棟参照

建築面積							
	校舎・屋内運動場棟				プール附属棟	屋外倉庫棟	
階数	校舎	屋内運動場	給食室	小計			合計
	—	—	—	校舎棟参照	164.00 m ²	66.00 m ²	校舎棟参照
延床面積							
1					164.00 m ²	66.00 m ²	
2							
3							
PH							
合計	—	—	—	校舎棟参照	164.00 m ²	66.00 m ²	校舎棟参照
1.1 建ぺい率 (建築面積／敷地面積)					プール附属棟	屋外倉庫棟	
容積率 (容積対象延床面積／敷地面積)					—	—	校舎棟参照
1.2 建築物の高さ 最高の高さ					5.05 m	3.38 m	
最高軒高さ					4.40 m	3.28 m	
階高					3.30 m	3.28 m	
1.3 耐火建築物					その他建築物	その他建築物	
1.4 主要構造 基礎					杭基礎	べた基礎	
柱・梁					鉄筋コンクリート造	—	
外壁					鉄筋コンクリート造	メッキ鋼板	
床					鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造	
屋根					鉄筋コンクリート造	メッキ鋼板	
1.5 耐火・不燃認定一覧							
柱					—	—	
梁					—	—	
屋根					鉄筋コンクリート造	メッキ鋼板	告示1400号（不燃）
外壁					—	—	

設備概要					
●共用部分					
電	気	敷地南西面共同溝より新規引込(校舎・屋内運動場新築電気設備工事)		受 変 電 設 備	校舎屋上キュービクル設置
		校舎受変電設備より引込み(プール新築工事エリア内にHH設置)		動 力 設 備	動力制御盤よりプールろ過、散水ポンプ等への動力機器(3相3線200V)への配管配線
ガ	ス	-		電 灯 コ ン セ ン ト 設 備	分電盤よりLED照明・コンセント等の配線器具(単相2線100V)への配管配線
給	水	北西面道路(歩道)本管(150A)より新規引込(校舎・屋内運動場新築杭打工事)		電 話 設 備	校舎端子盤より配管配線、電話機設置
		プール給水:直結方式(プール新築工事エリア内にバルブ止め)		情 報 通 信 設 備	-
		プール付帯施設:受水槽+加圧ポンプ方式(プール新築工事エリア内にバルブ止め)		電 気 時 計 設 備	パルス発信機、電気時計設置
排	水	汚水雑排水	南東面道路(歩道)下水道本管(200A)に接続	空 調	-
		雨 水	グラウンド側溝内の柵に合流接続	換 気	第3種換気
防 災 ・ 防 犯	消火器(備品)		給 湯	-	
	機械管備用空配管		衛 生 器 具	フラッシュバルブ式洋風大便器、低リップ型小便器	
駐 車 場	-				
運 搬 設 備	-				



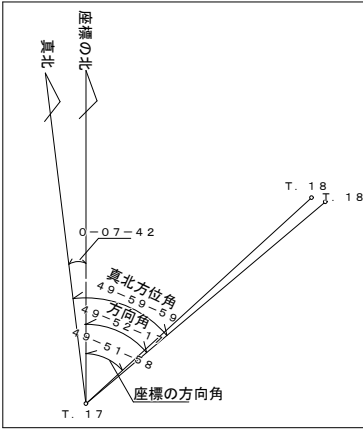
境界点座標一覧表

測点名	X座標	Y座標	凡例
K0001	-39235.825	19956.580	千葉市コンクリート杭
K0002	-39197.951	19984.275	千葉市コンクリート杭
K0003	-39158.241	20013.312	千葉市コンクリート杭
K3-1	-39177.387	20021.623	民コンクリート杭
K3-2	-39288.646	20165.243	民コンクリート杭
K0008	-39260.308	19971.029	千葉市コンクリート杭
K0009	-39285.469	19999.659	千葉市コンクリート杭
K9-0002	-39280.014	19943.927	千葉市コンクリート杭
K9-0009	-39270.718	19932.765	千葉市コンクリート杭
K0010	-39313.512	20031.540	千葉市コンクリート杭
K0011	-39340.566	20062.290	千葉市コンクリート杭
K0012	-39367.977	20093.469	千葉市コンクリート杭
K0013	-39391.960	20075.297	千葉市コンクリート杭
K0014	-39364.137	20043.656	千葉市コンクリート杭
K0015	-39336.050	20011.716	千葉市コンクリート杭
K0016	-39307.940	19979.759	千葉市コンクリート杭
K0017	-39279.670	19947.606	千葉市コンクリート杭
K0037	-39403.909	20076.405	千葉市コンクリート杭
K0038	-39366.871	20105.412	千葉市コンクリート杭
K0039	-39382.296	20125.105	千葉市プレート
K0040	-39419.337	20096.089	千葉市プレート
K0096	-39168.872	20027.849	千葉市コンクリート杭
K0097	-39208.577	19998.821	千葉市コンクリート杭
K0098	-39248.368	19969.710	千葉市コンクリート杭
K0364	-39345.504	20122.156	千葉市コンクリート杭
K0365	-39326.047	20137.394	千葉市コンクリート杭
K0366	-39320.401	20141.699	千葉市コンクリート杭
K0367	-39314.628	20146.043	千葉市コンクリート杭
K0368	-39302.480	20155.112	千葉市コンクリート杭
K0369	-39293.278	20161.896	千葉市コンクリート杭
K0370	-39259.264	20186.475	千葉市コンクリート杭
K0455	-39273.926	20206.740	千葉市プレート
K0456	-39308.024	20182.098	千葉市プレート
K0457	-39317.381	20175.201	千葉市プレート
K0458	-39329.634	20166.056	千葉市プレート
K0459	-39335.504	20161.636	千葉市プレート
K0460	-39341.339	20157.188	千葉市プレート
K0461	-39360.926	20141.845	千葉市プレート

基準点座標一覧表

測点名	X座標	Y座標	凡例
783	-39000.977	20366.744	千葉市2級基準点
798	-39641.300	19828.233	千葉市2級基準点
10A97	-38916.093	20169.002	街区多角点
T.1	-39612.613	19881.980	鉄
T.2	-39573.714	19930.461	鉄
T.3	-39543.766	19984.967	鉄
T.4	-39501.385	20030.404	鉄
T.5	-39452.587	20068.919	鉄
T.6	-39402.821	20106.008	鉄
T.7	-39343.743	20127.164	鉄
T.8	-39305.496	20179.192	鉄
T.9	-39256.121	20215.886	鉄
T.10	-39207.748	20253.964	鉄
T.11	-39161.559	20294.617	鉄
T.12	-39110.157	20335.015	鉄
T.13	-39058.918	20375.454	鉄
T.14	-39357.731	20071.978	木杭
T.15	-39333.284	20018.462	鉄
T.16	-39283.957	19992.293	鉄
T.17	-39263.972	19937.750	鉄
T.18	-39225.823	19982.999	鉄
T.19	-39168.156	20009.203	鉄
T.20	-39127.828	20056.989	鉄
T.21	-39067.640	20082.226	鉄
T.22	-39017.979	20116.733	鉄
T.23	-38973.423	20157.707	鉄
T.24	-38937.214	20190.412	鉄
T.25	-38903.829	20202.392	鉄
T.26	-39203.721	20047.240	木杭
T.27	-39227.996	20089.929	木杭
T.28	-39274.852	20108.803	木杭
T.29	-39283.323	20158.632	木杭
T.30	-39252.618	19975.291	木杭

公共座標北



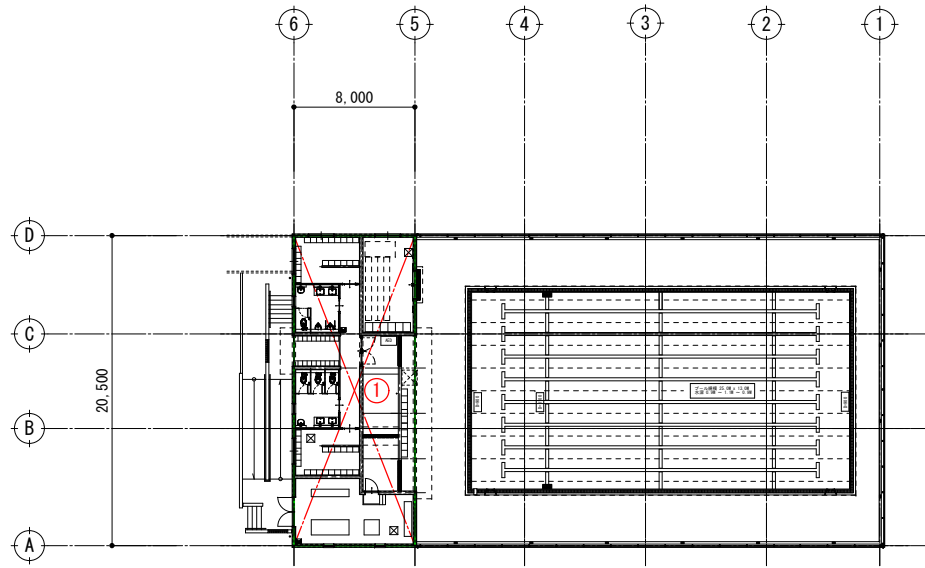
三斜求積表

地番	1-26			
NO.	底辺	高さ	倍面積	
①	47.680	6.473	308.632640	
②	76.896	29.543	2271.738528	
③	109.917	22.088	2427.846696	
④	182.331	73.098	13328.031438	
⑤	182.941	38.351	7015.970291	
⑥	182.941	11.353	2076.929173	
⑦	181.953	5.703	1037.677959	
⑧	124.063	11.293	1401.043459	
⑨	114.508	5.815	665.864020	
⑩	110.374	25.082	2768.400668	
⑪	81.929	4.413	361.562677	
⑫	76.494	16.211	1240.044234	
⑬	60.069	24.755	1487.008095	
⑭	36.441	6.496	236.720736	
		倍面積	36627.460614	
		面積	18313.7303070	
		地積	18313.73	㎡

凡例

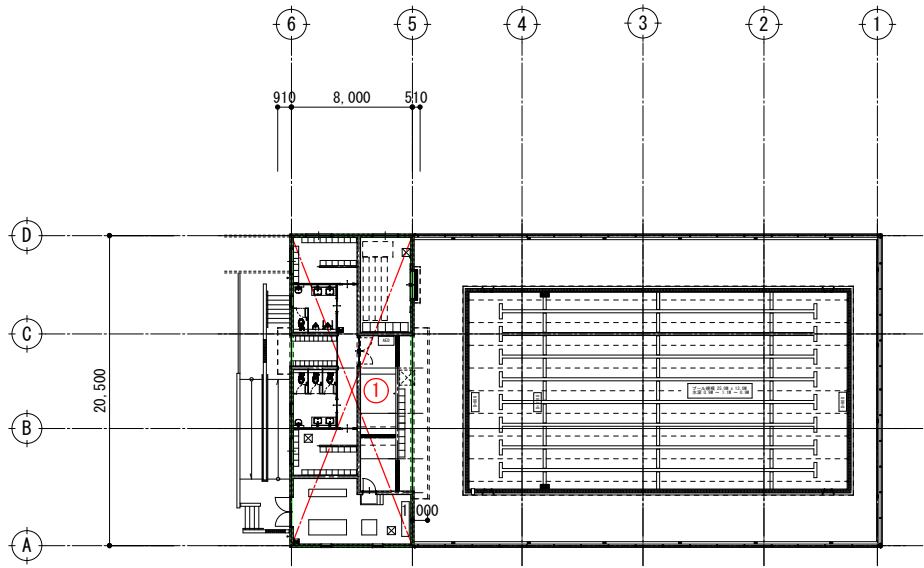
境界点	境界標の種類
田	コンクリート杭
☒	市プレート

図面作成者	株式会社 相沢測量設計
図面作成日	令和四年九月作成



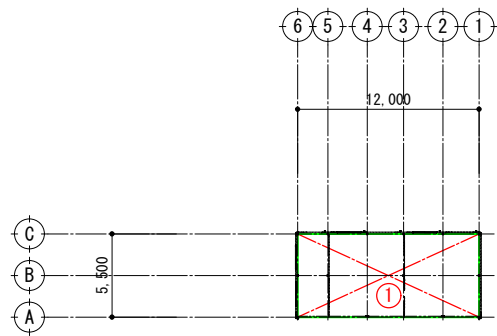
プール付属棟 延床面積算定図

プール付属棟 延床面積			
①	8.000	×	20.500
合計	164.000000 m ²		



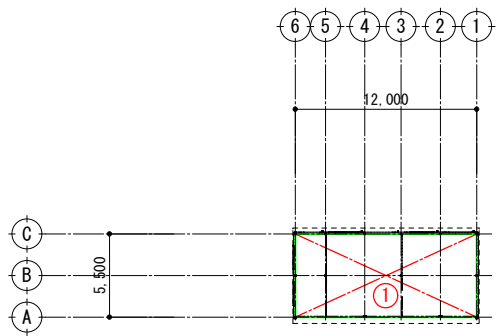
プール付属棟 建築面積算定図

プール付属棟 建築面積			
①	8.000	×	20.500
合計	164.000000 m ²		



屋外倉庫棟 延床面積算定図

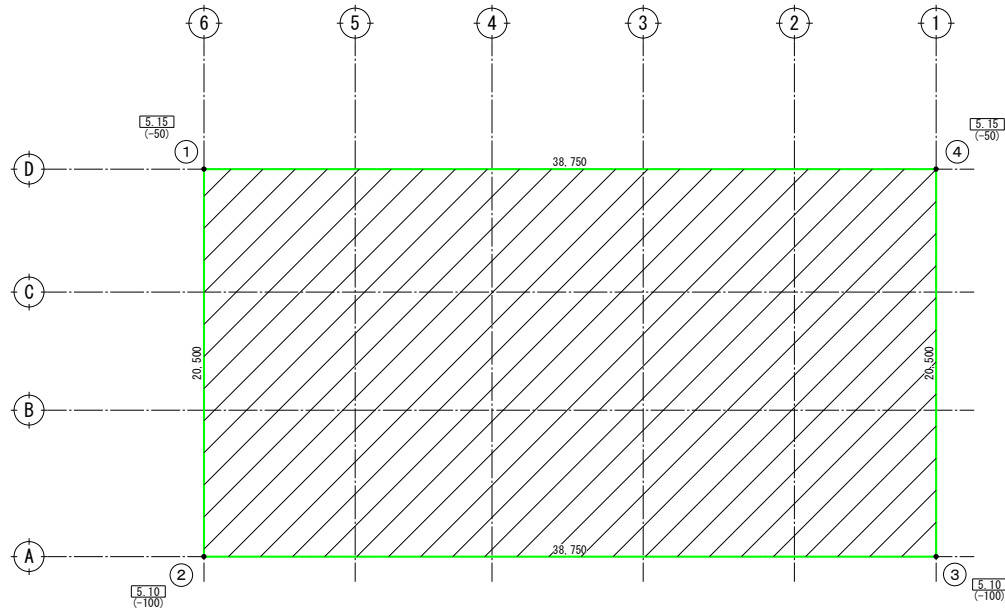
屋外倉庫棟 延床面積			
①	12.000	×	5.500
合計	66.000000 m ²		



屋外倉庫棟 建築面積算定図

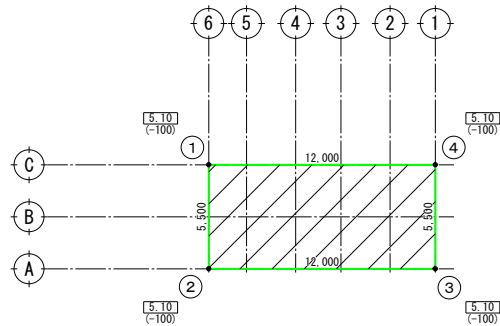
屋外倉庫棟 建築面積			
①	12.000	×	5.500
合計	66.000000 m ²		

③ プール付属棟 平均地盤面算定表		
	周長長さ (m)	接地面積 (㎡)
①－②	20.500 m	$(-0.050 + -0.100) \times 0.5 \times 20.500 \text{ m} = -1.537500 \text{ ㎡}$
②－③	38.750 m	$(-0.100 + -0.100) \times 0.5 \times 38.750 \text{ m} = -3.875000 \text{ ㎡}$
③－④	20.500 m	$(-0.100 + -0.050) \times 0.5 \times 20.500 \text{ m} = -1.537500 \text{ ㎡}$
④－①	38.750 m	$(-0.050 + -0.050) \times 0.5 \times 38.750 \text{ m} = -1.937500 \text{ ㎡}$
合 計	118.500 m	-8.887500 ㎡
<div><div>平均地盤面</div><div>= 設計 G L (5.20) + = 設計 G L (5.20) + = 設計 G L (5.20) +</div><div><div><div>全接地面積</div><div>全周長</div><div>$\frac{-8.887500 \text{ ㎡}}{118.500 \text{ m}}$</div></div><div>$-0.075000 \text{ m} = 5.125000 = \underline{\underline{5.10}}$</div></div></div>		

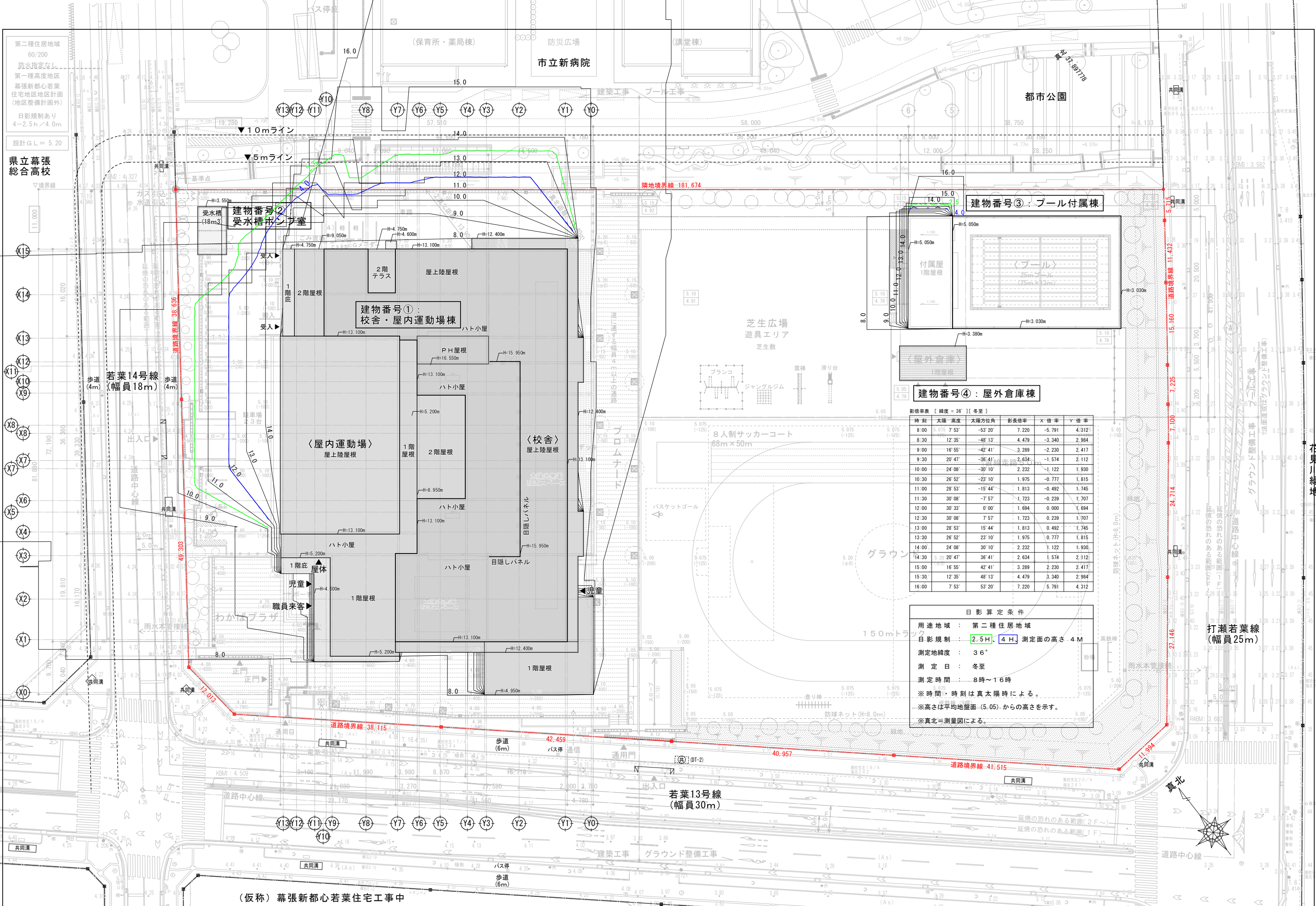


③ プール付属棟 S:1/400 (A3)

④ 屋外倉庫棟 平均地盤面算定表		
	周長長さ (m)	接地面積 (㎡)
①－②	5.500 m	$(-0.100 + -0.100) \times 0.5 \times 5.500 \text{ m} = -0.550000 \text{ ㎡}$
②－③	12.000 m	$(-0.100 + -0.100) \times 0.5 \times 12.000 \text{ m} = -1.200000 \text{ ㎡}$
③－④	5.500 m	$(-0.100 + -0.100) \times 0.5 \times 5.500 \text{ m} = -0.550000 \text{ ㎡}$
④－①	12.000 m	$(-0.100 + -0.100) \times 0.5 \times 12.000 \text{ m} = -1.200000 \text{ ㎡}$
合 計	35.000 m	-3.500000 ㎡
<div><div>平均地盤面</div><div>= 設計 G L (5.20) + = 設計 G L (5.20) + = 設計 G L (5.20) +</div><div><div><div>全接地面積</div><div>全周長</div><div>$\frac{-3.500000 \text{ ㎡}}{35.000 \text{ m}}$</div></div><div>$-0.100000 \text{ m} = 5.100000 = \underline{\underline{5.10}}$</div></div></div>		



④ 屋外倉庫棟 S:1/400 (A3)



影倍率表 [緯度 = 36°] [冬至]

時刻	太陽高度	太陽方位角	影長倍率	X倍率	Y倍率
8:00	5.075 7°53'	-53°20'	7.220	-5.791	4.312
8:30	12°35'	-48°13'	4.479	-3.340	2.984
9:00	16°55'	-42°41'	3.289	-2.230	2.417
9:30	20°47'	-36°41'	2.634	-1.574	2.112
10:00	24°08'	-30°10'	2.232	-1.122	1.930
10:30	26°52'	-23°10'	1.975	-0.777	1.815
11:00	28°53'	-15°44'	1.813	-0.492	1.745
11:30	30°08'	-7°57'	1.723	-0.239	1.707
12:00	30°33'	0°00'	1.694	0.000	1.694
12:30	30°08'	7°57'	1.723	0.239	1.707
13:00	28°53'	15°44'	1.813	0.492	1.745
13:30	26°52'	23°10'	1.975	0.777	1.815
14:00	24°08'	30°10'	2.232	1.122	1.930
14:30	20°47'	36°41'	2.634	1.574	2.112
15:00	16°55'	42°41'	3.289	2.230	2.417
15:30	12°35'	48°13'	4.479	3.340	2.984
16:00	7°53'	53°20'	7.220	5.791	4.312

日影算定条件

用途地域：第二種住居地域

日影規制：2.5H、4H、測定面の高さ4M

測定地緯度：36°

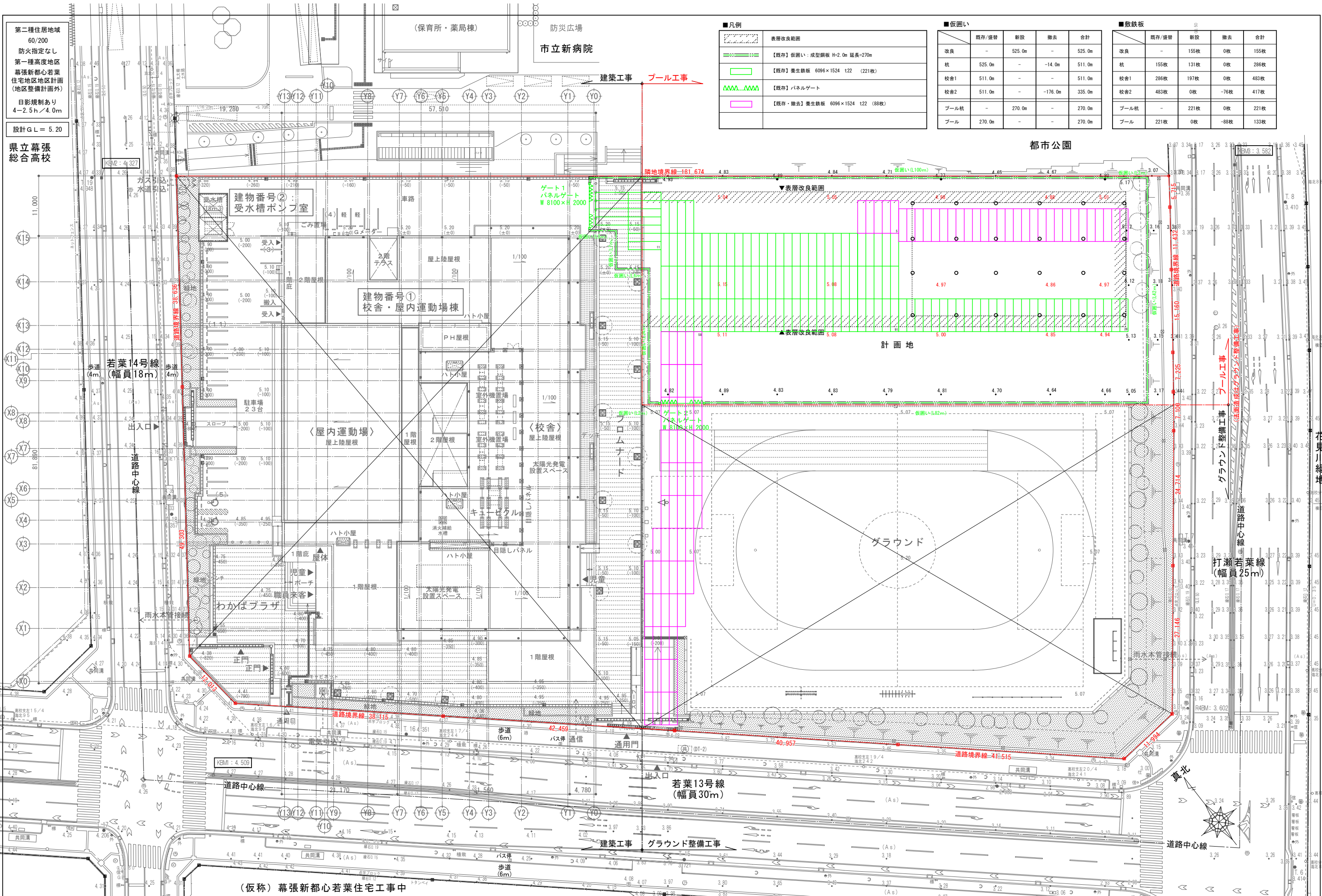
測定日：冬至

測定時間：8時～16時

※時間・時刻は真太陽時による。

※高さは平均地盤面（5.05）からの高さを示す。

※真北＝測量図による。



第二種住居地域
60/200
防火指定なし
第一種高度地区
幕張新都心若葉
住宅地区地区計画
(地区整備計画外)
日影規制あり
4-2.5h/4.0m
設計GL = 5.20

県立幕張
総合高校

■凡例

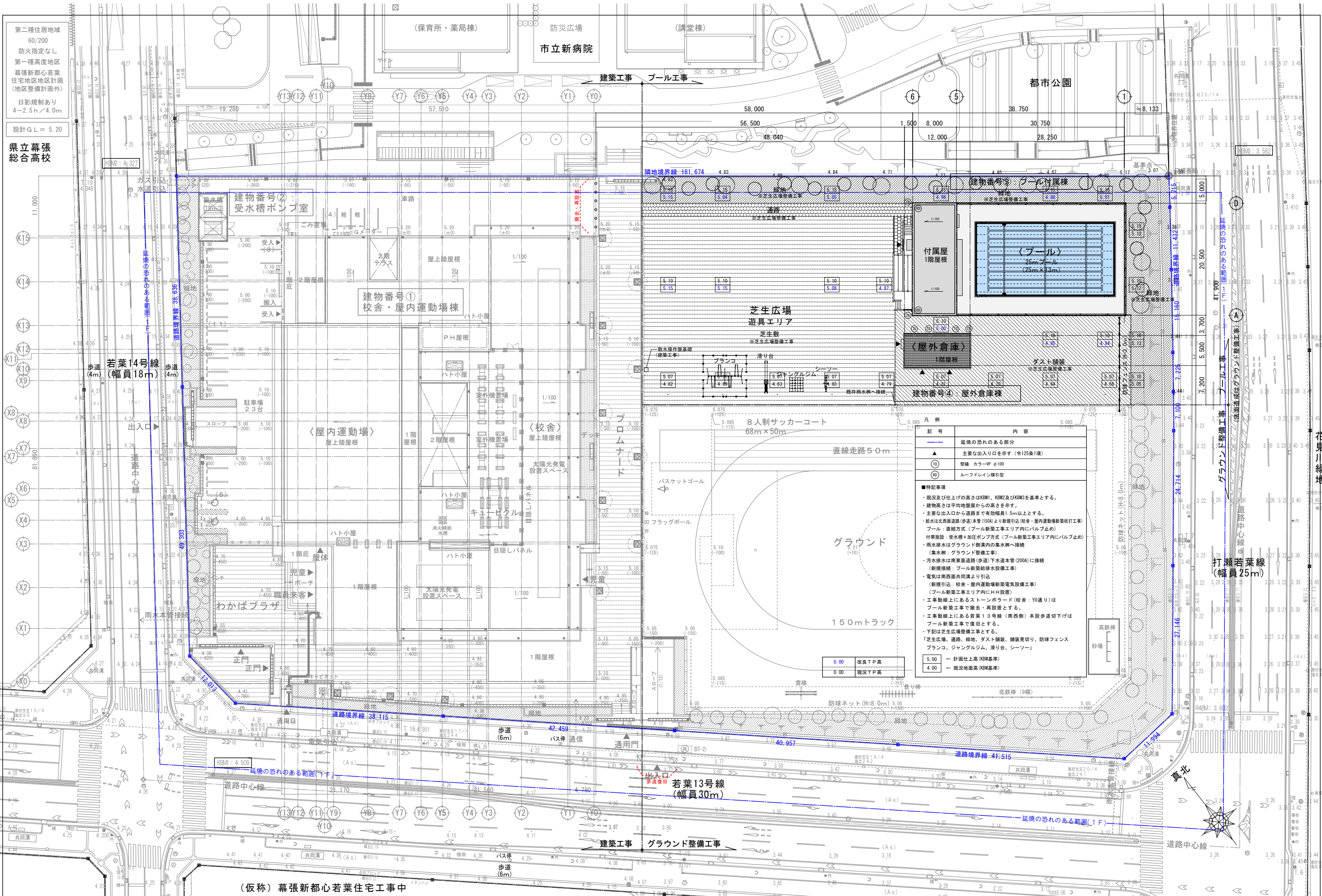
	表層改良範囲
	【既存】仮囲い：成型鋼板 H=2.0m 延長=270m
	【既存】養生鉄板 6096×1524 t22 (221枚)
	【既存】パネルゲート
	【既存・撤去】養生鉄板 6096×1524 t22 (88枚)

■仮囲い

	既存/盛替	新設	撤去	合計
改良	-	525.0m	-	525.0m
杭	525.0m	-	-14.0m	511.0m
校舎1	511.0m	-	-	511.0m
校舎2	511.0m	-	-176.0m	335.0m
プール杭	-	270.0m	-	270.0m
プール	270.0m	-	-	270.0m

■敷鉄板

	既存/盛替	新設	撤去	合計
改良	-	155枚	0枚	155枚
杭	155枚	131枚	0枚	286枚
校舎1	286枚	197枚	0枚	483枚
校舎2	483枚	0枚	-76枚	417枚
プール杭	-	221枚	0枚	221枚
プール	221枚	0枚	-88枚	133枚



記号	内容
▲	延焼の恐れのある部分
▲	主要な出入口を示す (令125条1項)
ⓑ	整機 カラーVP φ100
ⓓ	ルーフドレン横引型

■特記事項

- ・現況及び仕上げの高さはKBM1、KBM2及びKBM3を基準とする。
- ・建物高さは平均地盤面からの高さを示す。
- ・主要な出入口から道路まで有効幅員1.5m以上とする。
- ・給水は北西面道路(歩道)本管(150A)より新規引込(校舎・屋内運動場新築機打工事)
- ・プール・直結方式(プール新築工事エリア内にバルブ止め)
- ・付帯施設: 受水槽+加圧ポンプ方式(プール新築工事エリア内にバルブ止め)
- ・雨水排水はグラウンド側溝内の集水溝へ接続(集水溝:グラウンド整備工事)
- ・汚水排水は南東面道路(歩道)下水道本管(200A)に接続(新規接続:プール新築給排水設備工事)
- ・電気は南西面共同溝より引込(新規引込:校舎・屋内運動場新築電気設備工事)(プール新築工事エリア内にH設置)
- ・工事動線上にあるストーンボード(校舎:Y0通り)はプール新築工事で撤去・再設置とする。
- ・工事動線上にある若葉13号線(南西側)本設歩道切下げはプール新築工事で復旧とする。
- ・下記は芝生広場整備工事とする。
- ・「芝生広場、通路、緑地、ゲスト舗装、舗装見切り、防球フェンス、ブランコ、ジャングルジム、滑り台、シーソー」

0.00	改良T.P.高
0.00	現況T.P.高

凡例

5.00	— 計画仕上高(KBM基準)
4.00	— 現況地面高(KBM基準)

■ 外部仕上表

エリア	部 位		仕 上
	屋根 (陸屋)	平場	塩化ビニル樹脂系露出防水(S1-W2工法)※機械的固定断熱工法、絶縁層、押出法ポリスチレンフォーム保温板3種b t=35
		立上り	平場同材立上げ
	外壁	外壁	単層弾性塗材 防水形外装薄塗材E
		外巾木	高浸透形吸水防止コンクリート打放し(A種)アクリルシリコン樹脂クリヤ仕上
	軒天		軽量鉄骨天井下地 ケイカル板 t=6.0 EP-G
			25形：玄関・下足、足洗・シャワー
	開口部	窓	アルミ製
		扉	スチール製
		ガラス	建具表による
	断熱		1 F床下：押出法ポリスチレンフォーム保温板1種b t=50(外廻り折返し 6L±0まで)
	外部金物	庇	アルミ製押出形材
		縦樋	縦樋：カラーVPφ100(SUSつかみ金物)
		ルーフドレン	鋳鉄製100A(横引型)
		目隠しルーバー	アルミ製目隠しルーバー
付帯施設	屋外倉庫	鉄骨造規格品(屋外倉庫、屋外体育倉庫)	

●一般記号凡例

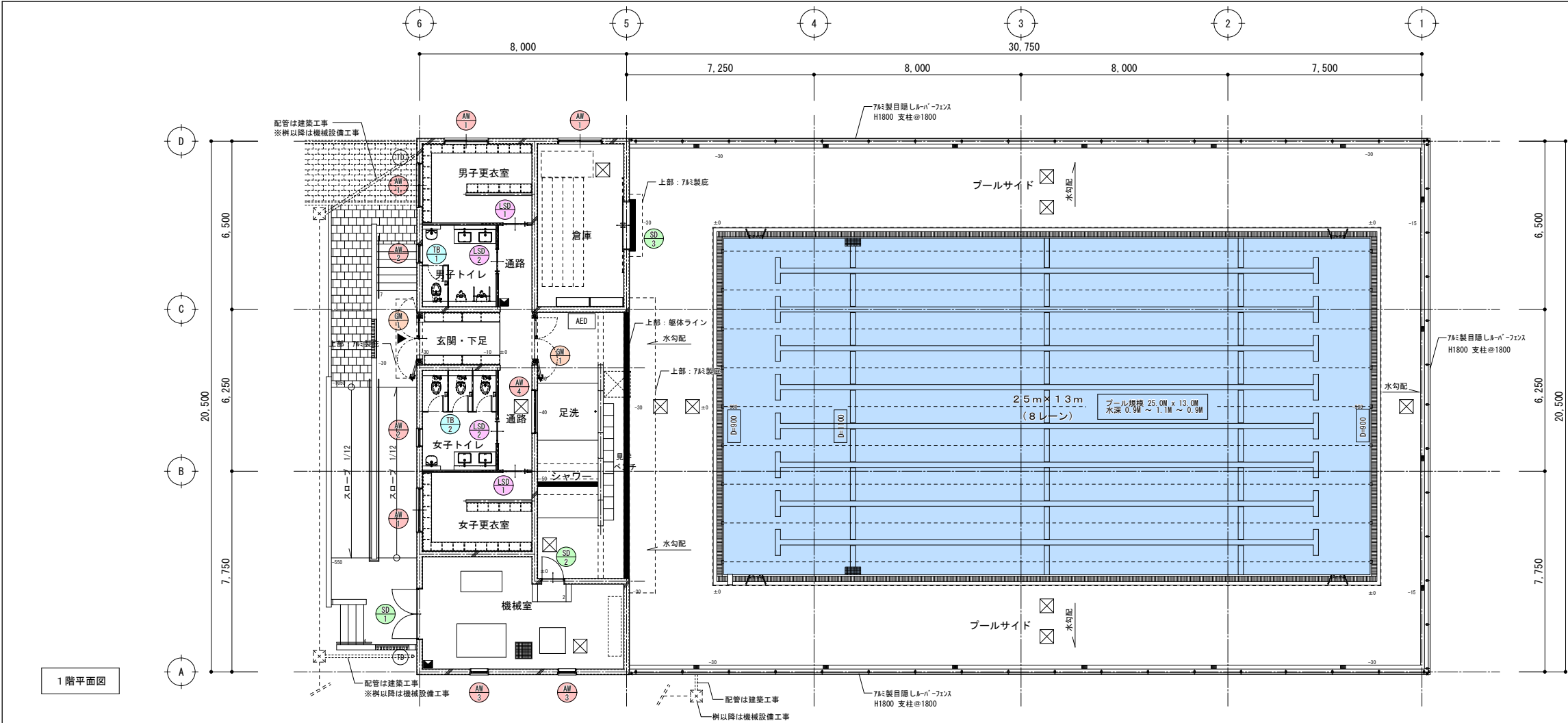
φ	—	直径
半径	—	半径
@	—	間隔
h	—	高さ
i	—	長さ
d	—	奥行
CH	—	天井高さ
GL	—	基準地盤面
FL	—	基準床面
SL	—	基準スラブ面
EXP	—	エキスポンション
RD	—	ルーフトレイン
UB	—	ユニットバス
PS	—	パイプシャフト
MB	—	メーターボックス
ELV	—	エレベーター
ES	—	エスカレーター
DW	—	ダムウェーター
OH	—	オーバーヘッド
EPS	—	電気シャフト
D	—	ダクトスペース
↑	—	上方向表示
AW	—	アルミ製サッシ
AD	—	アルミ製ドア
SW	—	スチール製サッシ
SD	—	スチール製ドア
SSD	—	スチール製シャツ
SSS	—	ステンレス製シャツ

●下地、仕上、塗装、吹付記号凡例

L	コンクリート	HT	ホモジニアスビニル床タイル	OC	オイルフィニッシュ
LC	軽量コンクリート	VT (E)	帯電防止ビニル床タイル	CLP	クリヤツツカー塗り
M	モルタル	CP	カーペット	CP	つや消成樹脂エマルジョンベント塗り
S	鉄骨・鉄骨・軽量鉄骨	TC P	タイルカーペット	EP-G	合成樹脂エマルジョンベント塗り
SUS	ステンレス			EP-T	合成樹脂エマルジョン模様塗り
AL	アルミ	VB	ビニル幅木	EP-M	多彩模様塗り
W	木製下地・木造	WB	木製幅木	UE	ウレタン樹脂ニス塗り
LGS	軽量型鋼			UC	ウレタン樹脂エマルニス塗り
FB	フラッシュバー	Vクロス	ビニルクロス	E	焼付タイル樹脂エマルニス塗り
L	アンダース	Mクロス	無模タイルクロス	B-U E	2液硬化ウレタン樹脂エマルニス塗り
CB	コンクリートブロック	Gクロス	ガラスクロス	2-U E	2液硬化ウレタン樹脂エマルニス塗り
ALC	軽量気泡コンクリート	GB-R	せつこうボード	AC	アクリル樹脂クリアー
ECP	押出成形セメント板	GB-S	不燃せっこうボード	AE	アクリル樹脂エマルニス塗り
PC	プレキャストコンクリート板	GB-F (V)	強化石膏ボード (硝子繊維入り)	B-A E	焼付アクリル樹脂エマルニス塗り
B	煉瓦	GB-F (N)	強化石膏ボード (硝子繊維アミ入)	2-ASE	77%20%樹脂エマルニス塗り
研テ	人造石研出し	GB-RH	硬質石膏ボード	X E (Vp含)	塩化ビニル樹脂エマルニス塗り
珪テ	珪藻土フラスコ塗り	GB-S t	構造用石膏ボード	X E	塩化ビニル樹脂エマルニス塗り
RB	テラゾーブロック	GB-L	石膏ボード	XEB	エポキシ樹脂エマルニス焼付
T	ロックウール樹脂吸音板	GB-L	吸音用穴あき石膏ボード	T X E	タールエポキシ樹脂エマルニス
VP	繊維強化ビニル管	GB-P (装品目)	吸音用穴あき化粧石膏ボード	CE	塩化ビニル系エマルニス
H	通気口鉄筋コンクリート管	GB-PS	特殊石膏ボード "穿孔石膏ボード"	L E	ラッカーエマルニス
PP	配管用鋼管	GB-D	化粧石膏ボード (洋室天井用)	F, F U	フッ素樹脂エマルニス
BR	真鍮	GB-D D	化粧石膏ボード (27型)	2-FUE	常温乾燥樹脂不揮発樹脂エマルニス
		GB-D (W)	化粧石膏ボード (床目)	B-FUE	焼付フッ素樹脂エマルニス
AS	アスファルト	GB-N C (T)	化粧石膏ボード (15%・10%・7%・4%・2%・1%)	F E (F P 含)	フタル酸樹脂エマルニス
Gw	グラスウール	GB-N C (下)	不燃積層石膏ボード (下地強用)	F C	フタル酸樹脂ニス
GBW	グラスウールボード			ALP A	アルミニウムベント
RW	ロックウール	FLB	フレキシブルボード	外装塗材 C	外装セメントベント
RWB	ロックウールボード	けね板	けね板	外装塗材 E	外装合成樹脂エマルジョン系
PW	押出法けね板フォーム保温板	けね板 (P)	けね板 (P)	外装塗材 C	外装セメント
F	木製合板	DR	岩綿化紙吸音板 (フラットタイプ)	外装塗材 C	外装合成樹脂系
Cコテ	コテ	DR (凹凸)	岩綿化紙吸音板 (凹凸タイプ)	外装塗材 E	外装合成樹脂エマルジョン系
Mコテ	モルタルコテ	DR (軒天)	岩綿化紙吸音板 (軒天用70%タイプ)	樹脂塗材 R	ポリマーセメント系樹脂80%?
		DR (軒天凹凸)	岩綿化紙吸音板 (軒天用凹凸タイプ)	樹脂塗材 R S	合成樹脂清漆
FF1	OAフロッパー (レベル調整式)	WPP	木材用浸透系着色自然保護塗液	樹脂塗材 S I	反応硬化型合成樹脂70%樹脂系
FF2	OAフロッパー (直敷式400×47)	OS	オールステンレス	樹脂塗材 S I	けね板系
F3	乾式二重直敷	OSW	油性ステンレス油	RT	アクリル系吹付タイル
SLV	水性シリコン系"シリカ"材	OSW	油性ステンレス油	R P	アクリル系吹付タイル
N	ビニルシート	OP	合成樹脂調剤合ベント	RET E	ポリマーセメント系吹付タイル
NT	ビニル床タイル (半硬質)	OP	合成樹脂調剤合ベント	CET	ポリマーセメント系吹付タイル
CTS	ビニル床タイル (軟質)	OSP	油性調剤合ベント		

■ 内部仕上表

エ リ ア	室 名		床										床 高 (SLから) 床仕上高 (FLから)	巾木・腰壁			巾木高	壁										天 井			天 井 高	廻 縁	付帯工事			備 考			室 名																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
F 1	F 2	F 3	F 4	F 5	床下地		1階：スラブからの高さ表記	B 1	B 2	B 3	W 1	W 2	W 3	W 4	W 5	壁下地		C 1	C 2	C 3	天井下地																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																				
a	b	a	b	a	b	a		b	a	b						a	b																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
	長尺ビニル床シット（防汚仕様） t2.5	耐候性長尺ビニル床シット（防滑・通熱仕様） t3.0	長尺ビニル床シット（防汚仕様） t2.0	磁器質150口タイル（コンスリップ）	防腐塗装（薄膜型水性アクリル樹脂）	コンクリート金ゴテ	モルタル t30		ビニル巾木	床材巻上	ケイ酸質系塗布防水＋磁器質タイル	コンクリート補修 E P I G	ケイカル板 t6.0 E P I G	化粧メラミン合板 t3.0	コンクリート	化粧型枠コンクリート フッ素樹脂塗装	L G S （W 24 k t50）＋ G B I S t12.5	L G S 下地	ケイカル板 t6.0 E P I G	コンクリート	化粧ポタフツシャ押さえ	GW 24 k t50	化粧ポタフツシャ押さえ	L G S 下地	a																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																



凡 例

記 号	内 容
	延焼の恐れのある部分
	屋外への出口の位置 (各室からの歩行距離100m以下)
	消火器SUS製床置型 (A B C粉末10型) (歩行距離20m以内に設置)
	自動体外式除細動器 (壁掛け) ※備品
	床下点検口 (化粧蓋、鍵付、防水防臭型)
	堅樋 カラーVP φ100
	ルーフトレイン横引型

■特記事項

- ・延焼ラインにかかる100cm²を超える給・排気口は、F D付とする。
- ・延焼ラインにかかるガラリは、ダクトチャンバーにF D取り付けとする。
- ・防火区画を貫通する配管等は全て防火貫通処理、国土交通省認定工法及び消防安全センター認定品とする。
- ・AED (自動体外式除細動器) 設置位置は係員と協議の上、決定すること。
- ・無窓階判定
「男子更衣室・女子更衣室・倉庫・機械室」はガラス小窓 (口150mm以上) を局部破壊しサムターン錠を開錠できるものとする。 (建具表参照)
「男子トイレ・女子トイレ」は室の施錠をおこなわないものとする。

収容人数算定

児童数 : 4教室×35人=140人
教職員数 : 4教室×1人=4人
計 : 144人

建 具 凡 例

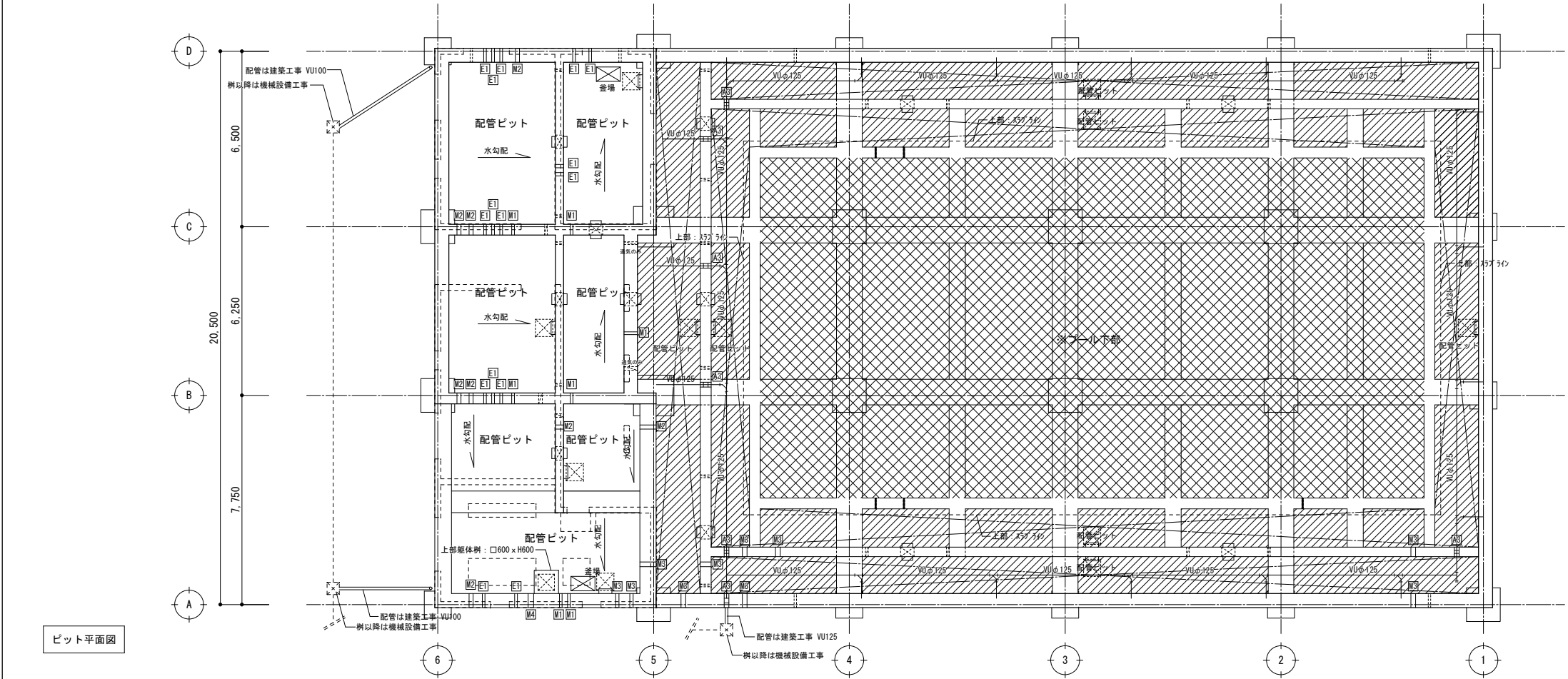
	アルミ製窓		鋼製軽量ドア
	鋼製ドア		トイレブース
	外部門扉		

(プール)無窓階の判定

必要開口面積=床面積 / 30 = 164.00 / 30 = 5.46m²
ガラスの厚さは5.0mm以下の強化ガラス
75cm×120cm以上の開口部2カ所以上
(SD-1) (GM-1) 2カ所 ≧ 2カ所

SD-1	: 1.87 × 2.20 × 1 × 0.5	= 2.05
(1ヶ所)		= 2.05m ²
GM-1	: 1.59 × 2.30 × 1	= 3.65
(1ヶ所)		= 3.65m ²
	= 5.70m ² ≧ 5.46m ²	・・・OK

・ガラス小窓 (破壊窓) 150×150以上を設置する。
・内鍵はサムターンとする。
・SD-1は閉鎖時にフランス落としを使用するため有効開口は1/2 (×0.5) とする。



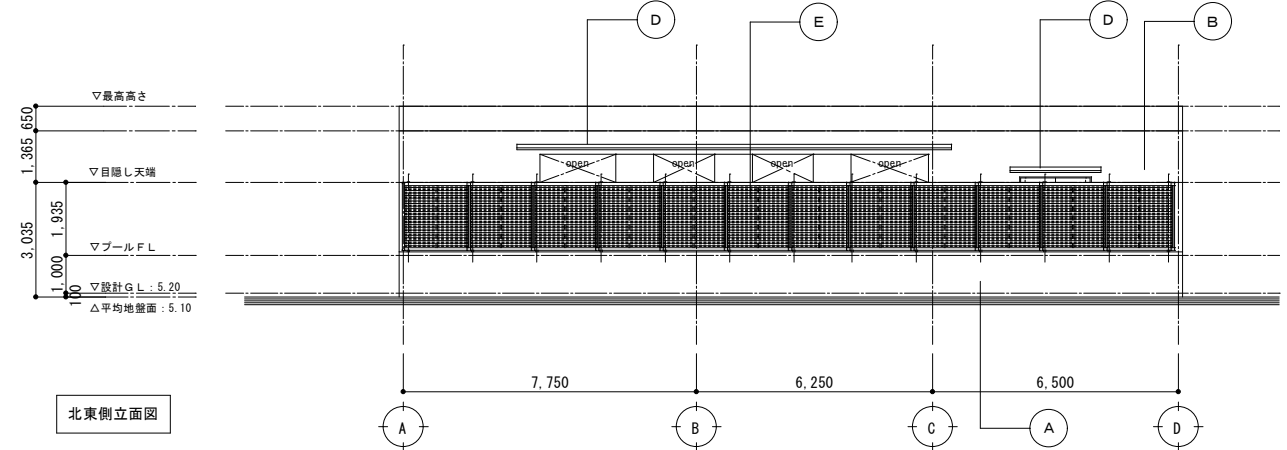
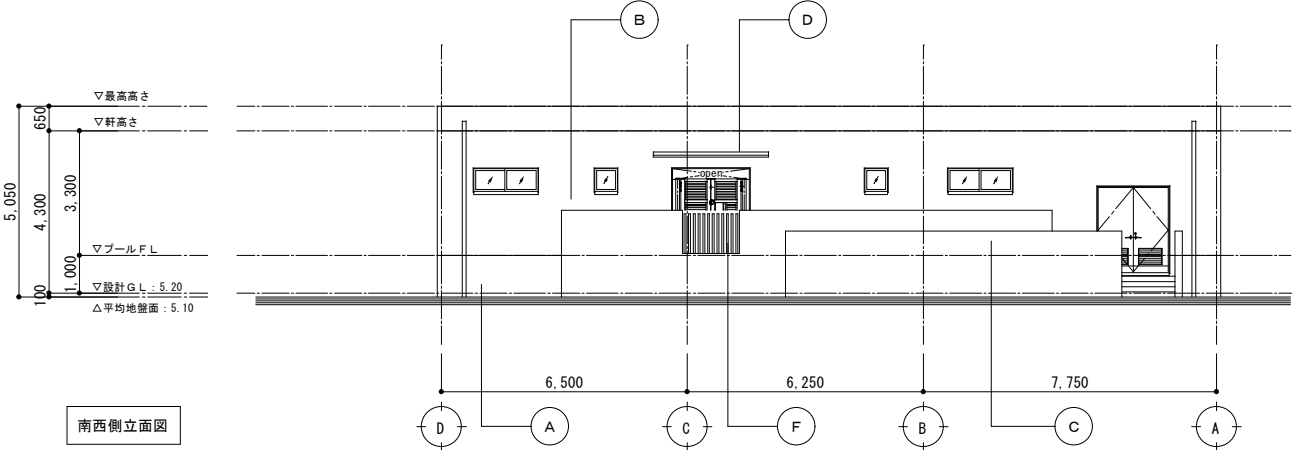
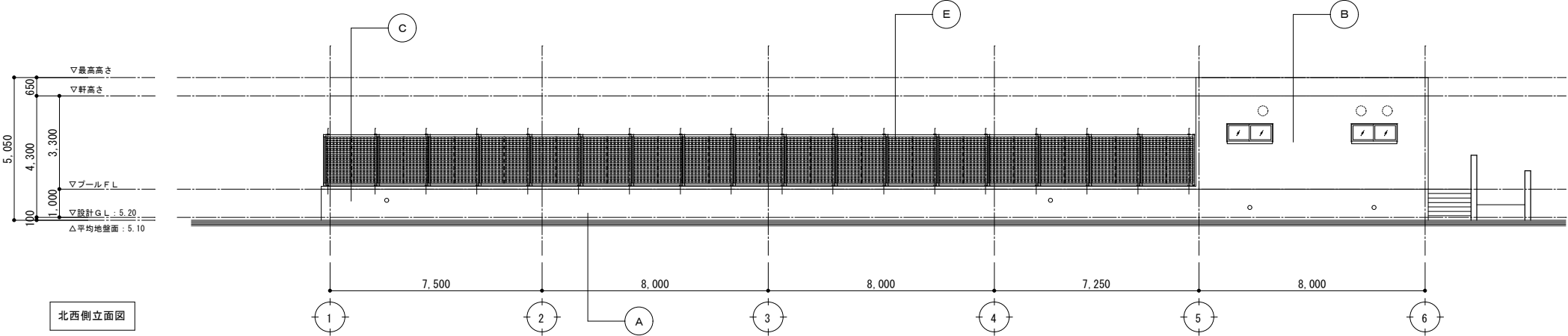
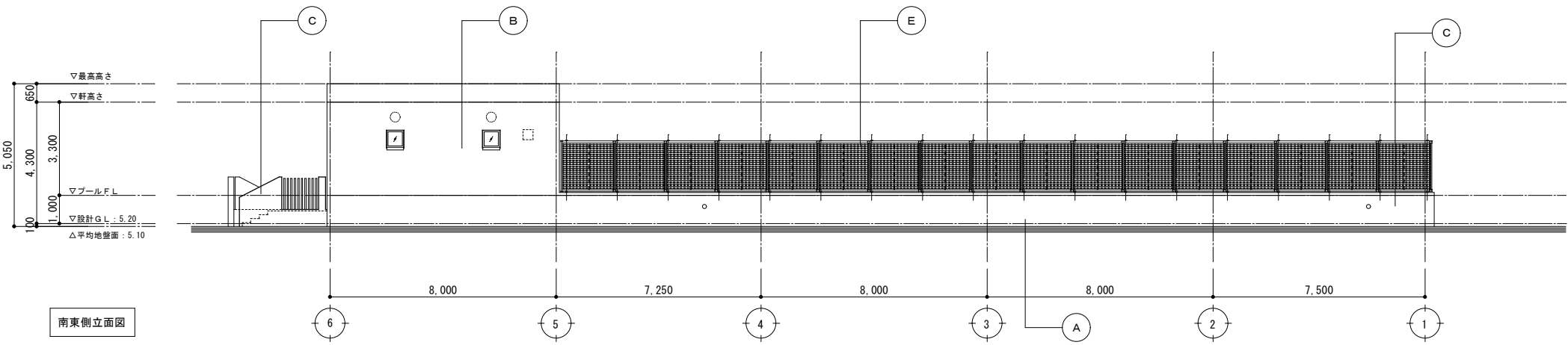
凡 例

記 号	内 容
	埋戻し
	砕石転圧 (下部スラブ)
	配管ビット (スラブ無し)
	通水管 (150φ/2) 上部 通気管100φ
	外部通気管 (100φ SUS防虫網・ガラリ付)
	人通孔 (500φ) 上部SUSタラップ 取付け
	釜場1000W×600P×800H
	上部点検口600口SUS製タラップ
	水抜きパイプ (40φ/2) ※プール下部

■特記事項

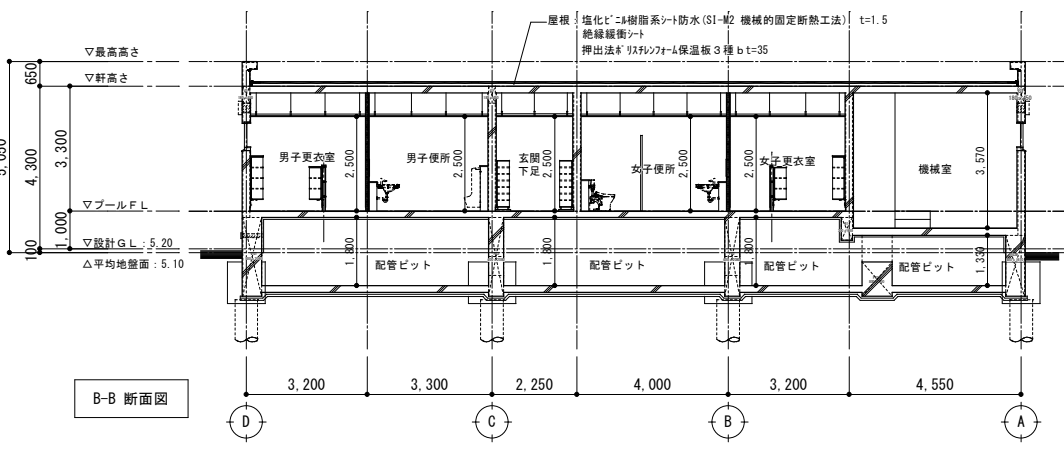
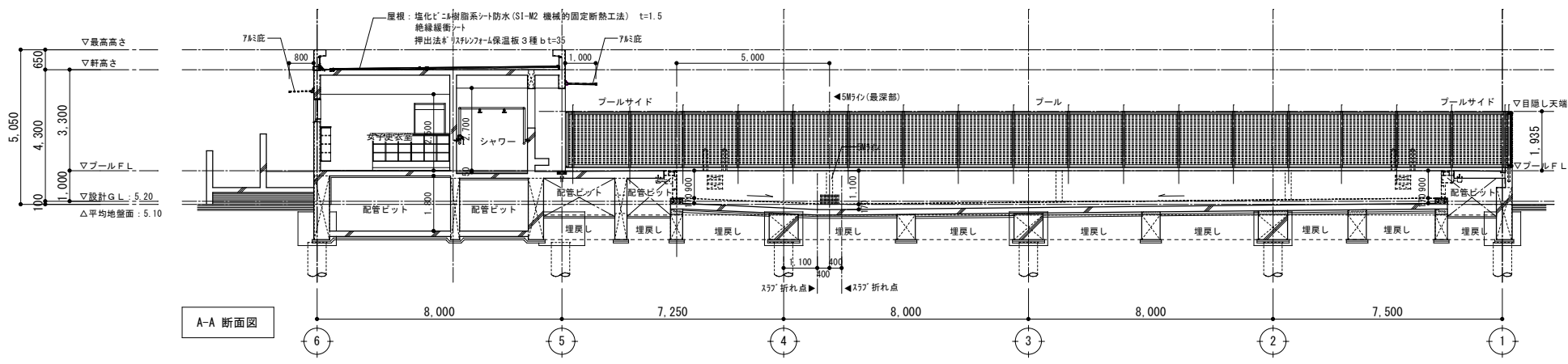
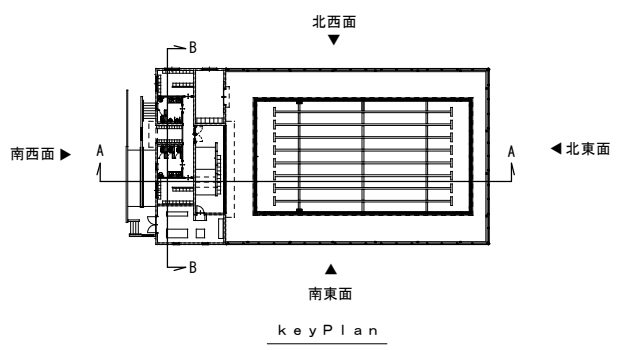
- ・地中部分コンクリート打継箇所は止水板を使用すること。
- ・ビット内排水勾配は1/150~1/200とし、釜場まで導くものとする。
- ・ビット・釜場は床:コンクリートコテ押え、壁:打放し補修とする。
- ・地中梁スリーブ貫通位置は係員と協議の上、決定すること。
- ・通水管、通気管はVP管とする。
- ・地下水位はボーリングデータより設計GL (TP)-3.56m付近とする。
- ・プール固定用のアンカープレートはプール図を参照すること。

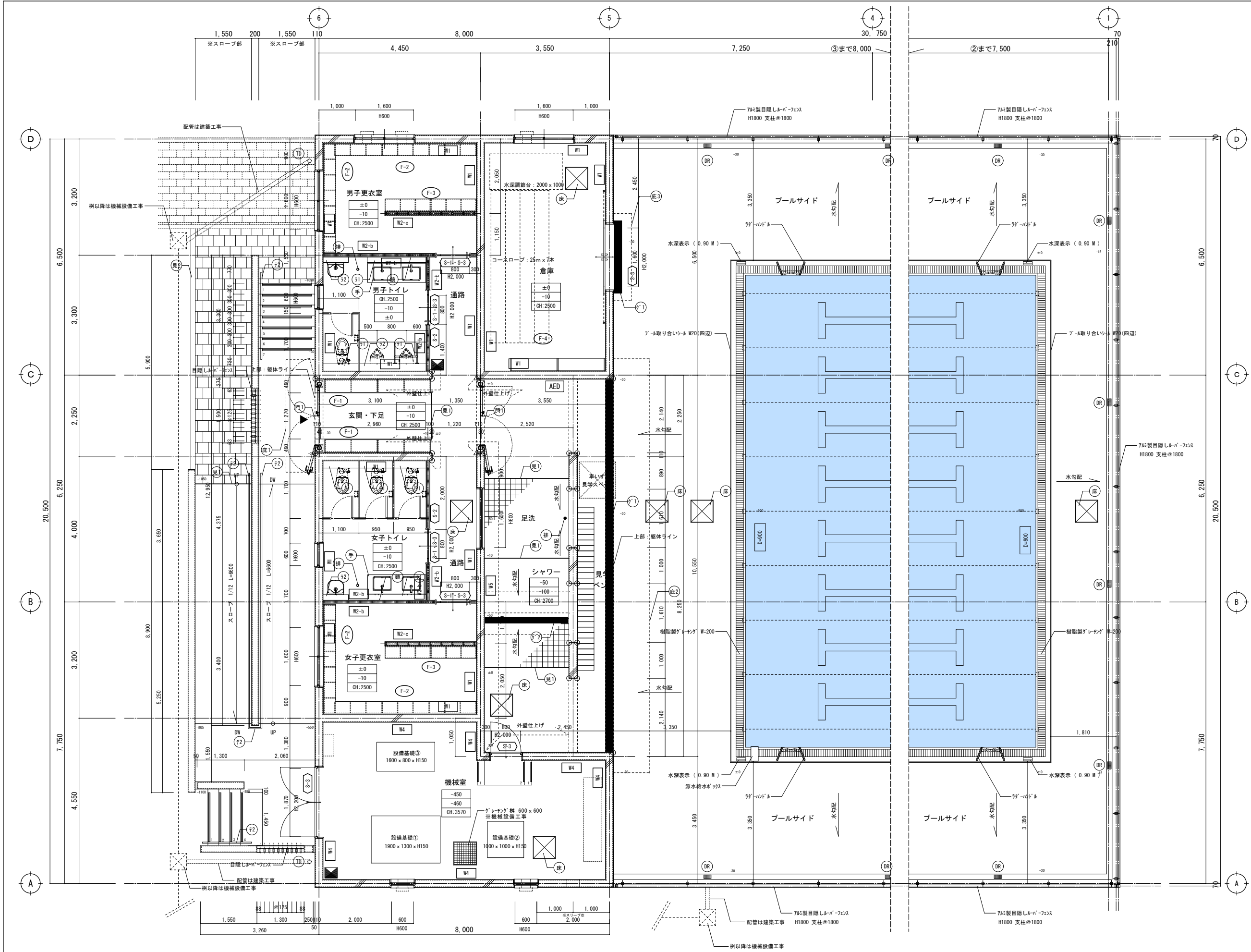
A3	7カ所	雨水用	スリーブ補強	φ175
E1	15カ所	電気用	スリーブ補強	φ100
M1	7カ所	機械用	スリーブ補強	φ100
M2	8カ所	機械用	スリーブ補強	φ150
M3	10カ所	機械用	スリーブ補強	φ175
M4	1カ所	機械用	スリーブ補強	φ200



記号	仕 上
(A)	外巾木：高速透形吸水防止コンクリート打放し（A種）アクリルシリコン樹脂クリヤ仕上
(B)	外壁A：単層弾性塗材 防水形外装薄塗材E
(C)	外壁B：薄付仕上塗材 外装薄塗材E（AICA ジョリバット同等品）
(D)	庇：アルミ庇（アルフィン AD2-2同等品）
(E)	目隠し：アルミ目隠しルーバー（L1X1L オブリークフェンスRB型同等品）
(F)	ルーバー：人工再生木ルーバー（45×90）
	手摺：スチール製縦格子手摺り 溶融亜鉛メッキ リン酸処理
	縦樋：カラーVP φ100

■特記事項

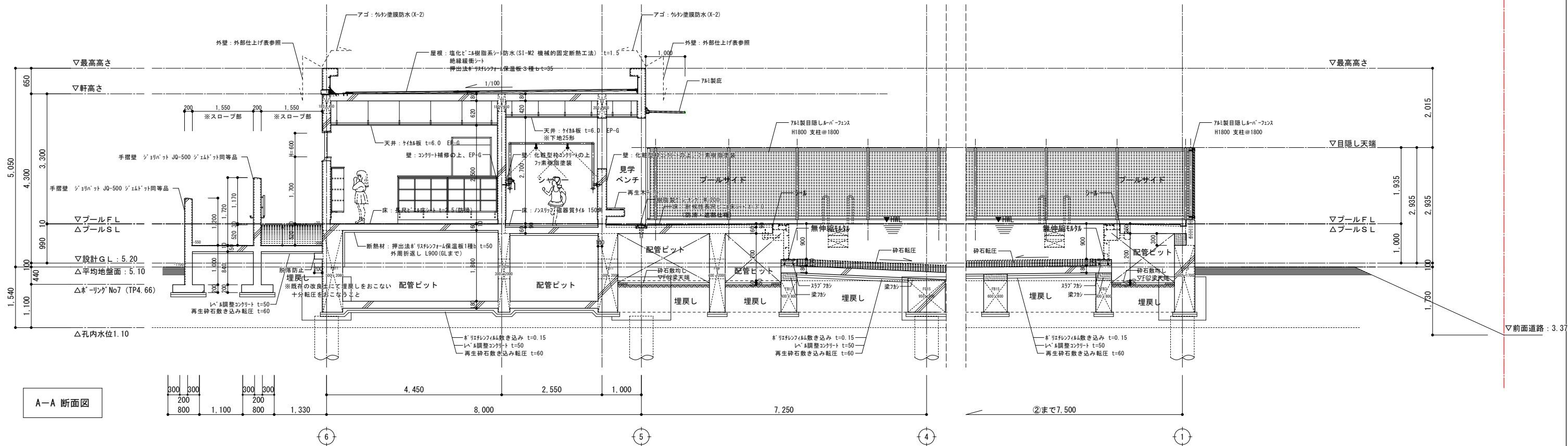




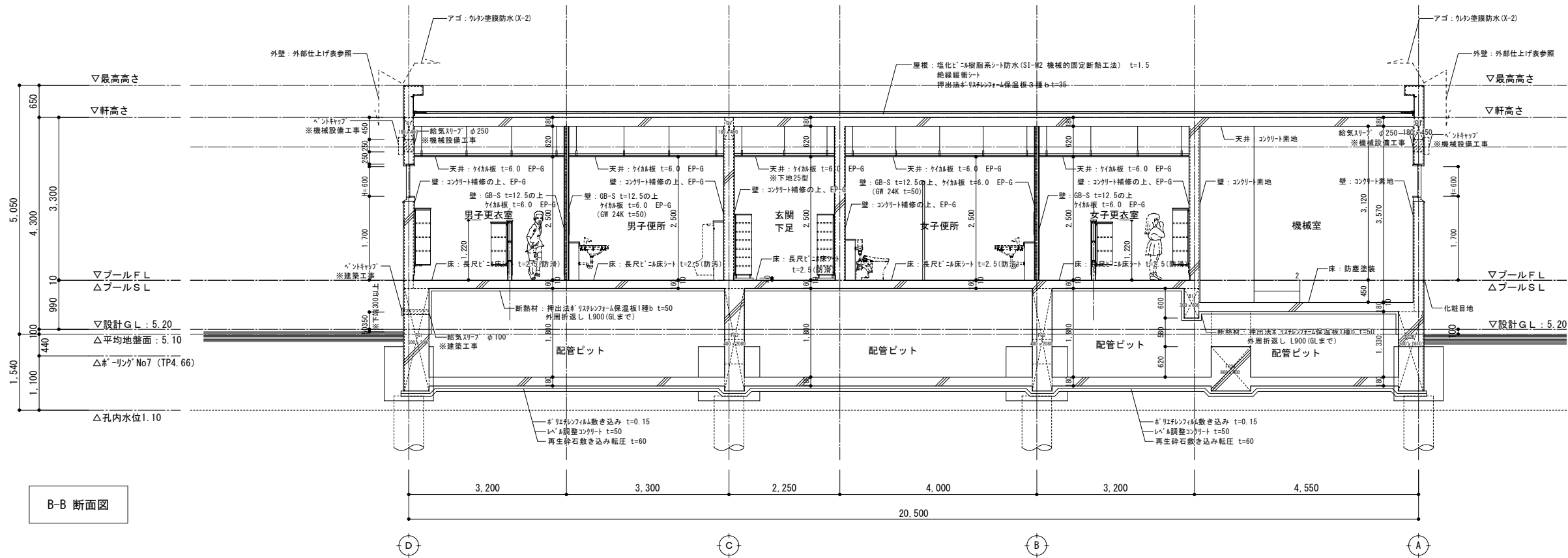
凡 例	
	延焼の恐れのある部分
	屋外への出口の位置 (各室からの歩行距離100m以下)
	消火器SUS設置型 (A B C 粉末10型) (歩行距離20m以内に設置)
	自動体外式除細動器 (壁掛け) ※備品
	備品
	コーナー面取り
	壁内ガラスウール充填 t=50 24kg品
	建具符号
	家具符号
	サイン記号
	壁符号
	窓 カラーVP φ100
	ルーフトレイン横引型
	ドレイン縦75型
	手洗いカウンター
	化粧鏡 角型 耐食鏡 600×450
	ライニングカウンター H=800
	ライニングカウンター H=1200
	小便器用補助手摺
	スリ手摺 1/2融垂鉛処理 H750
	床点検口 600角 SUS HL 壁付 防水防臭
	見切り t=6 SUS HL
	地先境界ブロッケ 120
	ブール用樹脂ゲレチンゲ W=200
	ブール用樹脂ゲレチンゲ W=150
	排水目皿 φ50 SUS 蓋付
	間引き扉 W1760×H2000 AL 下部戸当たりゴム
	7A:製目隠しカーテン W3100×D800
	7A:製目隠しカーテン W1400×D1000
	7A:製目隠しカーテン W2400×D500
■特記事項	
・小便器: ラインゲから600mmを汚濁範囲とし、長尺シートを張り分けること。(青色系)	
・機械室: 設備基礎の配置は係員と協議の上、調整・決定すること。	
・床・天井点検口は係員と協議の上、調整・決定すること。	

±0	→FL: 床レベル
-150	→SL: 下地レベル
CH:3000	→天井高さ
※FL基準	

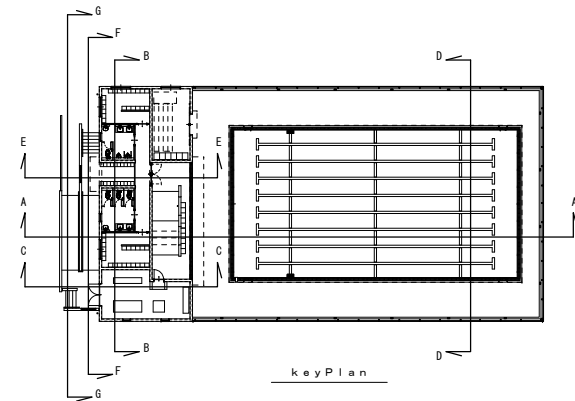
壁 凡 例	
仕 上 げ	
W 1	コンクリート補修 EP-G
W 2	ケイカル板 t6.0 EP-G
W 3	欠番
W 4	コンクリート 素地
W 5	化粧型枠コンクリート フッ素樹脂塗装
下 地	
a	LGS + GB-S t12.5
b	LGS (GW24K t50) + GB-S t12.5
c	3:3 St C60×30×10 t2.3 @450 3:3 St C60×30×10 t2.3 @303
(特記なき限り4.0m以下はLGS65型)	

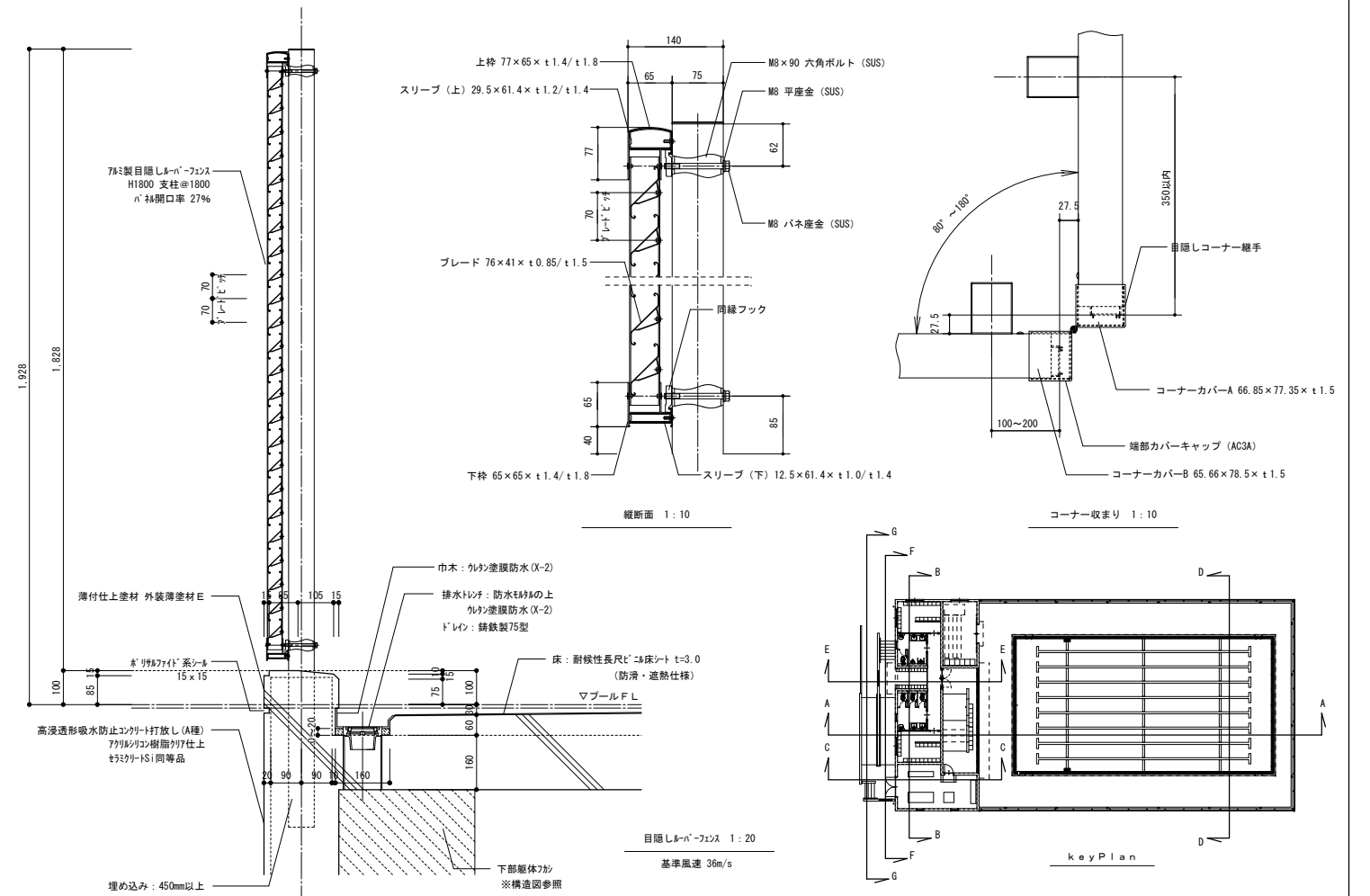
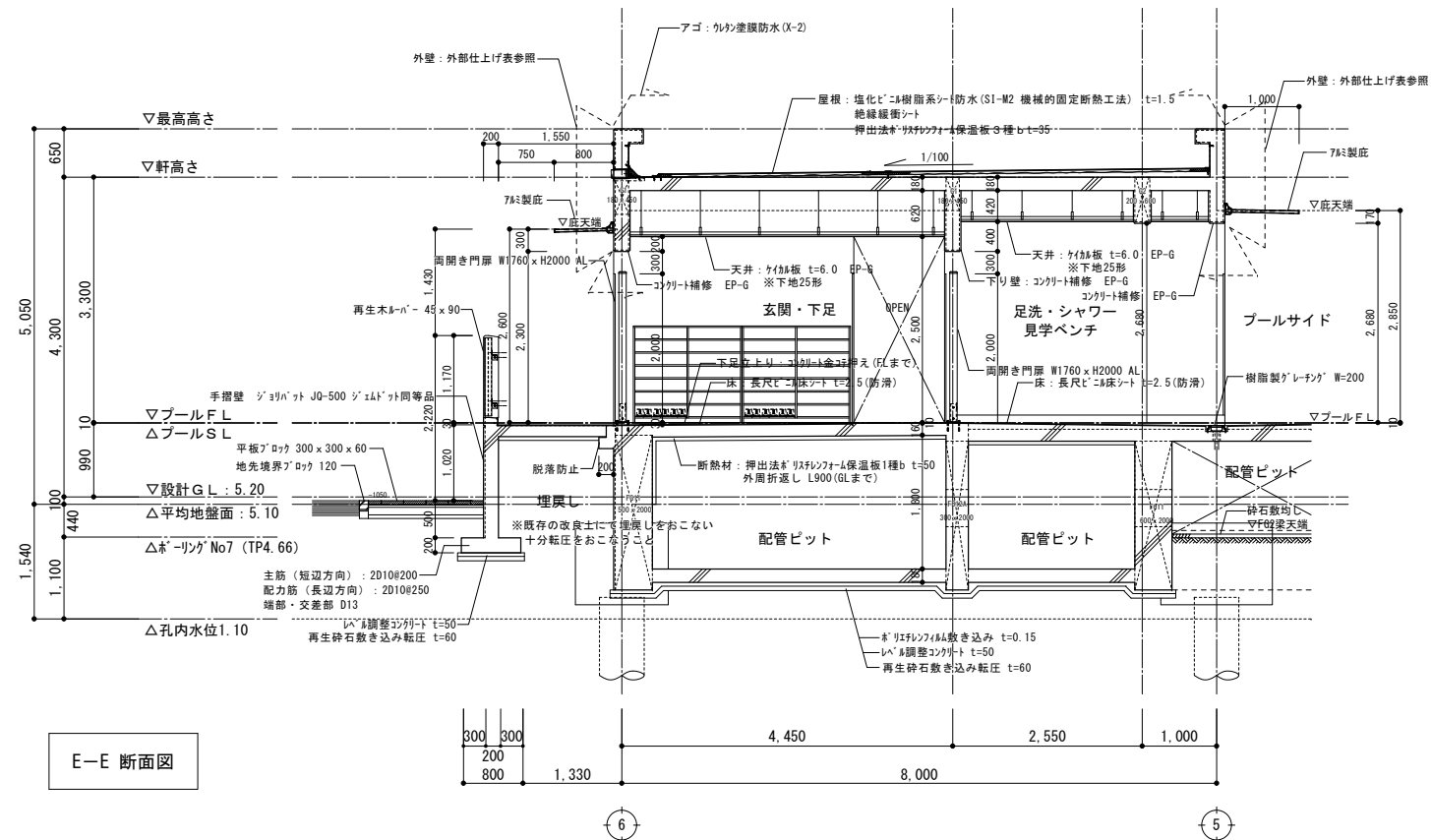
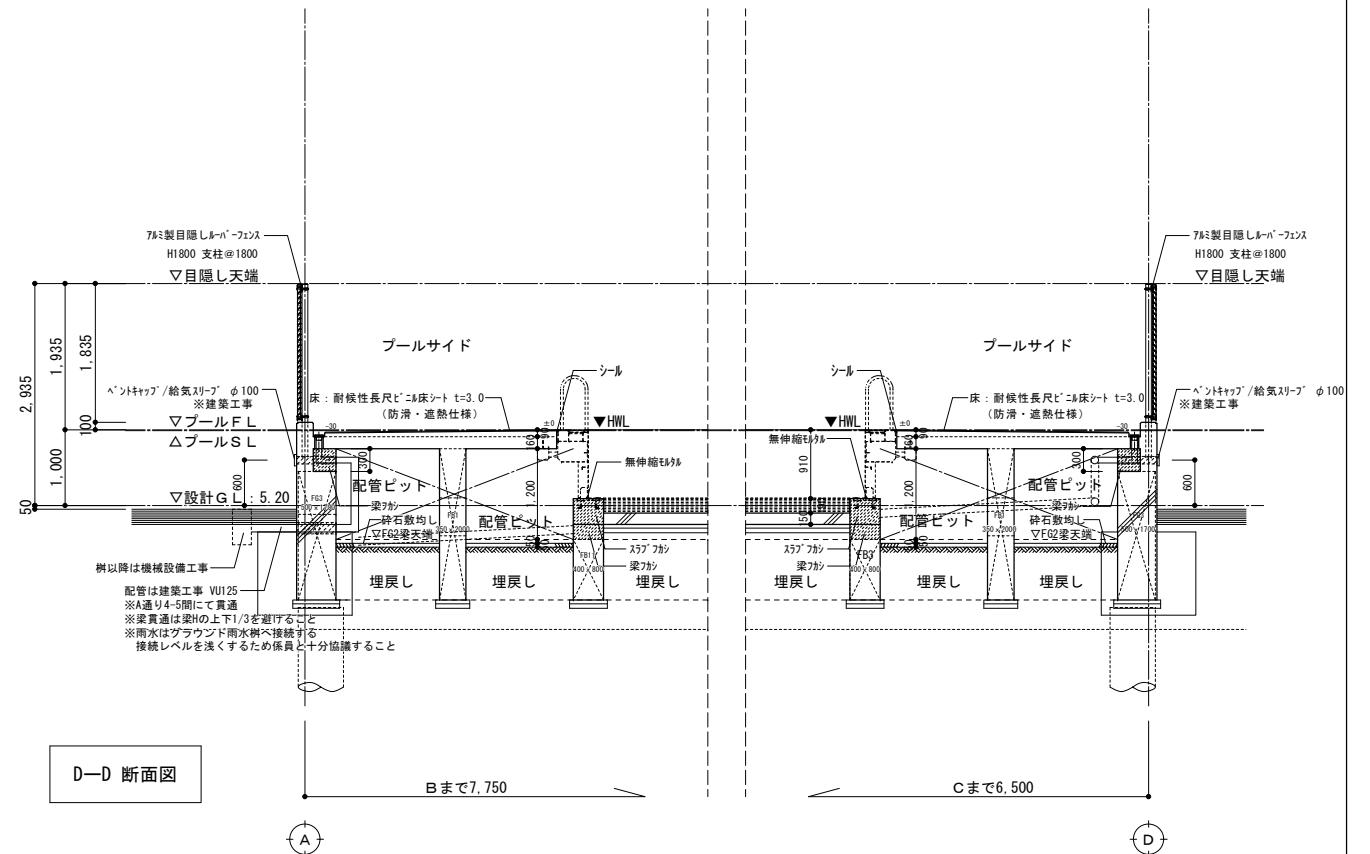
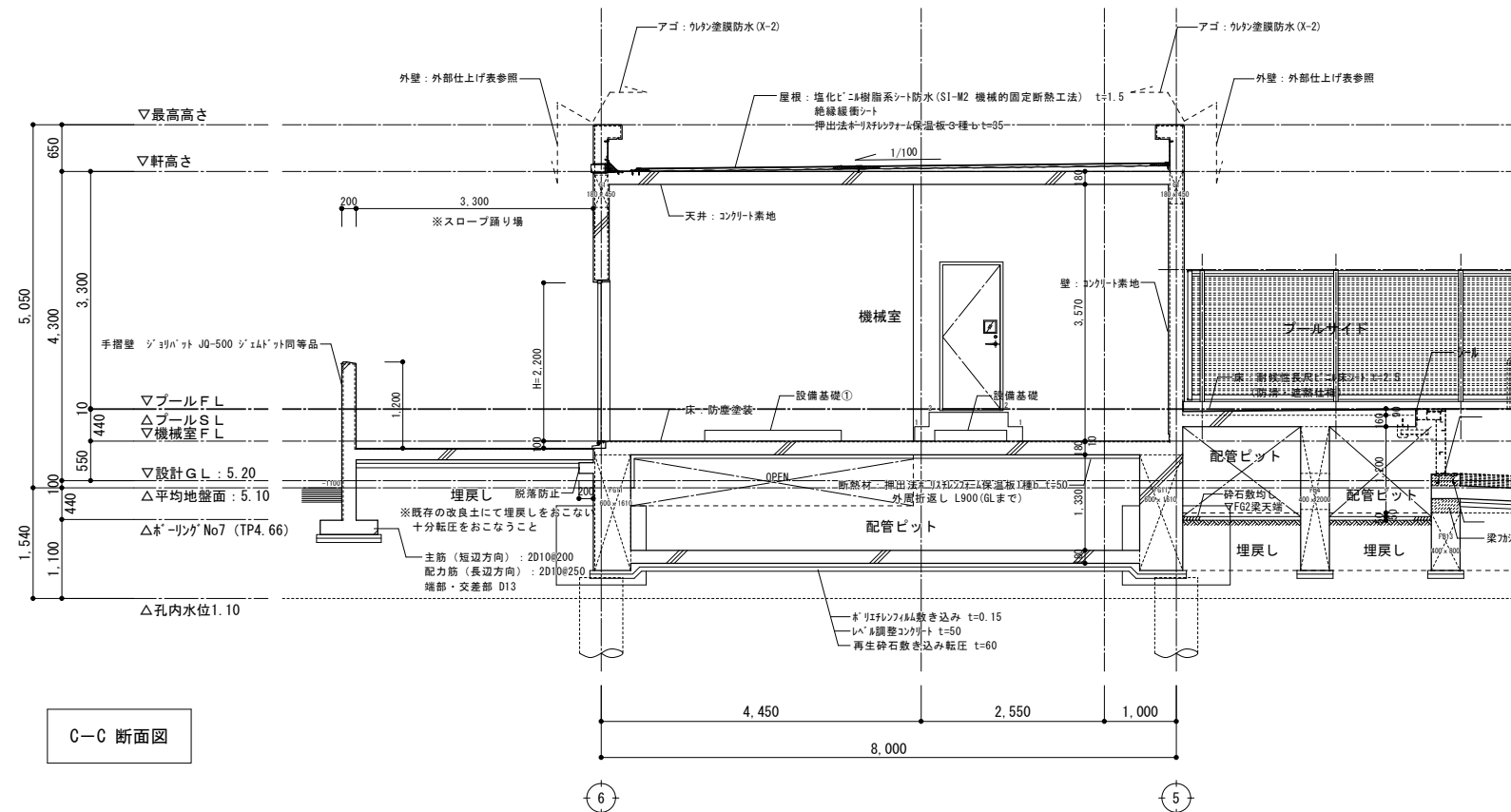


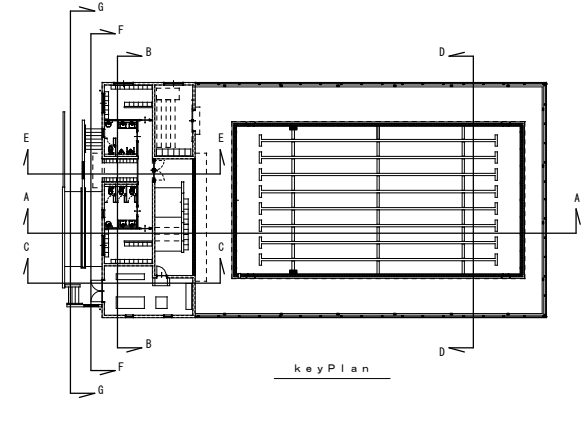
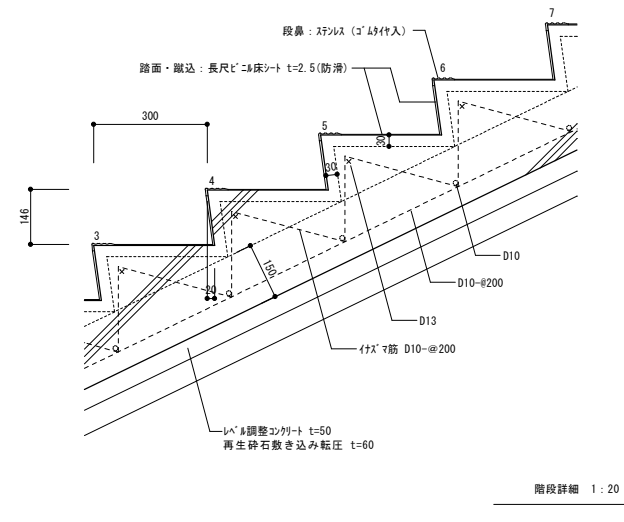
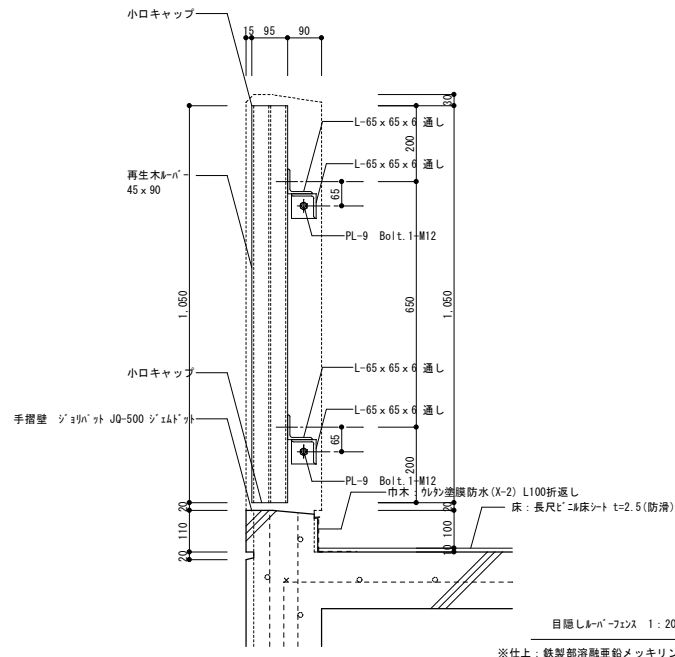
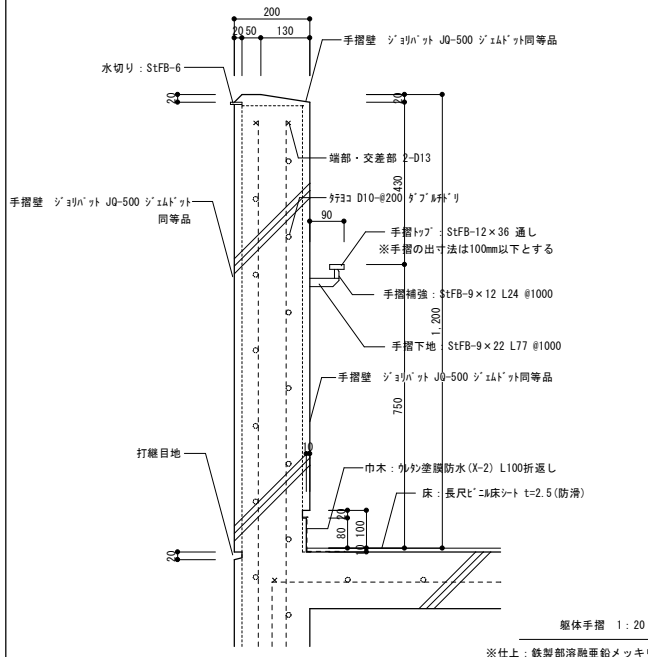
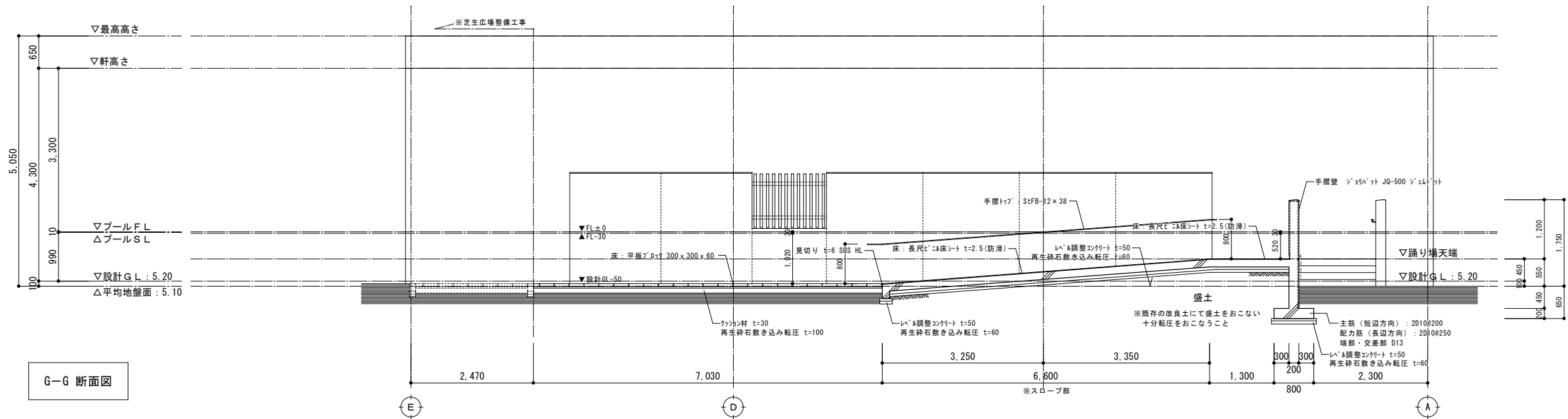
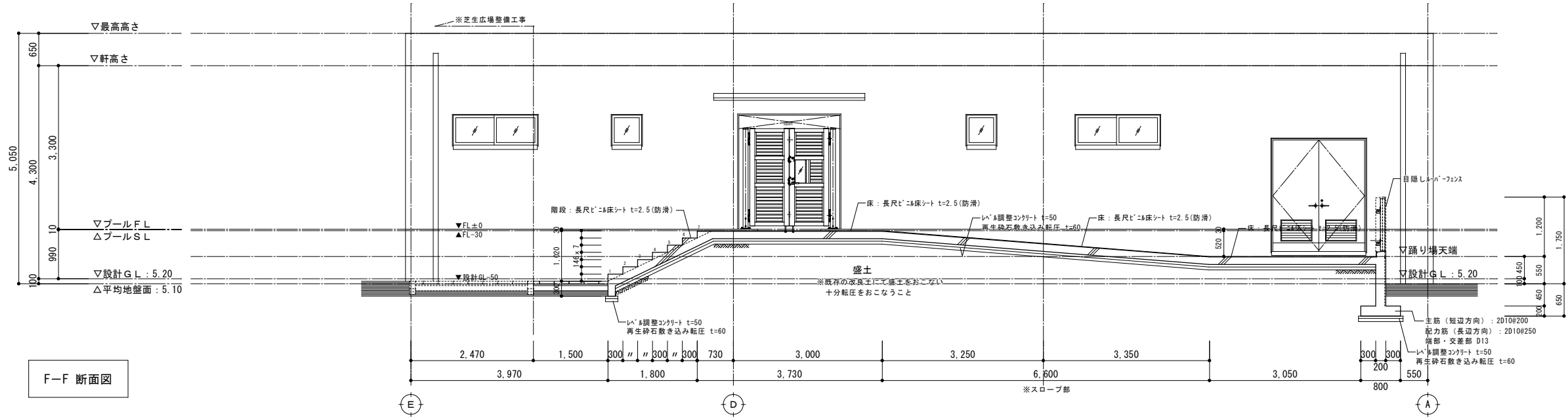
A-A 断面図

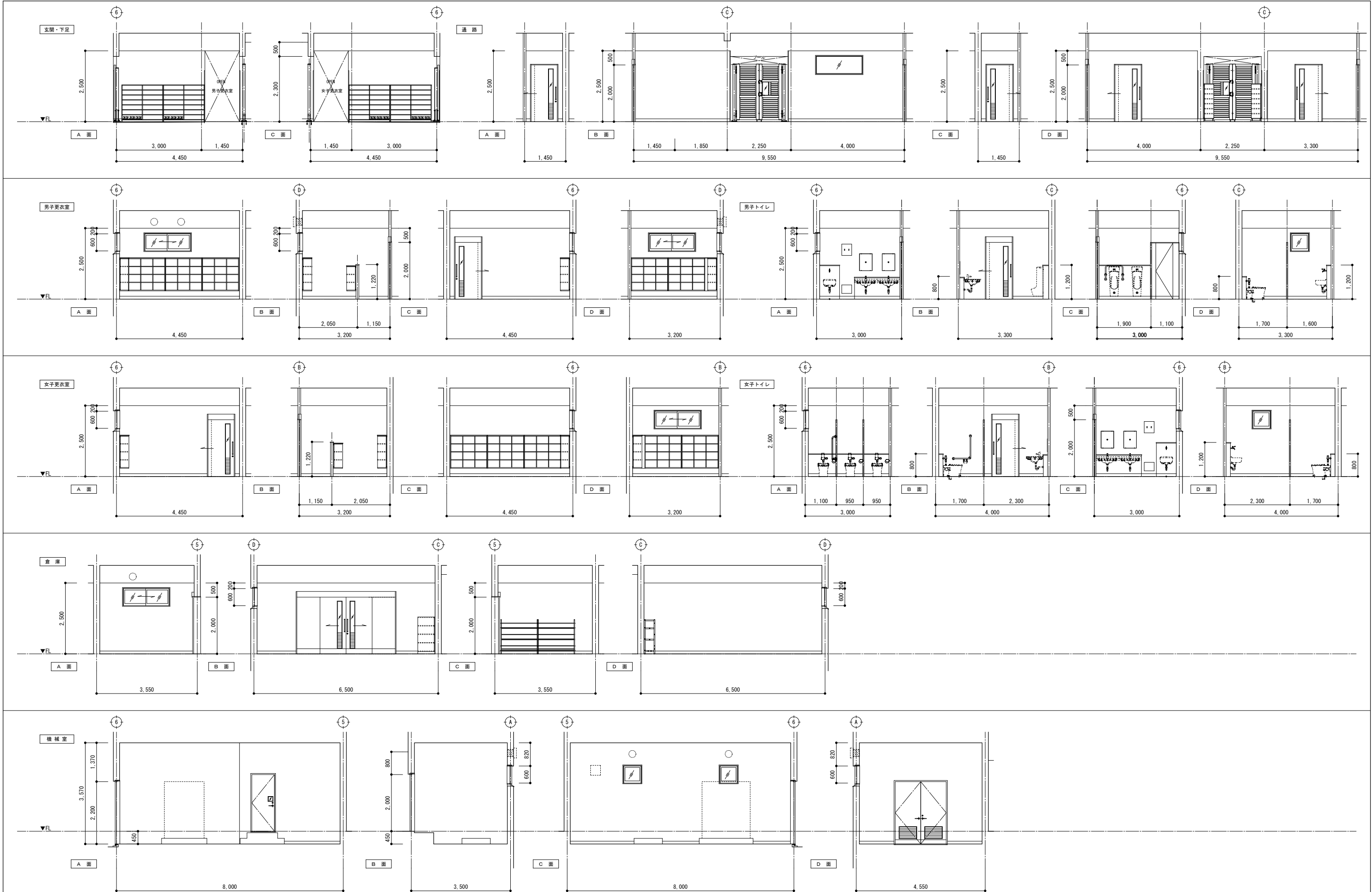


B-B 断面図









1. 一般共通事項

- 1） 建具共通事項は特に図示がない場合に適用する。設計図書の優先順位は、特記仕様書、建具リスト、建具特記仕様書とする。
- 2） 建具寸法は、特記なき限り枠内寸法とする。
- ~~3）カーテンウォールの仕様は、17章カーテンウォール工事特記仕様書による。~~
- ~~4）飛散防止フィルムの範囲は、建具表及び16章建具工事特記仕様書による。~~
- ~~5）外部建具枠裏面は発泡ウレタン又はグライトt=3.0にて断熱処理を行う。~~
- 6） シーリングはダブルシーリング変性シリコン系20×10とする。シングルシール納り部位が出る場合、監理者と協議のこと。
- 7） 外部に面するガラリには、雨水受カバー（材種SUS）及び防虫網（ステンレス10メッシュ）を設ける。
- 8） 全ての窓部分には、原則として結露受を取付、はめ殺し窓には水抜き（φ5mm以上）とする。
- 9） ガラス押えには特記がない限りシーリング（シリコン系）とし、目地厚は6mm以上とする。
- 10） 握玉、レバーハンドルの高さは、特記がない場合FL+900mmとする。
- 11） 引手の高さは、特記がない場合FL+1000mmを中心とする。
- 12） クレセントの高さは、特記がない場合FL+1400mmとする。
- 13） サムターン、ドアラッチの高さは、特記がない場合FL+900mmとする。（レバーハンドルは上部、引手は下部）
- 14） 排煙窓オペレータの高さは、FL+1500mm以下とし、特記がない場合FL+1400mmとする。
- 15） 外部に面するガラリでダクトと接続する場合は、ダクト取付け枠は建築工事とする。
- 16） 各建具の鍵本数は原則として各組3本とする。
- 17） キーシステムは下記によるものとする。※ただし校舎側の仕様に準じること
- グランドマスターキー（GMK）3本/組

○ マスターキー（外部共用）（MK）3本/組ずつ

● マスターキーなし

● コンストラクションキー

● 鍵箱

● 無

● 有（材種、形状 スチール製（120組用×2）

● 自動ドアの種類は下記による。

● 熱線

● 遠赤外線反射方式

● 反射型○方式
2. アルミニウム製建具共通事項
- ~~1）建具と膳板・額縁の隙間には結露防止断熱材を入れること。~~

~~2）排煙窓の操作ワイヤー等は、枠内隠蔽式とする。~~

3） 縦枠、下部小口にプラスチックカバーとすること。
- 建具性能JIS等級別による区分は下記による。
- | 性能区分 | 記 号 | 耐 風 圧 性 | 気 密 性 | 水 密 性 | 遮 音 | 断 熱 性 |
|---------------|----------------|----------------|-------|--------------------|----------------|-------|
| 普通サッシ
普通ドア | <div>n 1</div> | S-4 | A-3 | <div>W-5</div> W-4 | <div>T-1</div> | |
| | n 2 | <div>S-5</div> | | | T-2 | |
| | n 3 | S-6 | | | | |
| | n 4 | S-7 | | | | |
| 防音サッシ
防音ドア | s 1 | S-5 | A-4 | W-5 | T-2 | |
| | s 2 | S-6 | | W-4 | T-3 | |
| | s 3 | S-7 | | | T-4 | |
| 断熱サッシ
断熱ドア | h 1 | S-5 | A-3 | W-5 | T-1 | |
| | h 2 | 280 | A-4 | W-4 | T-2 | |
| | h 3 | 360 | | | | |
3. 鋼製建具、鋼製軽量建具、ステンレス建具共通事項
- 1） 査摺はSUS304HL t=2.0とする。

2） 寒冷地の場合は、外部扉の査摺に結露受けを設ける。

~~3）T・A・T・SA干扉はフラッシュ扉とし、枠の四隅には曲げ加工による溝を設け、クロロブレン、ゴム等の気密材は四辺をつなげる。~~

~~4）干扉はドア厚≧45mmとし、ロッキング（150kg/m³）を充填し、枠にはモルタルを隙間なく充填する。性能は16章建具工事特記仕様書による。~~

~~5）干扉は特記なき限り廊下に面する場合は、遮音性能JIS等級T-2程度とし、居室に面する場合はT-4程度とする。~~

~~6）A・T扉は特記なき限り気密性能JIS等級A-4程度・水密性能JIS等級W-4程度とする。~~

~~7）SA・T扉は特記なき限り標仕の簡易気密型ドアセットとする。~~

8） 鋼製扉は、ドア厚40mm以上とし、鋼製軽量建具は、ドア厚35mm以上とする。

9） 厨房、浴室、プール等の水がかり部のSD、LSD扉枠及び三方枠特記なき限りSUS（2-ASE）とする。

10） 外部に面するSDの枠は特記なき限りSUS（2-ASE）とする。

11） 鋼製建具の開き戸・引き戸の枠には戸当りゴムを取付ける。

12） 上部に庇のない外部扉は、上枠に水切金物（SUS304 t=1.5 出寸法30mm程度）を取付ける。

13） 鋼製軽量扉及び外部鋼製扉の小口包みは表面材を曲げこむ。

14） 建具下部スチールプレートに糸面取りをする。

15） 引き戸・開き戸には指詰め防止機構を装備すること。

~~16）ステンレス製建具は、角出し曲げ加工（裏面補強）とする。~~

17） 防火区画上のガラリにはFDを設置すること。※ダクトFDとする場合はその部分まで防火性能を満たすこと。

18） 外部に面する又は水がかり部のSD及びLD扉はFLからH=300までの範囲をSUS（2-ASE）とし、その他の部位はST（2-ASE）とし、その他の部位はST（2-ASE）とする。

19） 外部建具枠と躯体取合いシールはダブルシールとする。

20） 建具と膳板・額縁の隙間には結露防止断熱材を入れること。

21） 外部に面する建具（引戸）には隙間から虫の侵入を防ぐためモヘヤ等を取付ける。
4. 建具用金物共通事項
- 1） アルミニウム製建具の建具金物は下記を取り付ける。
- | 開閉方式 | 支持金物 | 錠 | その他 |
|--------|--------------------------|---------------------------|------------------------|
| 引違い窓 | 戸車およびレール | レバーハンドル型クレセント | 引手、進入口は進入口用クレセント |
| 片引き窓 | 戸車およびレール | レバーハンドル型クレセント
引き寄せハンドル | ストッパー、引手、進入口は進入口用クレセント |
| 片開き窓 | 丁番 | 引き寄せハンドル | 突出し棒、開き位置調整器、アームストッパー |
| すべり出し窓 | 横すべり出しピボット
縦すべり出しピボット | 引き寄せハンドル | 開き位置調整器、アームストッパー |
| 回転窓 | 横軸・縦軸 | トップラッチ | フック棒、角度調整器、進入口は内外ハンドル |
- 2） 鋼製・SUS製扉の建具金物は下記を取り付ける。
- | 基本性能・開閉方式 | 支持金物 | 錠 | 付属金物 |
|-----------|----------------------------------|--------------------|---|
| 外部：片開き戸 | T番（SUS） | シリンダー箱状
本締り錠 | レバーハンドル、ドアクローザー、戸当り・あおり止め |
| 外部：面開き戸 | T番（SUS） | シリンダー箱状
本締り錠 | レバーハンドル、ドアクローザー、フランス落とし
戸当り・あおり止め |
| 内部：片開き戸 | T番（SUS）
型枠付ピボットヒンジ
フロアーヒンジ | シリンダー箱状
本締り錠 | レバーハンドル、ドアクローザー、戸当り |
| 内部：面開き戸 | T番（SUS）
型枠付ピボットヒンジ
フロアーヒンジ | シリンダー箱状
本締り錠 | レバーハンドル、ドアクローザー、フランス落とし
戸当り |
| 引戸 | ハンガーレール
ハンガーローラー | 引戸用錠 | 引手、フレ止めローラー、戸当り、引戸クローザー
（電気式、空気圧式、油圧式）、自閉式上吊り
引戸、制震センサー、戸当りブロック |
| 気密・遮音扉 | T番（SUS） | シリンダー型込箱錠
グレモン錠 | ドアクローザー、フランス落とし、戸当り |
| 壁埋込型防火戸 | 軸吊型オートヒンジ | — | ケースハンドルまたは据込引手
戸袋保持金物（マグホルド、電磁ホルド） |
| 壁埋込型防火折戸 | 軸吊型オートヒンジ
フロアーヒンジ | — | 折戸保持装置（ドアキャッチ）、ケースハンドル
または据込引手、フランス落とし、戸袋保持金物
（マグホルド、電磁ホルド） |
| トイレブース扉 | ラバトリールヒンジ
グラビティヒンジ | リムボルト
ストライクボルト | ハンガー付戸当り、昇板・引手 |
| 点検口 | 中心吊
スプリングヒンジ | 点検錠 | ケースハンドルまたは据込引手
アームストッパー、鎖 |
- 3） レバーハンドルは、SUS HLとする。（ユニオン UL232001S同等品）
レバーハンドル75mm程度とする。

4） 引手の長さは、特記による。L≧1800の場合はユニオン T2081同等品。
特記によるL＝700の場合はユニオン T3321同等品。
木製建具・軽量建具引戸にはユニオン G2096同等品とする。※外部に面する部分は係員と協議の上、決定すること。

5） シリンダー箱錠は、室内側：サムターン、廊下側：シリンダー錠とする。

~~6）電気錠の場合、1次側のカードリーダー及び配線工事は電気工事、2次側の電気錠及び通電丁番は建築工事とする。~~

7） 防火・防煙区画の両開き扉は、2枚ともドアクローザー付とし、枠埋込型閉鎖傾倒調整器を設置する。

8） 防火・防煙区画の扉はストッパーなしとし、その他の扉はストッパー付とする。

9） 防火扉以外のドアクローザーは、金具の調整により、ストッパー有無の切り替え可能とする。

~~10）戸袋付防火扉は、壁又は枠への埋込型レリーズ付とする。~~

11） 戸当りは、すべての扉に対し、壁又は床に取り付ける。
床はユニオン UT-50同等品、壁はUT-20同等品とする。

12） マスターキーはGMK付マルチマスターキーシステムとする。

~~13）換気用窓のダンパー及び操作ワイヤー・オペレーターハンドルとも隠蔽式とする。~~

~~14）木製建具（引戸）のハンガーレールはスガツネ・ポルタM60（片引き）同等品及びポルタシンクログ60（左右引分け運動）同等品とする。~~
5. 自動ドア開閉装置、自閉式吊引き戸装置共通事項
- ~~1）オートドアには、天井付光線式反射スイッチを付け、天井及び庇のない箇所は無目取り付けタイプを標準と—
—する。必要な場合、両引き戸に全半開機構付とする。~~
6. シャッター関係共通事項
- ~~1）ガイドレールには底板をつけ、材質はSUS304HLとする。~~

~~2）シャッターのステンレス部材はSUS304HLとする。~~

~~3）電動シャッターは手動併用とする。防火・防煙シャッターは手動開閉装置付とする。~~

~~4）電動シャッターは三重安全装置付とする。~~

~~5）シャッターケースは表面処理亜鉛メッキ銅板t1.6以上とする。~~

~~6）スイッチボックス類はカバーの材質をSUS304HLとする。~~
7. ガラス・ガラリ関係共通事項
- 1） 網入りガラス、合わせガラスの小口処理は、16章建具工事特記仕様書による。

2） ガラリは、外部用：ガラリ形状1類および有効開口率30％程度とする。
内部用：ガラリ形状2類および有効開口率35％以内程度とする。

3） ガラリは、枠と同材質・同仕上とする。

~~4）外部に面するガラリは室内側にSUS防鳥網（1.5mm、φ1.5mm）付、取外し可能とし、
—アルミニウム製水返しを取り付ける。~~

~~5）複層ガラスの空気層は特記なき場合は、6mmとする。~~
8. その他共通事項
- ~~1）襖及び障子の敷居は敷居すべり付とする。~~

~~2）襖の仕上は新鳥の子（和室側）→雲花紙（押入側）とし、枠は木枠にカシ―樹脂塗料塗りとする。~~

~~3）可動式防煙たれ壁はロール式とする。~~

~~4）木製建具基部は全て塗装仕上とし、特記なき限りOSとする。~~

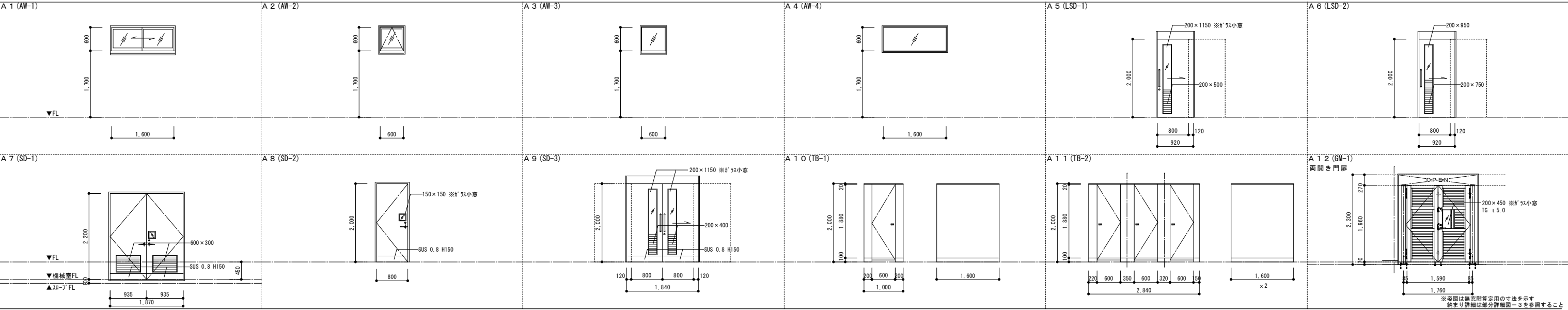
~~5）扉開口はアクリル又はFL4とし、現場監督との協議により決定するものとする。~~

6） 便所の錠・扉・引き戸は表示錠付とする。

7） 便所・更衣室への取付ガラス面は全て型板又は乳白色フィルム取付とする。

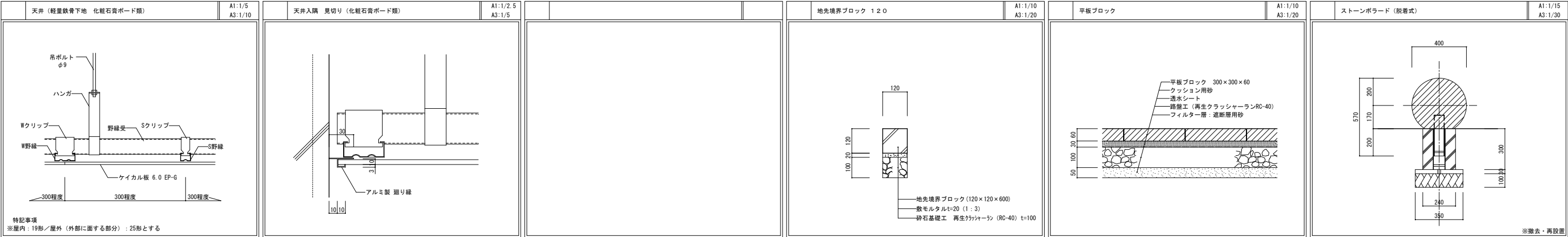
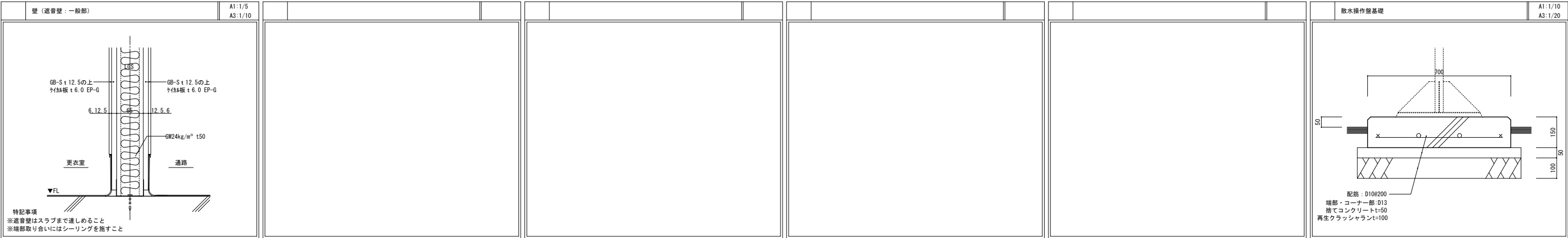
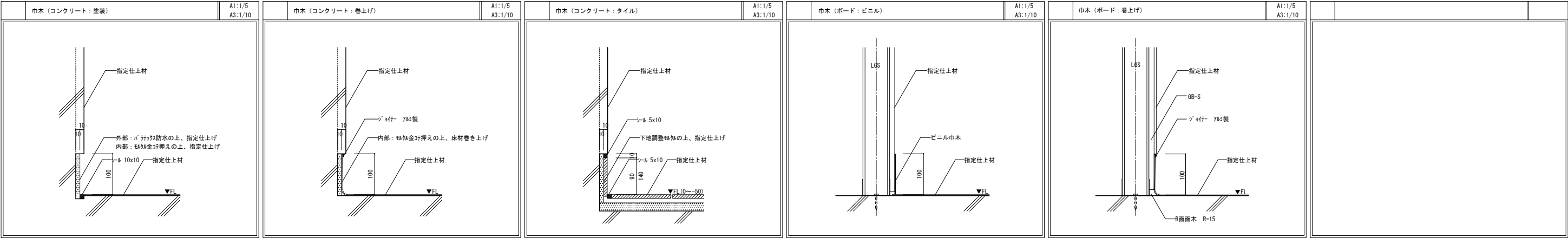
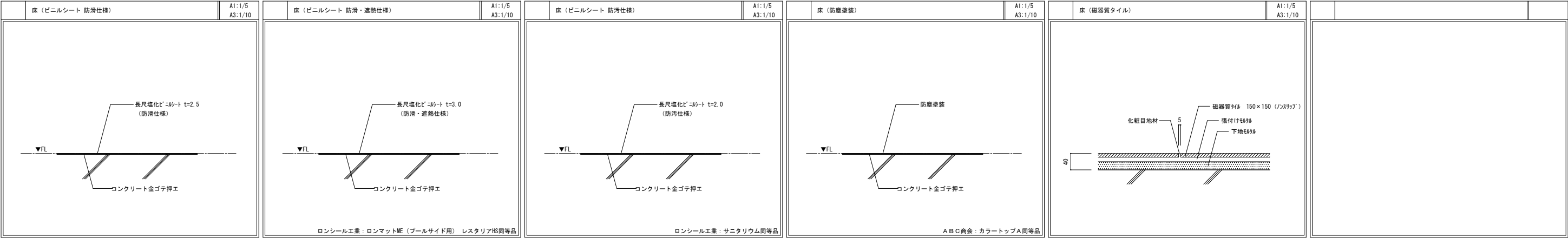
8） 網戸は特記なき限り、合成樹脂製（線径0.25mm、16～18メッシュ）とする。
9. 防犯建物部品
- 千葉市都市局建築部営繕課
- 工事名称
幕張新都心若葉住宅地区小学校（仮称）
プール新築工事
- | | |
|-------|----------|
| 設計年月日 | 令和 年 月 日 |
| 特記事項 | |
- | | |
|-------|----------|
| 変更年月日 | 令和 年 月 日 |
| 特記事項 | |
- | | |
|-------|----------|
| 変更年月日 | 令和 年 月 日 |
| 特記事項 | |
- 図
面
名
建具工事特記仕様書
- 縮
尺
NON
- 図
面
番
号
A－016

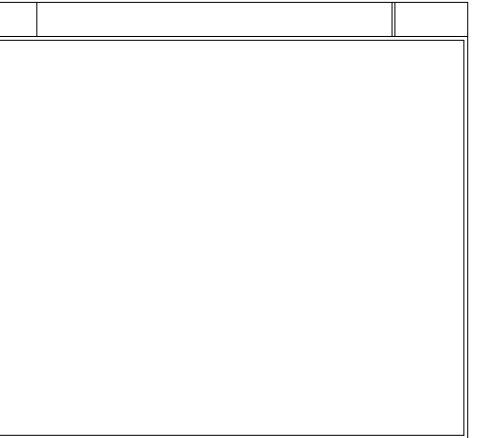
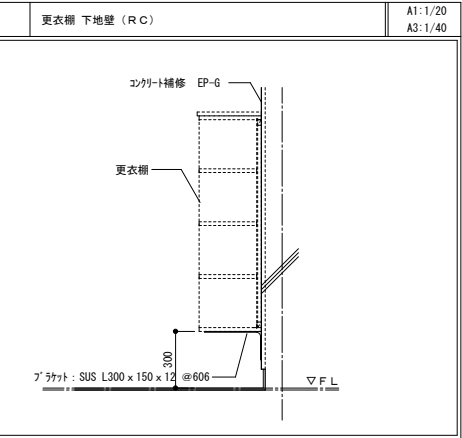
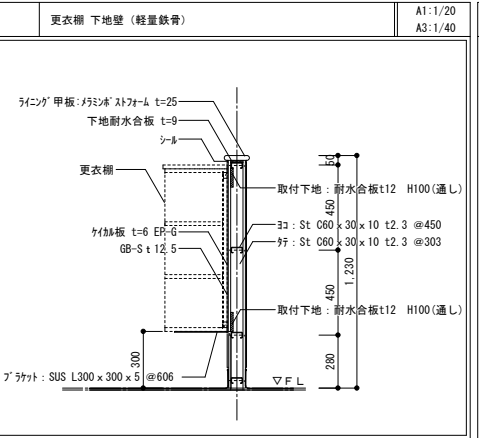
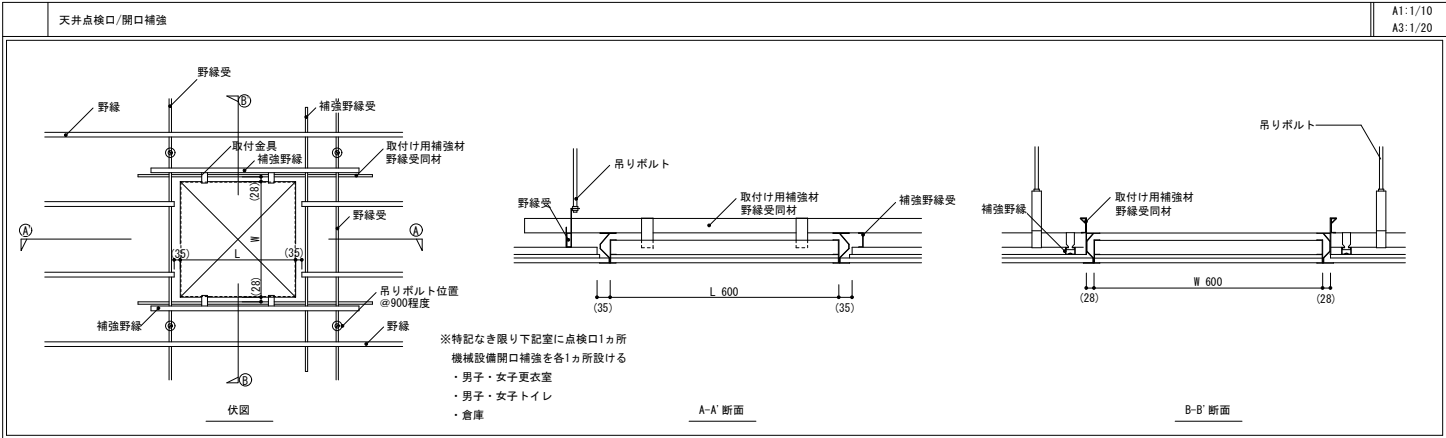
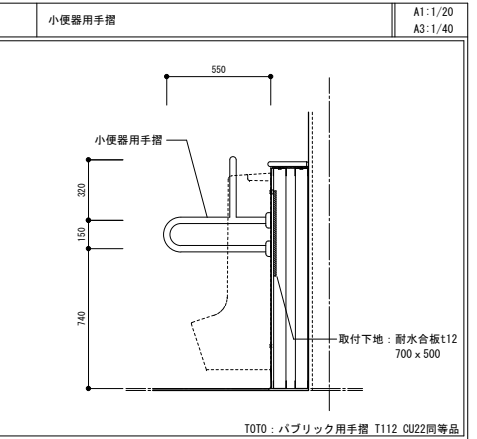
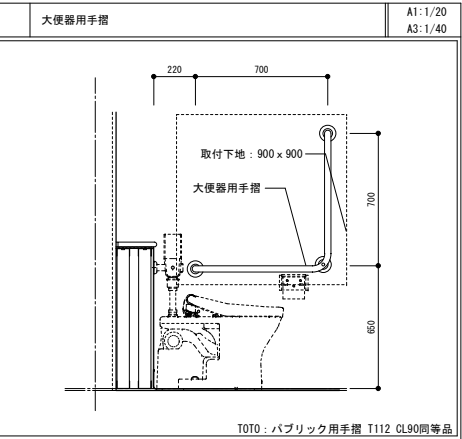
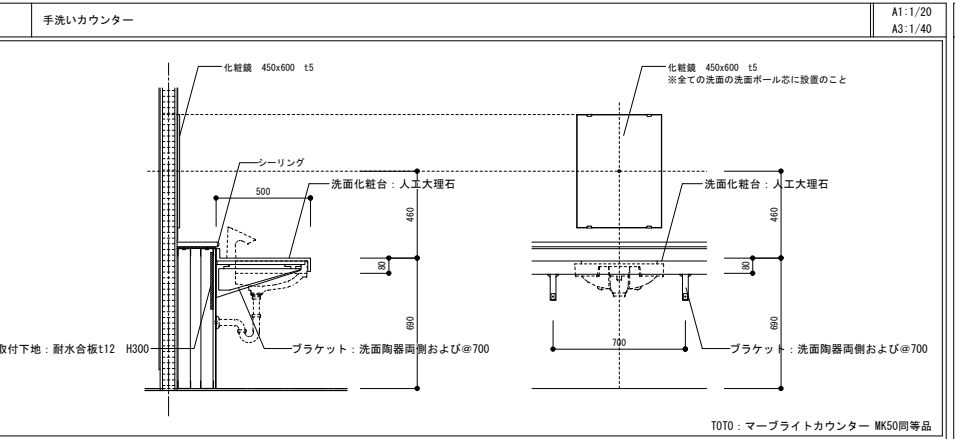
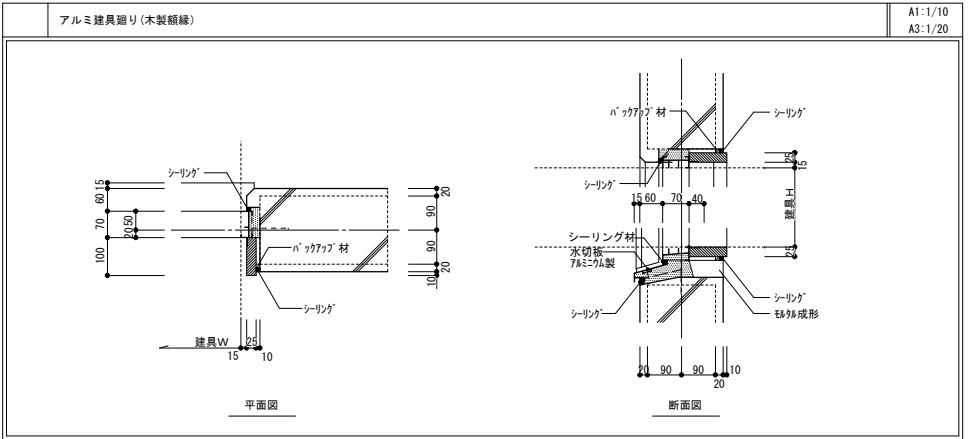
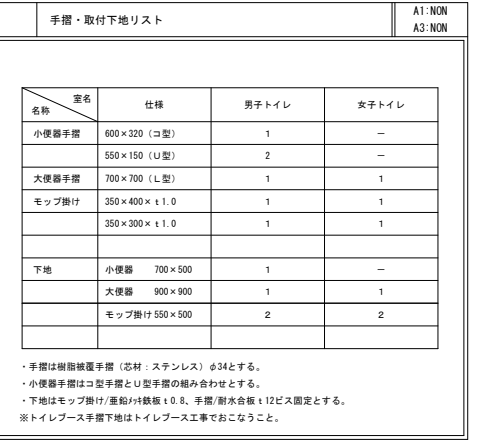
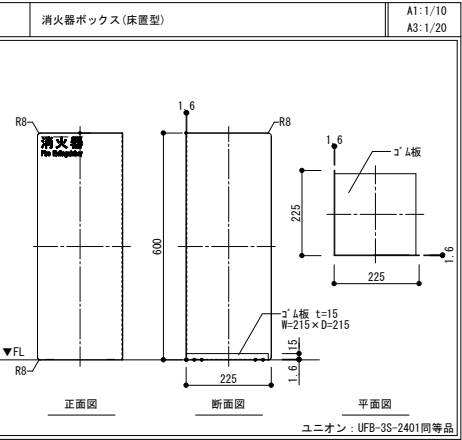
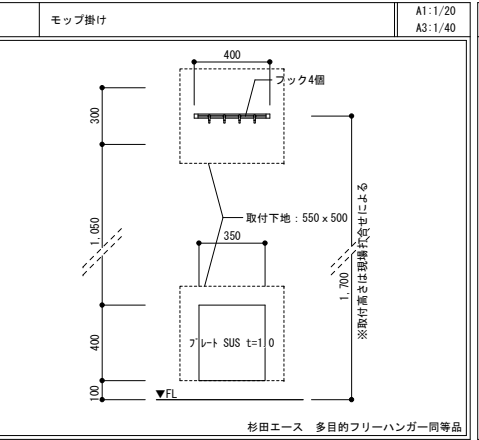
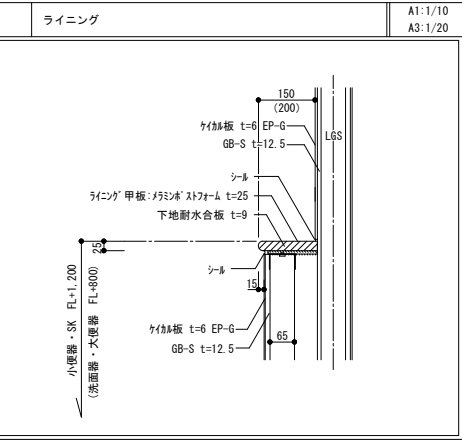
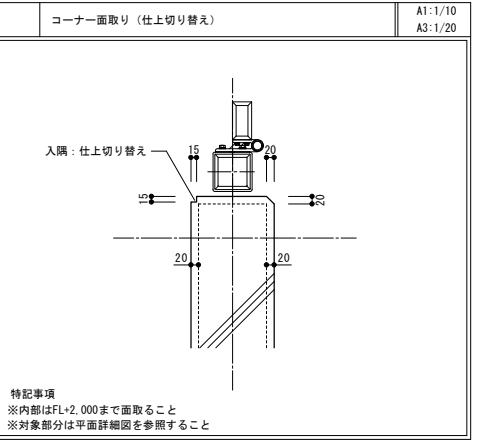
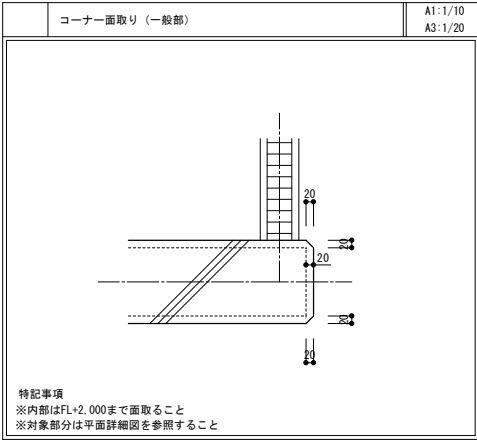
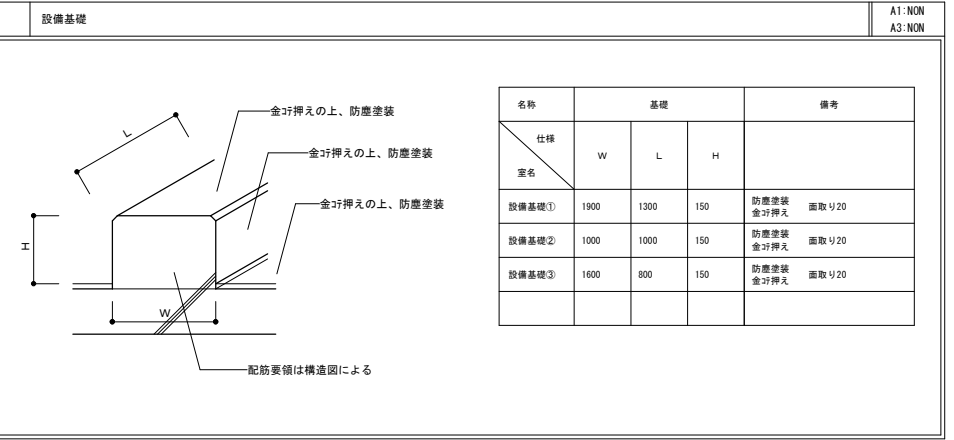
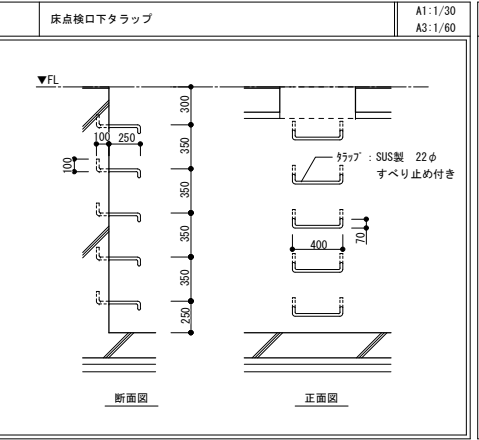
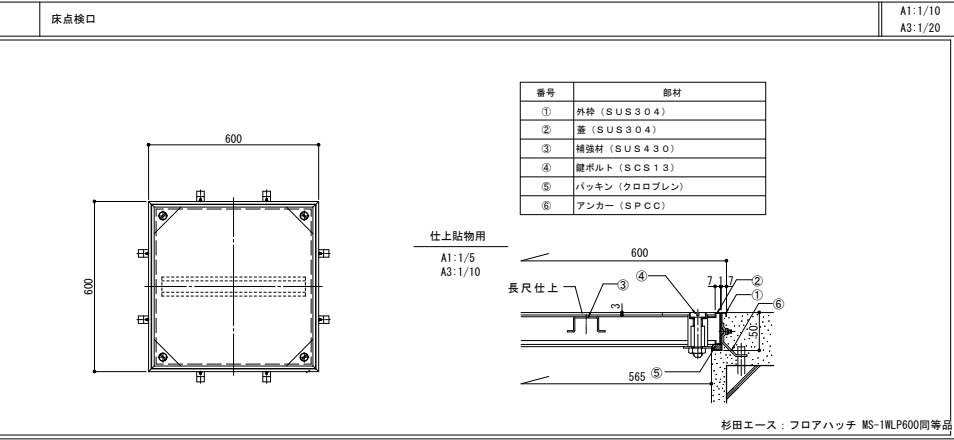
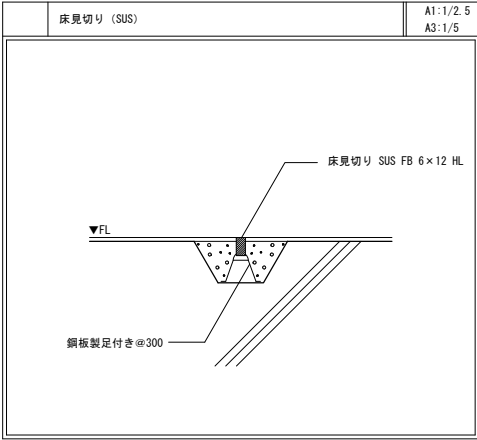
姿図・形式（扉）

[illegible][illegible]

	● 出入口ドア 枠形状				● 出入口ドア 窓柵形状				● ガラリ 羽根断面				● 建具記号				● ガラス記号				● 材種記号	● 法規制記号	● 塗装仕上記号	● 特記																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																										
凡	A	B	C	D	A	B	C	D	A	B	C	D	WD	SG	LB	WD	AG	P	SSG	SLD	AD	PVCG	CD	SSD	SS	AWW	SW	SSS	WP	FLG	FG	FWG	PWG	TG	FTG	HG	RG	HTG	GB	A	W	P	AL	SUS	S	L	M	OS	CL	DP	UC	SOP	CE	UE	B-U E	B-A E	B-F U E	特：特定防火設備 防：防火設備（網入ガラス）	・はき出し下枠は SUS とする ・網戸対応サッシとする																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
例																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
					(な L)	(FB 5-20)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												

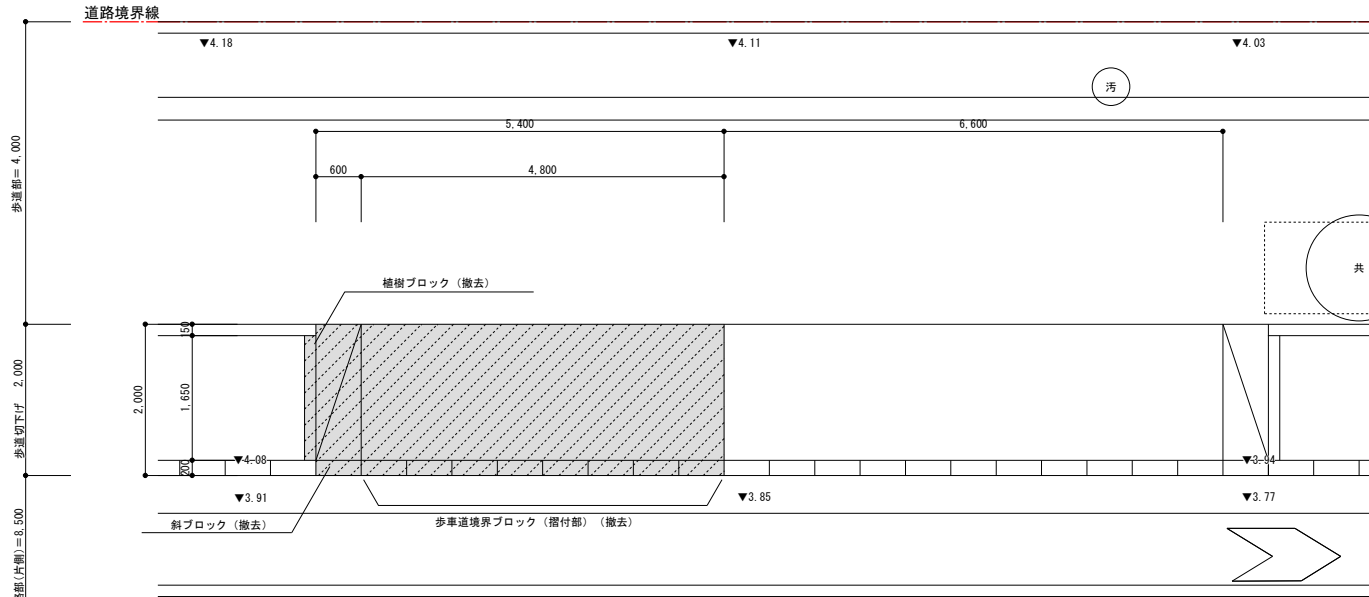
家具共通仕様		「図面中に特記なき所は下記の仕様とする。」		プール棟 家具キープラン	
<div>1 本体・棚板 室内VOC（ホルムアルデヒド等）の低減効果と抗菌機能を持った可視光増感型触媒を工業的に配合した両面メラミン化粧パーティクルボード（ユニボードビュアHi）厚さ20mm、F☆☆☆☆を使用する。 上記材料は、JIS-A5908適合、18タイプ（曲げ強さ18N／平方ミリメートル以上）とし、JISマーク認定の国内工場での生産品、且つグリーン購入法適合品とする。 基材は、千葉県産材を含む国産材混合（配合率20％）とし、合法性木材認定事業者取り扱い品を使用する。 躯体からの水分浸入を防ぐために、本体は背面も含めてフラットエッジ（ABS製樹脂をホットメルト継付）加工とする。</div> <div>2 木口処理 本体・棚板・建具等は使用時の擦り傷の発生を抑制するために鉛筆硬度 9H 以上の表面材を使用する。 本体色については色見本帳（45色以上）を提出の上決定する。</div> <div>3 表面処理 ポリエステル化粧合板 F☆☆☆☆ 厚さ4mmを使用し、片面フラッシュ（450mm ピッチ以内に格子状機械構造）とする。</div> <div>4 裏板 総立ては、製作工場での木製ダボ総接合とし、接合部のノックダウン金物は使用不可とする。 ポリエステル化粧合板仕上げ F☆☆☆☆（塗装不要）とする。</div> <div>5 本体組立て 安全で外れにくいネジ込み式で、錆びにくいステンレス製ダボ φ8-M6を使用する。 棚板は外れ止めシャクリ加工を施す。</div> <div>6 巾木・台輪 環境配慮及び品質確保のため、取り扱い ISO 14001、製作は ISO 9001 取得企業とする。 製作にあたり、事前に製品の品質証明書及び材料と接着剤の安全データシートを提出し、素材・金物の承認を受ける。 室内空気清浄保持のために、学校環境衛生基準に対して参考となる類似製品のVOC測定データを提出する。</div> <div>7 棚板受け 家具取付は、安全のため壁や床に耐震固定を施す。</div>		<div>〔 接合部詳細 〕 木製ダボ（ 端部 ） 木製ダボ（ 中間部 ）</div> <div>〔 裏板枠詳細 〕</div>		<div></div>	
〔 木口詳細 〕 フラットエッジ セフティーエッジ		<div></div>		<div></div>	
K-01	児童用下足入れ	1階 玄関・下足／計2ヶ所	K-02	更衣棚	1階 男子・女子更衣室／計2ヶ所
<div>※ 本体・巾木：耐水仕様ボード t20</div> <div></div>		<div>※ 本体見付木口：セフティーエッジ</div> <div></div>		<div></div>	
K-03	更衣棚	1階 男子・女子更衣室／計2ヶ所	K-04	ビート板棚	1階 倉庫／1ヶ所
<div></div>		<div></div>		<div></div>	
<div></div>		<div></div>		<div></div>	
千葉県都市局建築部営繕課		工事名称 幕張新都心若葉住宅地区小学校（仮称） プール新築工事		設計年月日 令和 年 月 日	変更年月日 令和 年 月 日
特記事項		特記事項		特記事項	特記事項
図面名 家具詳細図		縮尺 A1:1:20 A3:1:40		図面番号 A-018	



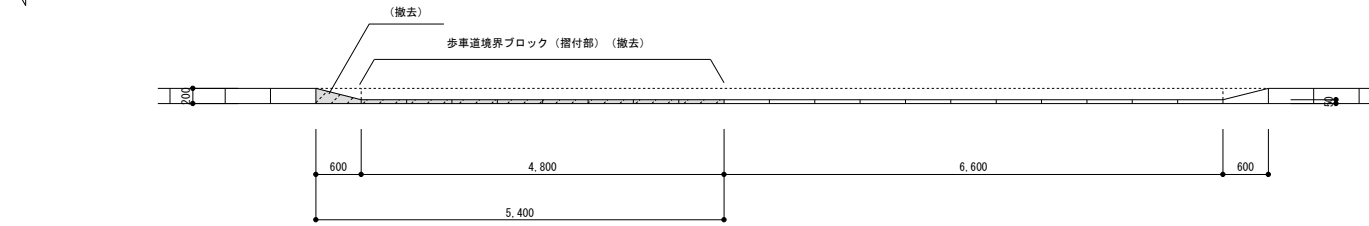


③ 撤去図

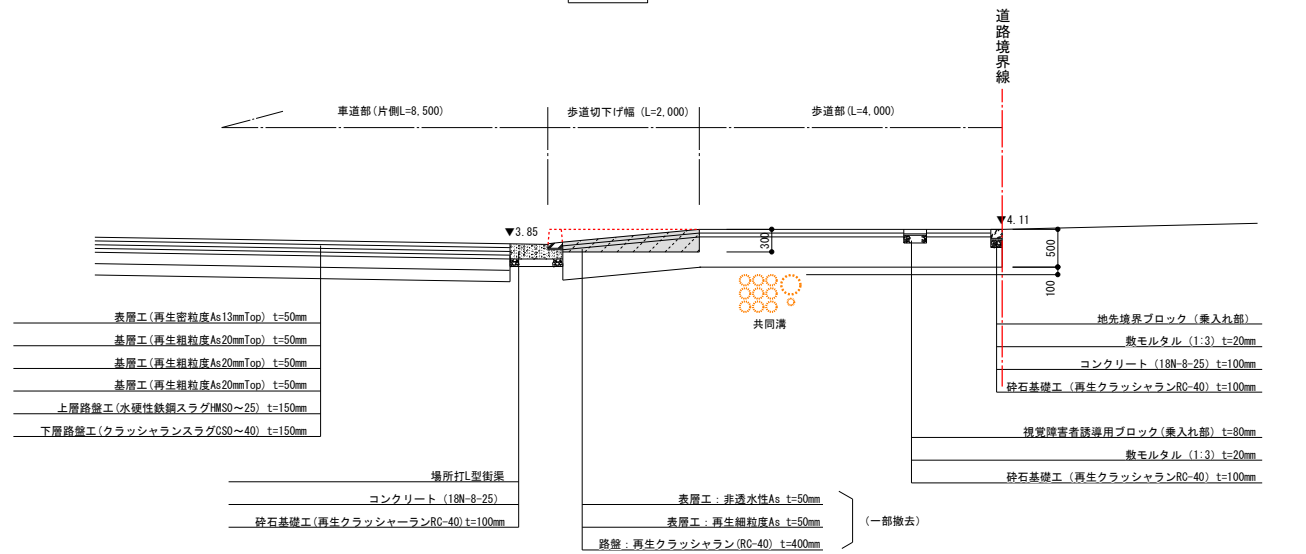
若葉13号線 (マンション側)



平面図



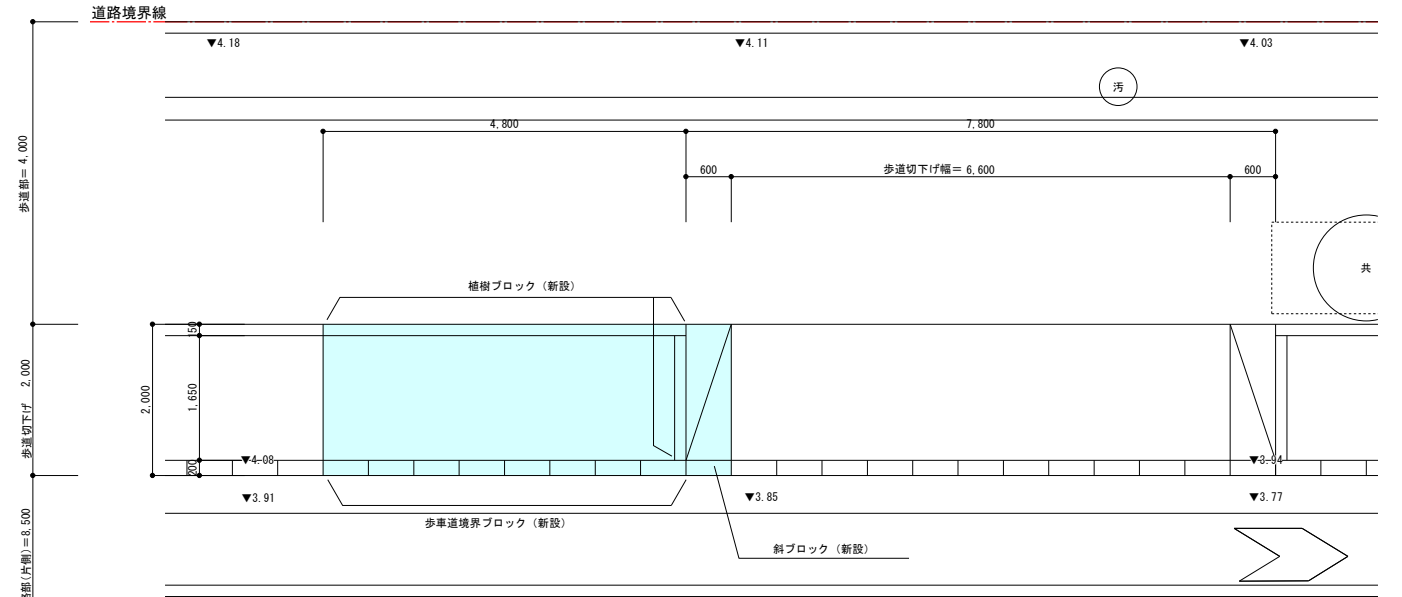
正面図



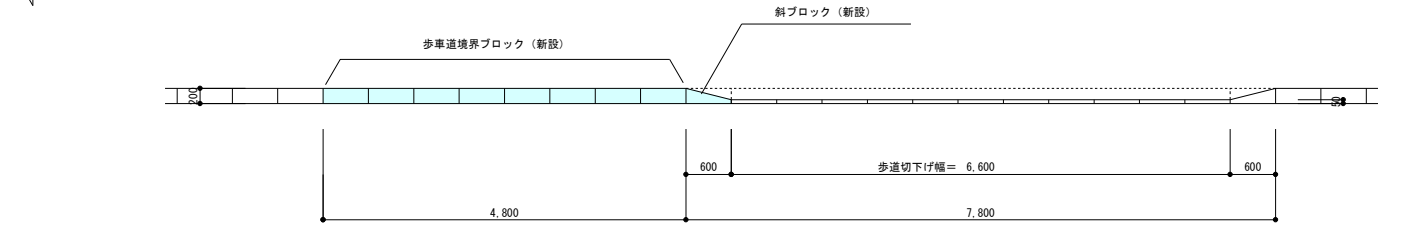
断面図

④ 復旧図

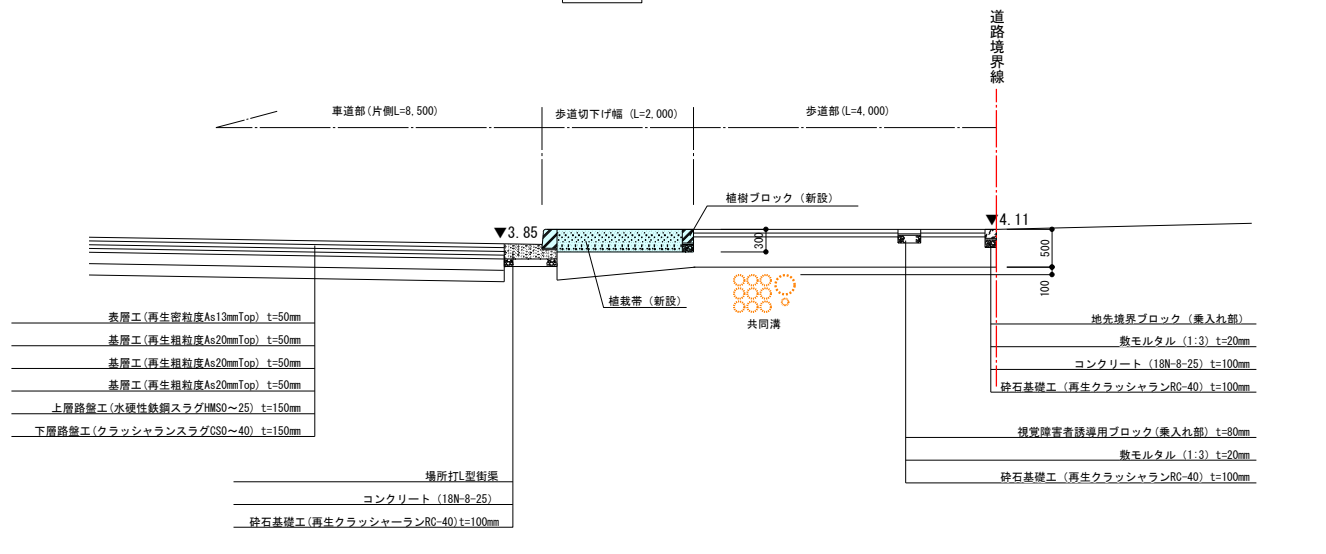
若葉13号線 (マンション側)



平面図



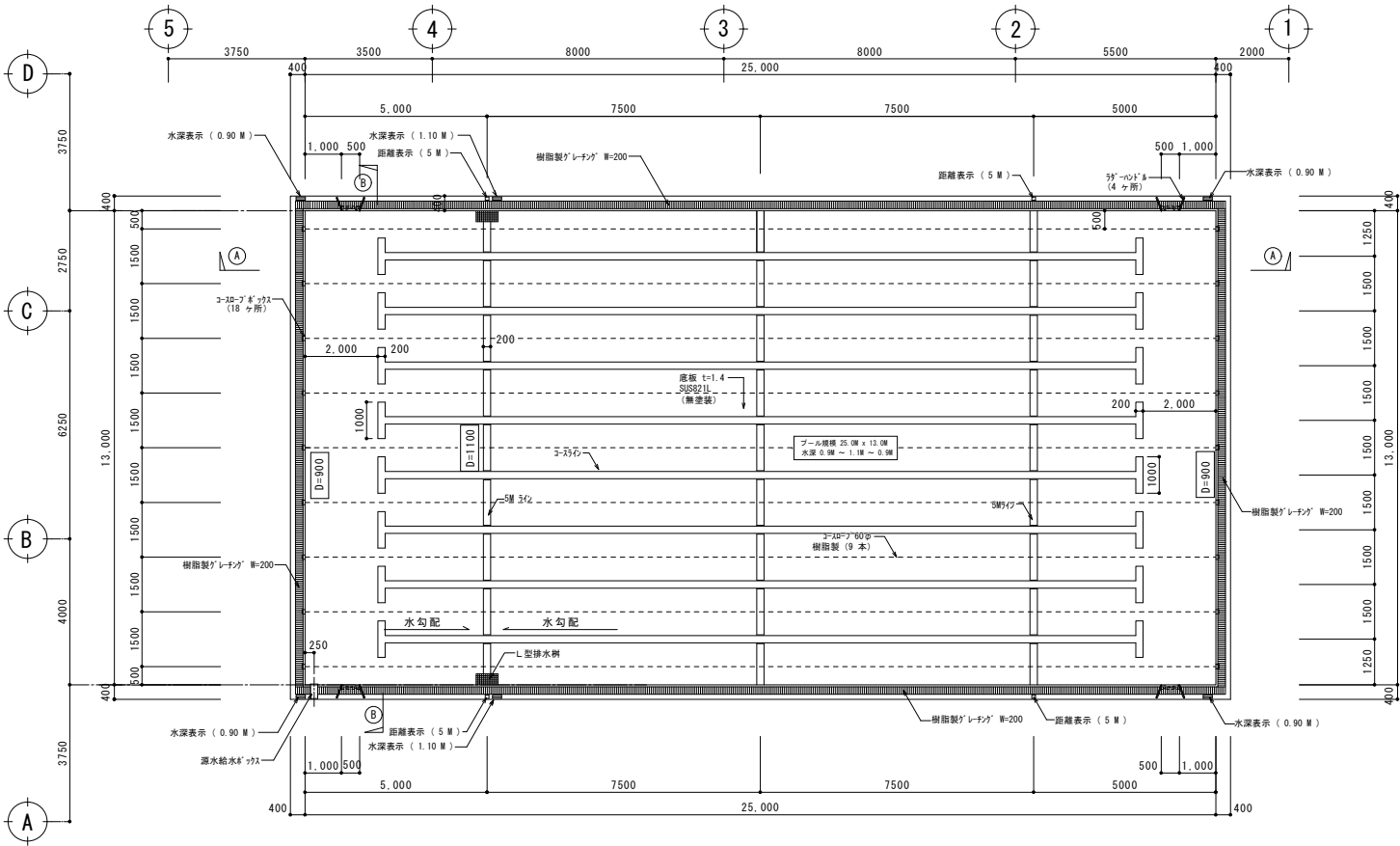
正面図



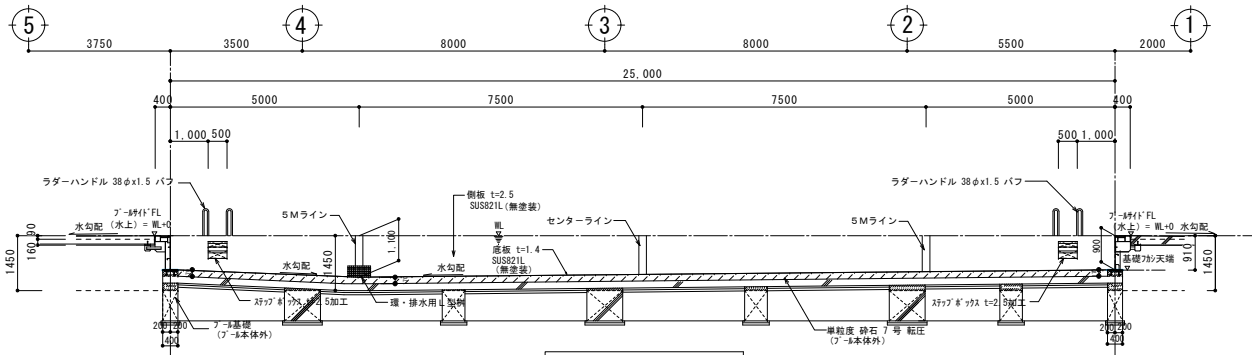
断面図

ステンレス製プール（無塗装）本体特記仕様書							
１）規 模	25,000x13,000 プール水深 900～1,100～900						
	8 コース （コース巾 1,500 ）						
２）使用材料	1) 側 板	2.5mm x1,524x3,048	ステンレス鋼板		SUS 821L1		
	2) 底 板	1.4mm x1,524x5,000	ステンレス鋼板		SUS 821L1		
	3) オールフロ一部	2.5mm 鋼板	ステンレス鋼板		SUS 821L1		
	4) 付属品・補強材類	アングル 及び 鋼板	ステンレス鋼板		SUS 821L1 及び SUS304		
	5) 溶 接 棒	ステンレス鋼被覆アーク溶接棒 JIS Z 3221 D308 溶接用ステンレス鋼線材 JIS Z 3321 Y308					
３）製缶工事	工 程	施工 注意事項					
工場加工	1) 切 断	ステンレス鋼板の切断は 機械切断又は ガス切断にて行う その際 切断面は 平滑にし 有害な 歪み カエリ 切欠等が ない様にする。					
	2) 曲 げ	ステンレス鋼板の 曲げ加工は プレス 成型法により 冷間で 加工する。					
	3) 溶 接	溶接の 姿勢は 下向きを原則とするが 水平 立向き 上向きの場合は特に慎重に施工する。 使用電流には 注意し 速棒 及び その速度を適切にし スラッグの巻込み ブローホール アンダーカット クレーター 脚の不揃い 等 不良部の生じない様 細心の注意を払う事。 材端の まわしを勵行し スパッター スラッグは 完全に除去する。					
	現場加工	1) 仮設計画 製品搬入路 製品置場 加工場 機器設置 位置等の 仮設計画を係員と打合せし 承認を得る。 2) 施工計画 現場組立順序 附属物の取付け等に関しては 事前に係員と打合せし 施工計画書を提出する。 3) プール建方 側壁の取付け 及び 底板の配列は 重機を利用し 製品 及び その他の物に損傷を与えない様に 施工する。 4) 現場溶接 現場溶接は TIG溶接にて歪みのおきない様に 溶接順序を考慮し 施工を行う。 5) 仕 上 げ スパッター スラッグは 除去する。					
	４）塗装工事 （範囲は別紙参照）	1) 塗装仕様	素地調整 脱脂後		ノンスリップ塗装（素地調整 脱脂後）		
			下塗り（１回）	エポキシ樹脂プライマー	下塗り（１回）	エポキシ樹脂プライマー	
		中塗り（１回）	エポキシ樹脂塗料	中塗り（１回）	エポキシ樹脂塗料		
		上塗り（２回）	アクリルウレタン樹脂塗料	上塗り（２回）	アクリルウレタン樹脂塗料		
		2) ノンスリップ 塗装	循環ダクト路面、ステップボックス路面、クロスライン				
		3) ライン類	5Mライン、コースライン・センターライン				
	4) 表示文字類	水深表示シールド（６ヶ所） 距離表示シールド（４ヶ所）					
５）プールの保証期間	1) 缶体保証	検査引渡し日より ３年間					
	2) 塗装保証	検査引渡し日より ２年間					
６）プールの許容誤差	1) 長 さ	±0～+20mm		3) 水面レベル	± 5mm		
	2) 幅	±30mm		4) 水 深	±30mm		
７）プールの検査方法	1) 缶体漏水検査	バキュームテスター カラーチェックに依り 溶接面を検査しピンホールの有無を確認する。					
８）附属品リスト	名 称	仕 様			数 量		
附属部品	1) ラダーハンドル	38φ x1.5 SUS 304 バフ仕上 H=700			4 組		
	2) ステップボックス	t=2.5 加工 SUS 304 踏面：ノンスリップ塗装			4 ケ所		
	3) コスローブ	25 M 用 60φ 樹脂製			9 本		
	4) コスローブボックス	ボックス t=2.5 加工 SUS304 ファイバ 丸棒 SUS304 バフ仕上げ			18 ケ所		
	5) L型排水樹	樹 t=2.5 加工 SUS 304 蓋 t=2.5 加工 SUS 304 バフ仕上 パンチング 8φ			2 ケ所		
	6) 源水給水口	給水口 口=100x50x2 SUS 304 カバー t=2.5 加工 SUS 304 バフ仕上			1 ケ所		
	7) グレーチング	樹脂製 W=200			一式		
配管部品	1) 排水樹接続管	SUS 304 125A フランジ JIS 10K			2 ケ所		
	2) 源水給水接続管	SUS 304 50A フランジ JIS 10K			1 ケ所		
	3) オールフロ排水管	SUS 304 80A ソケット			14 ケ所		
	4) 循環ダクト接続管	SUS 304 125A フランジ JIS 10K			2 ケ所		
	5) 循環ダクト接続管	SUS 304 50A用 水量調整目皿付 接続管 SUS 304 50A ソケット			14 枚 14 ケ所		
	6) 消防用排水接続管	SUS 304 100A フランジ JIS 10K			1 ケ所		
	7) 水位計接続管	SUS 304 65A ソケット			1 ケ所		
９）注 記	1) プール底板下クッション材のＣＩ－イオンは、Na c l 換算にて0.01wt%以下としPH5.5～12とする。 その他有害な侵食性イオンは含有しない事。						
	2) プールは、「ISO9001」認証取得メーカーが施工の事。						
	3) プール本体は、「公益財団法人 日本体育施設協会 水泳プール部会」 推奨メーカーが施工の事。						

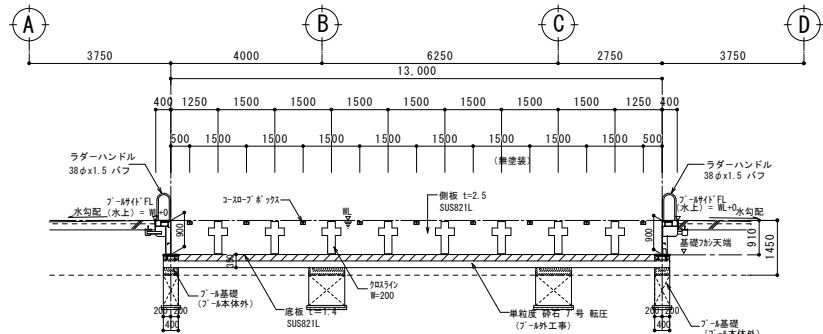
■ 工 事 区 分 表	建築工事	電気設備工事	機械設備工事	プール工事
・ プール基礎及びプールサイド躯体工事	○			
・ プール設置位置の基礎掘削	○			
・ サンドクッション搬入・敷き込み・転圧（単粒度砕石7号）	○			
・ 基礎アンカープレート据付	○			材支給
・ プール本体搬入据え付け				○
・ プール附属品取付				○
・ プールサイド見切り用コーキング工事	○			
・ 各種接続管フランジ以降の配管工事			○	
・ プール仮設用水	○			
・ 水張り試験用水	○			
・ 工事用100V電源	○			
・ プール本体塗装工事				○



プール 平面図 1/100

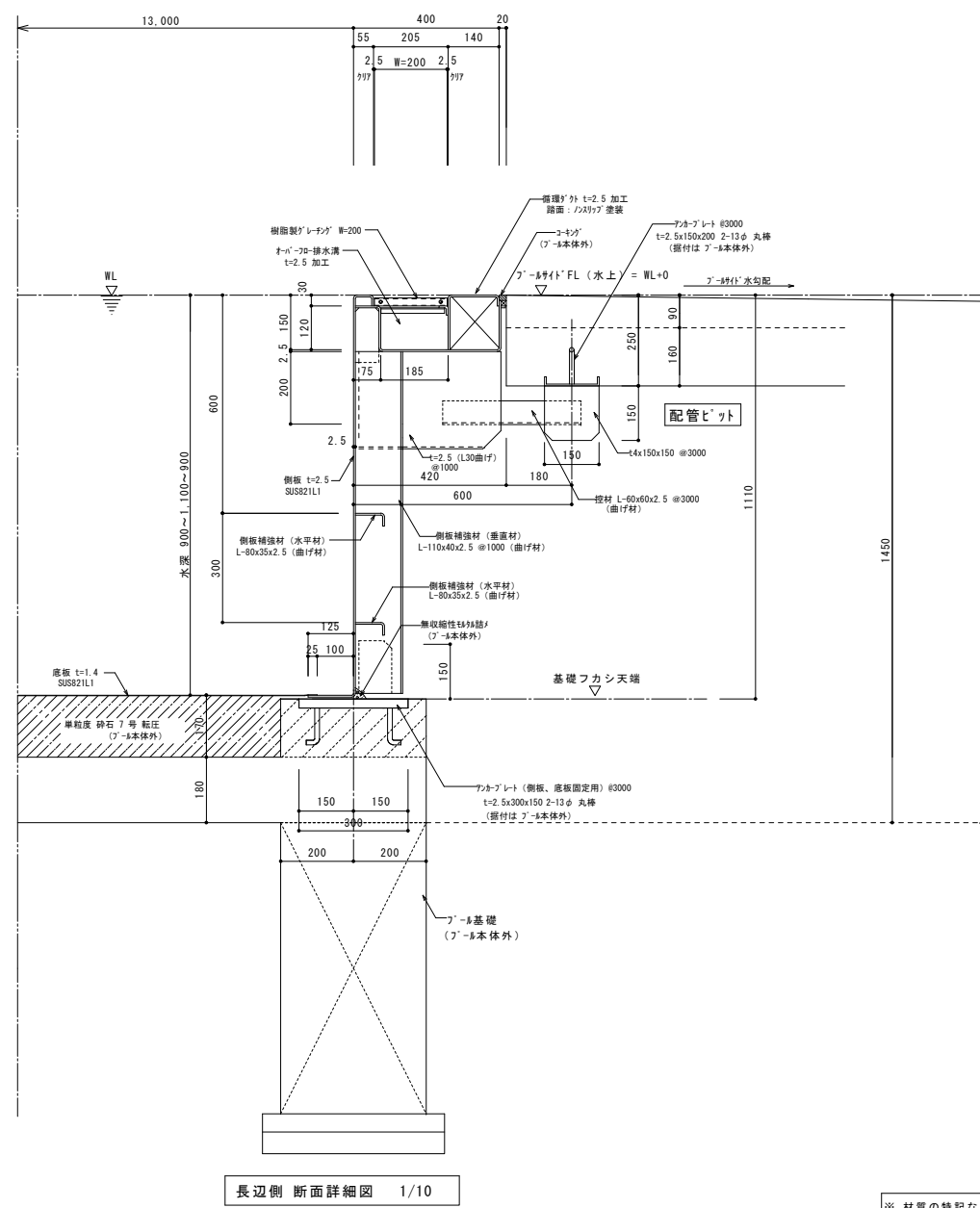
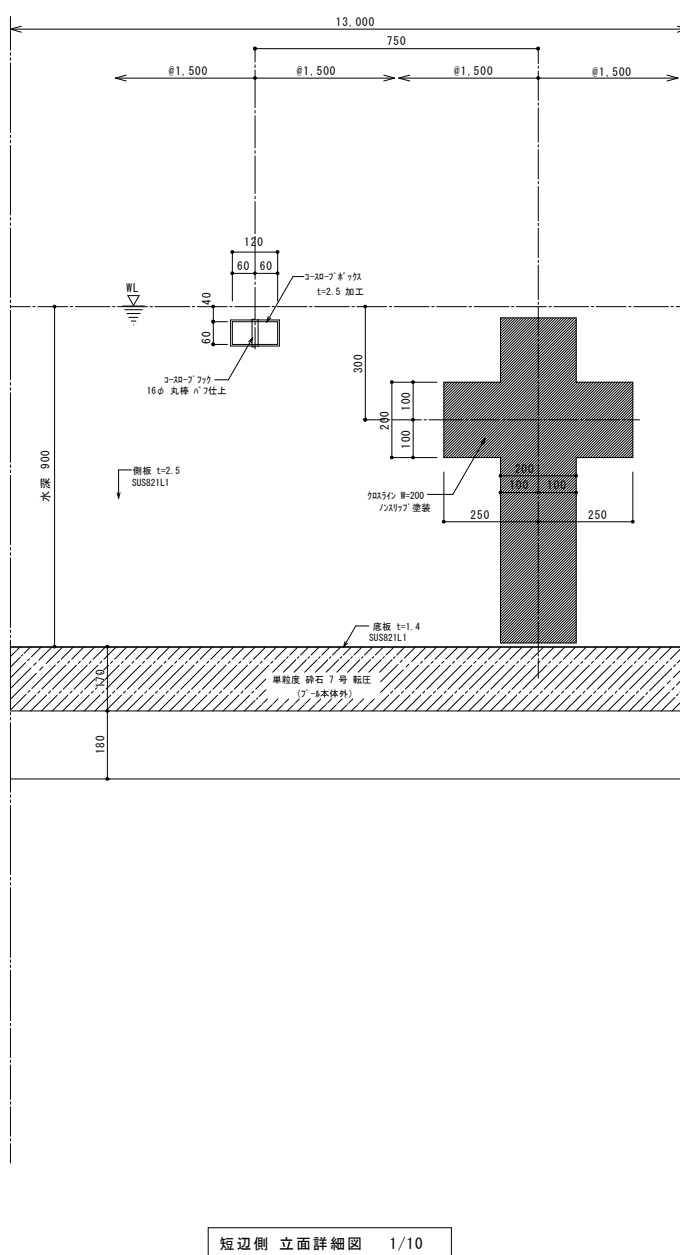
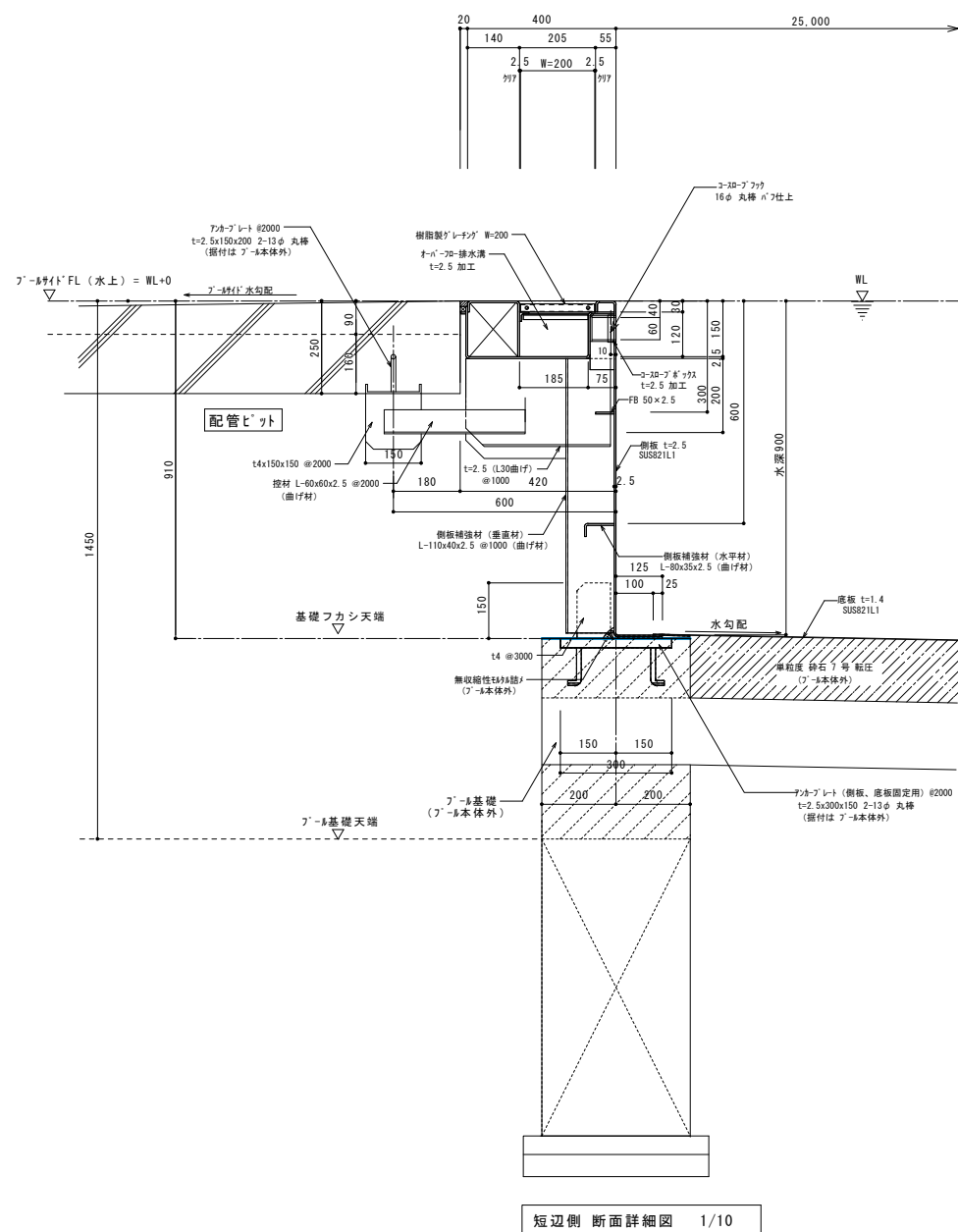
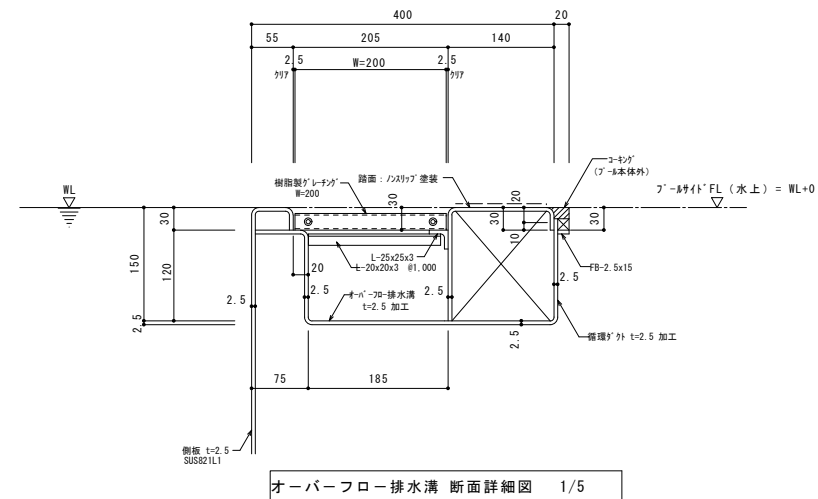
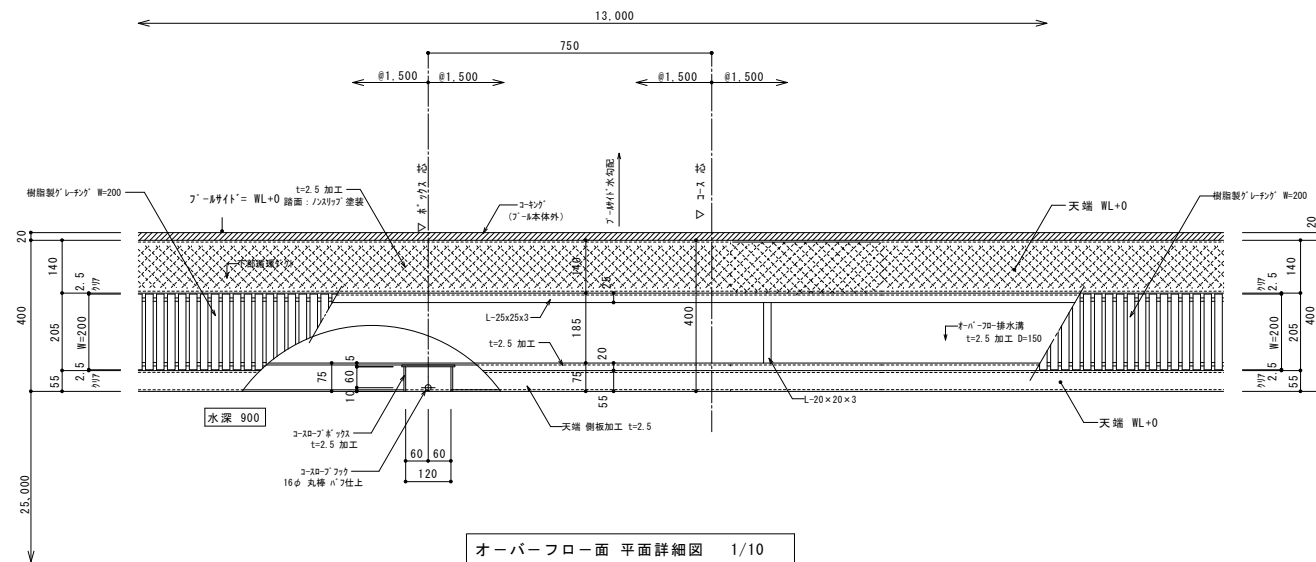


A-A 断面図 1/100

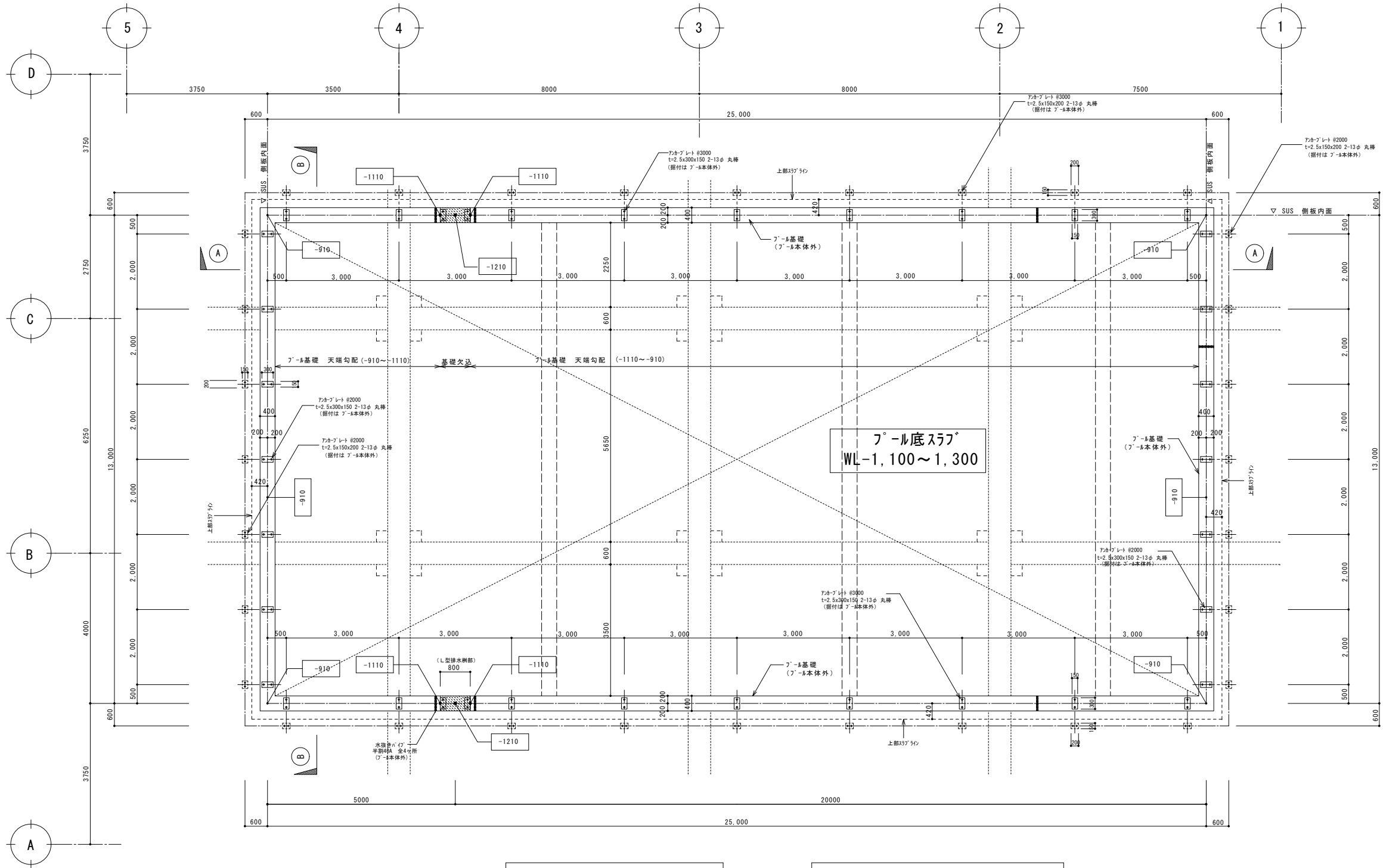


B-B 断面図 1/100


※ 材質の特記なき部材は SUS304 とする。

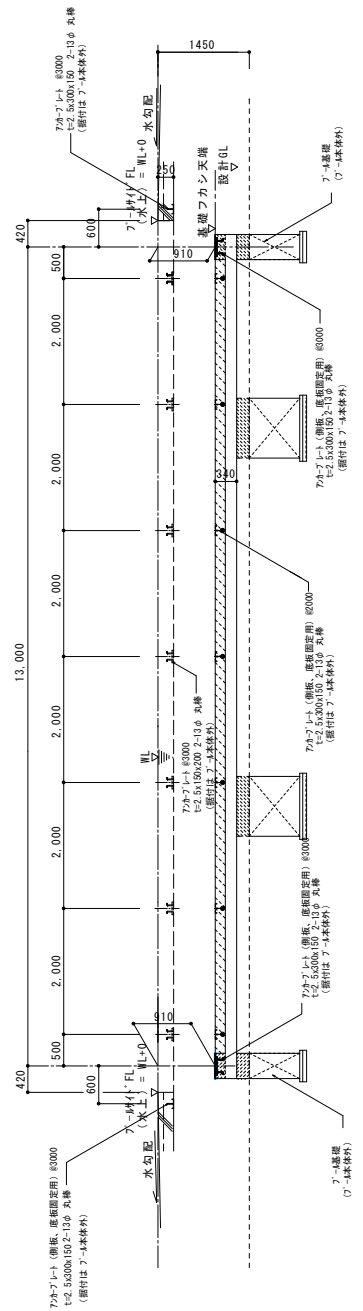


※ 材質の特記なき部材は SUS304 とする。

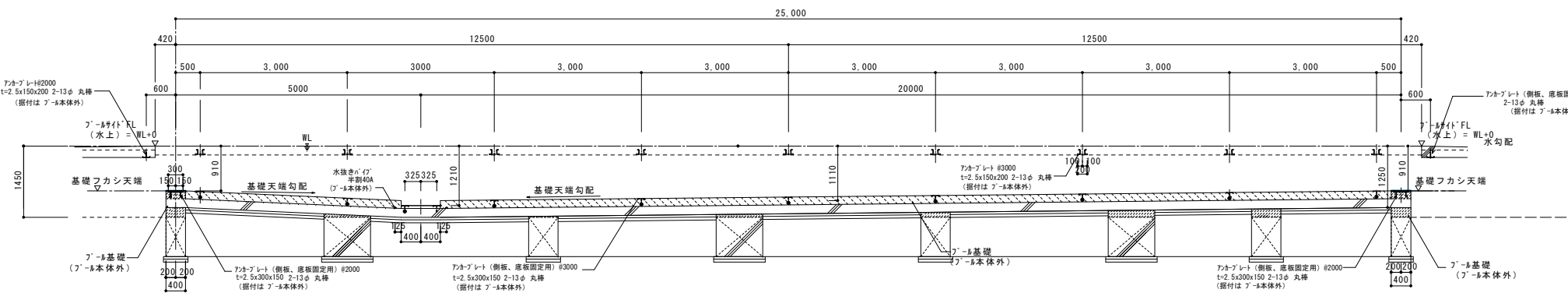


プール基礎伏図 (アンカープラン) 1/60

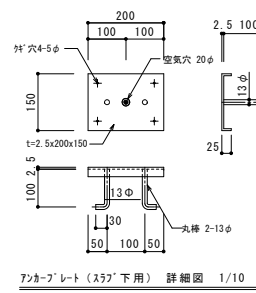
※  WLからの基礎天端高さを示す。



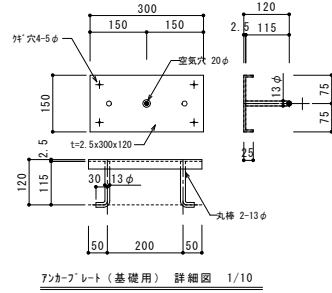
断面図 1/60



断面図 1/60

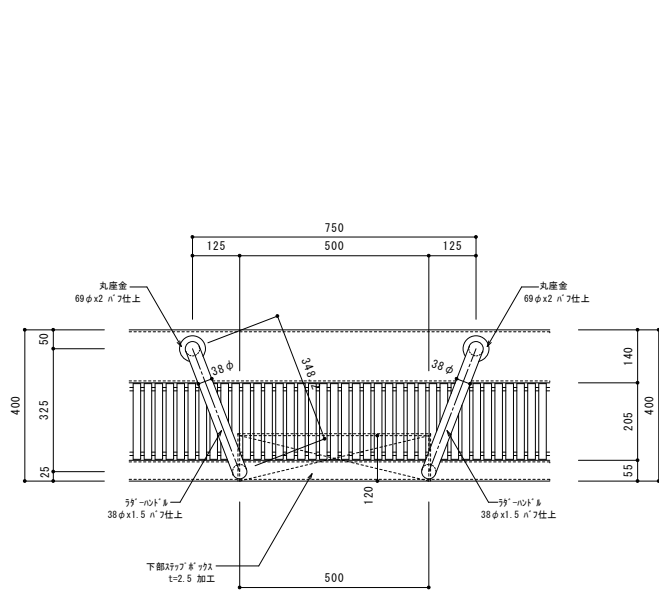


プールプレート (スラブ下用) 詳細図 1/10

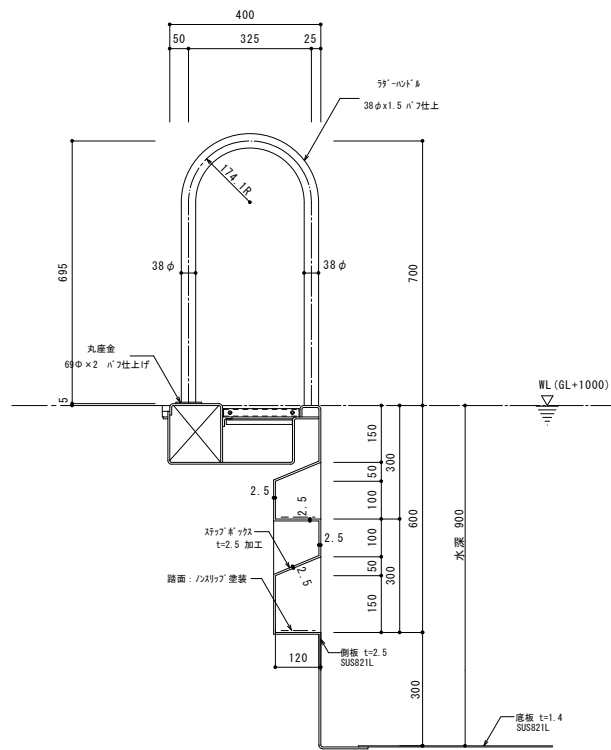


プールプレート (基礎用) 詳細図 1/10

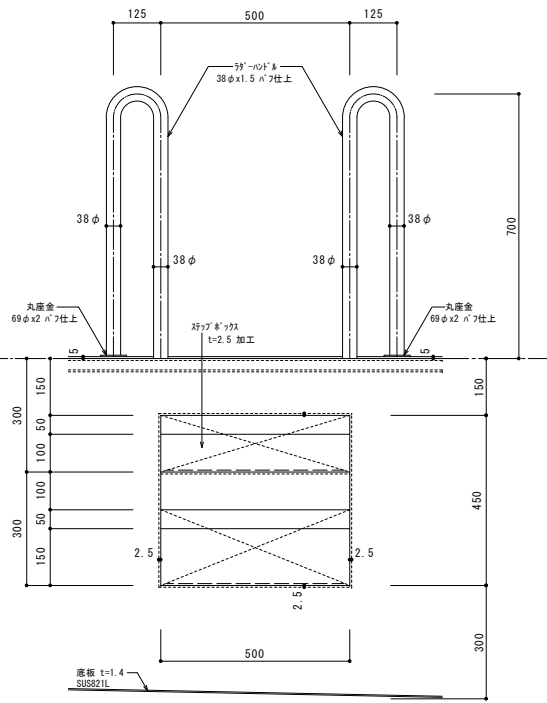
※ 材質の特記なき部材は SUS304 とする。



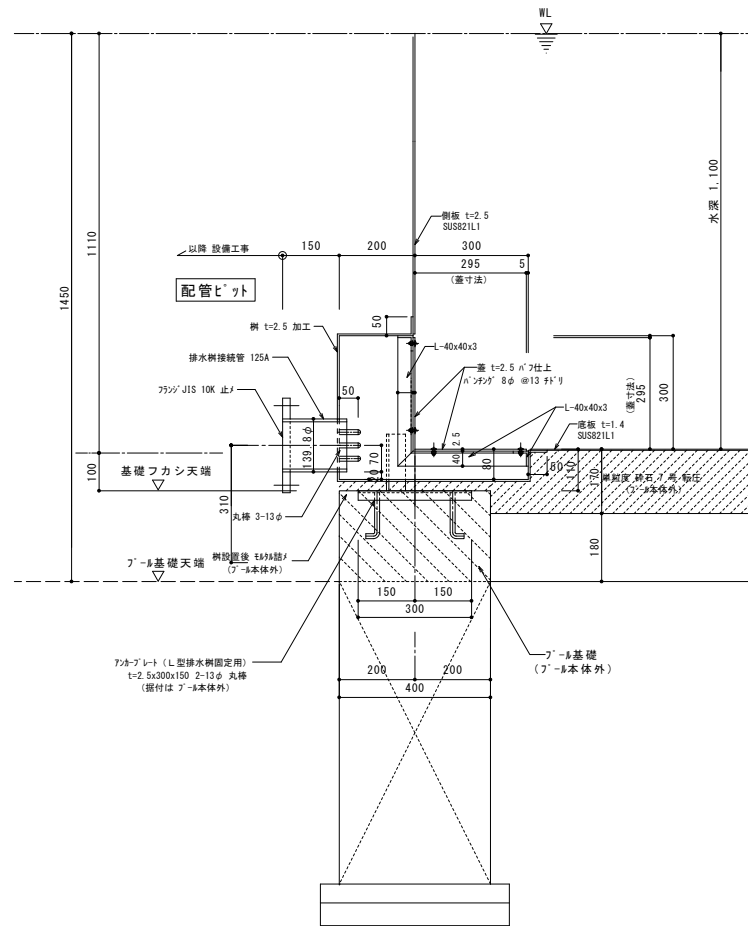
ラダーハンドル 詳細図 1/10 4ヶ所



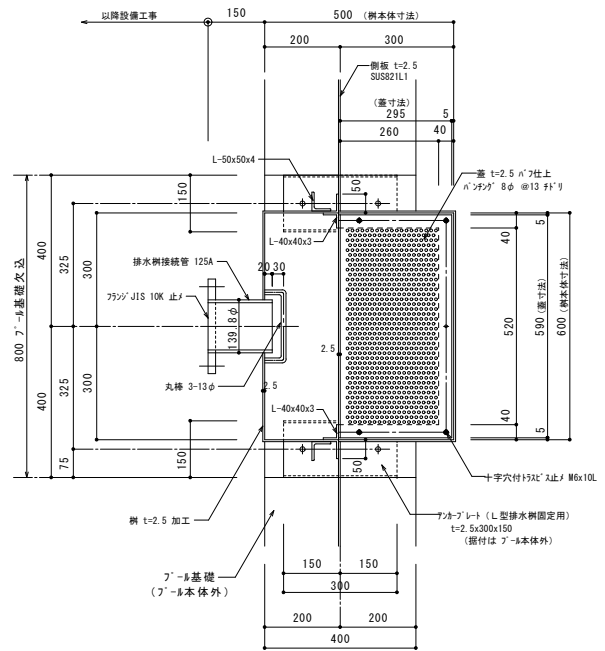
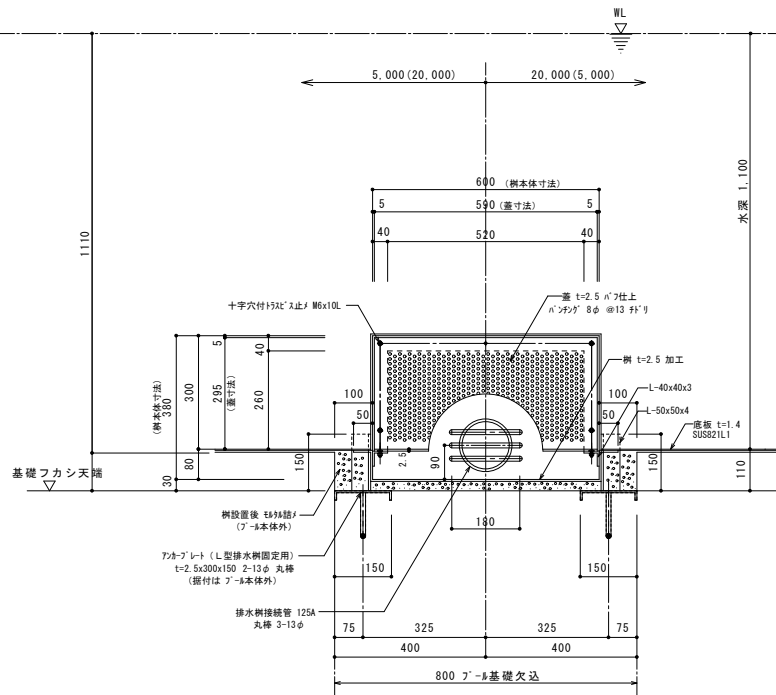
ステップボックス (2段)



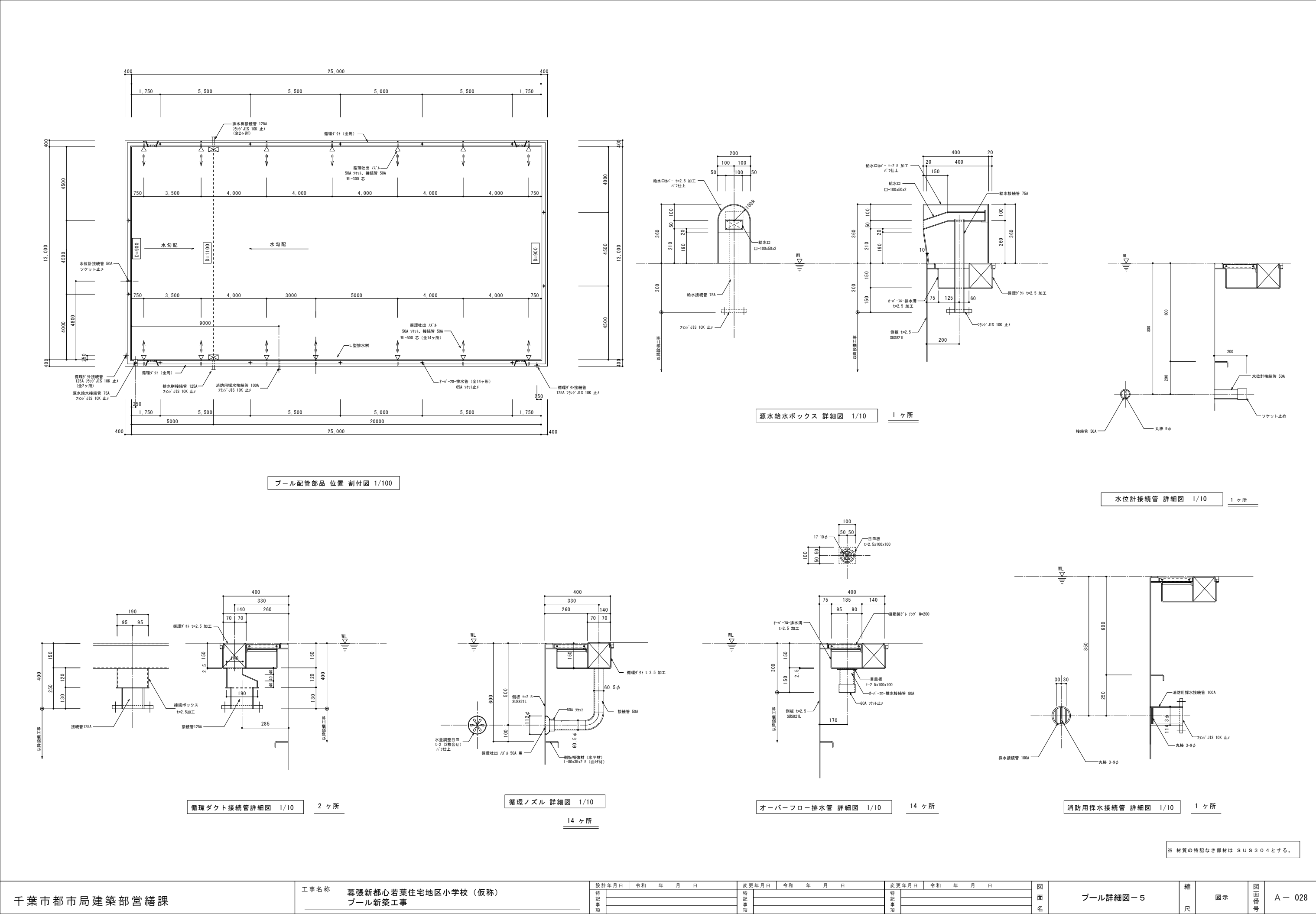
4ヶ所

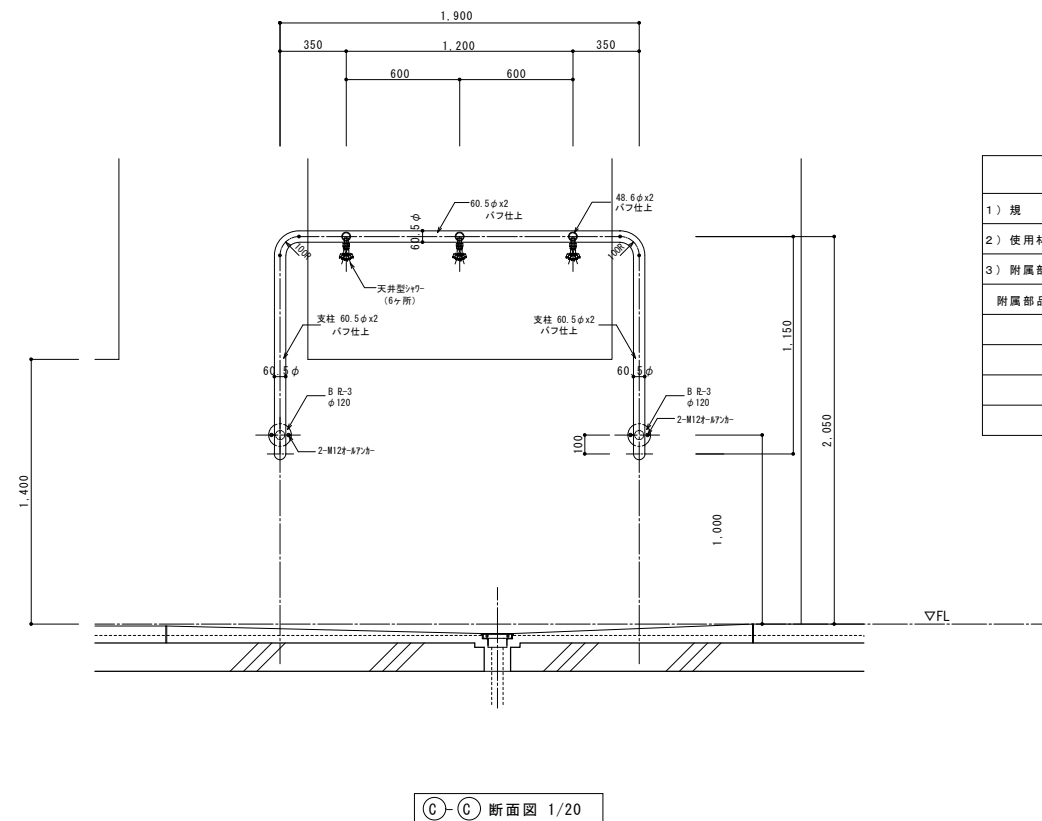
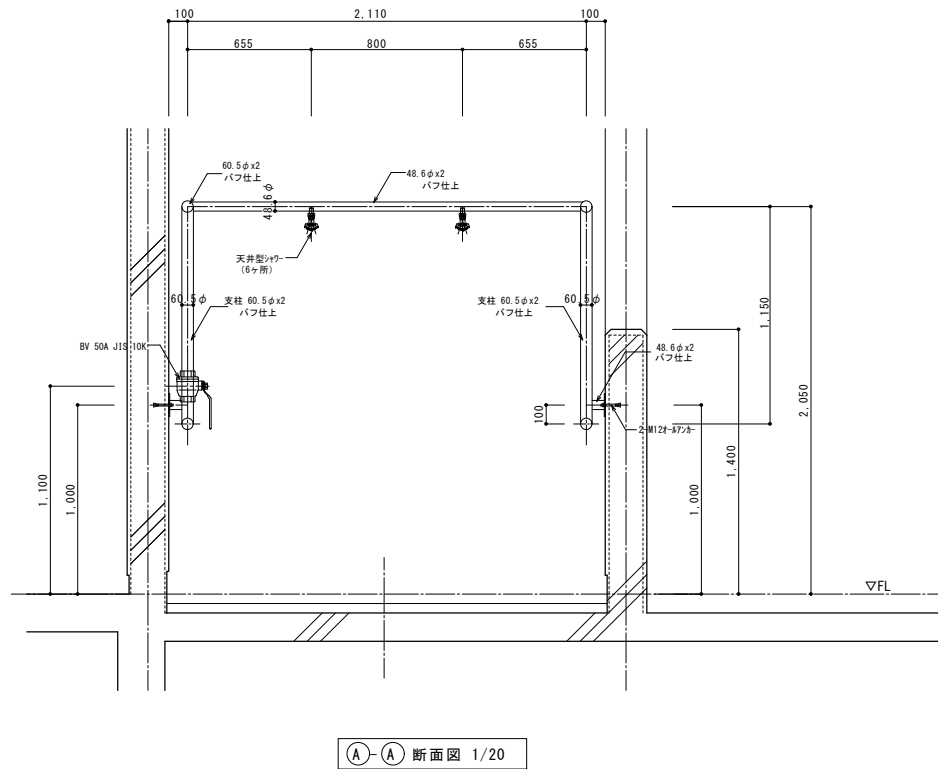
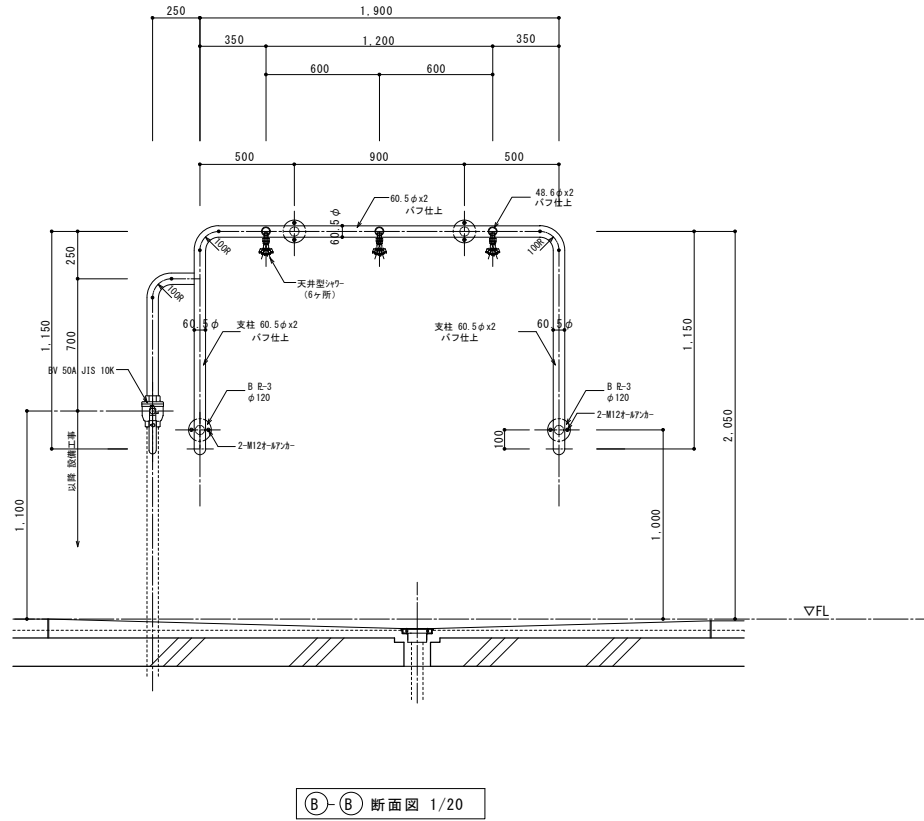
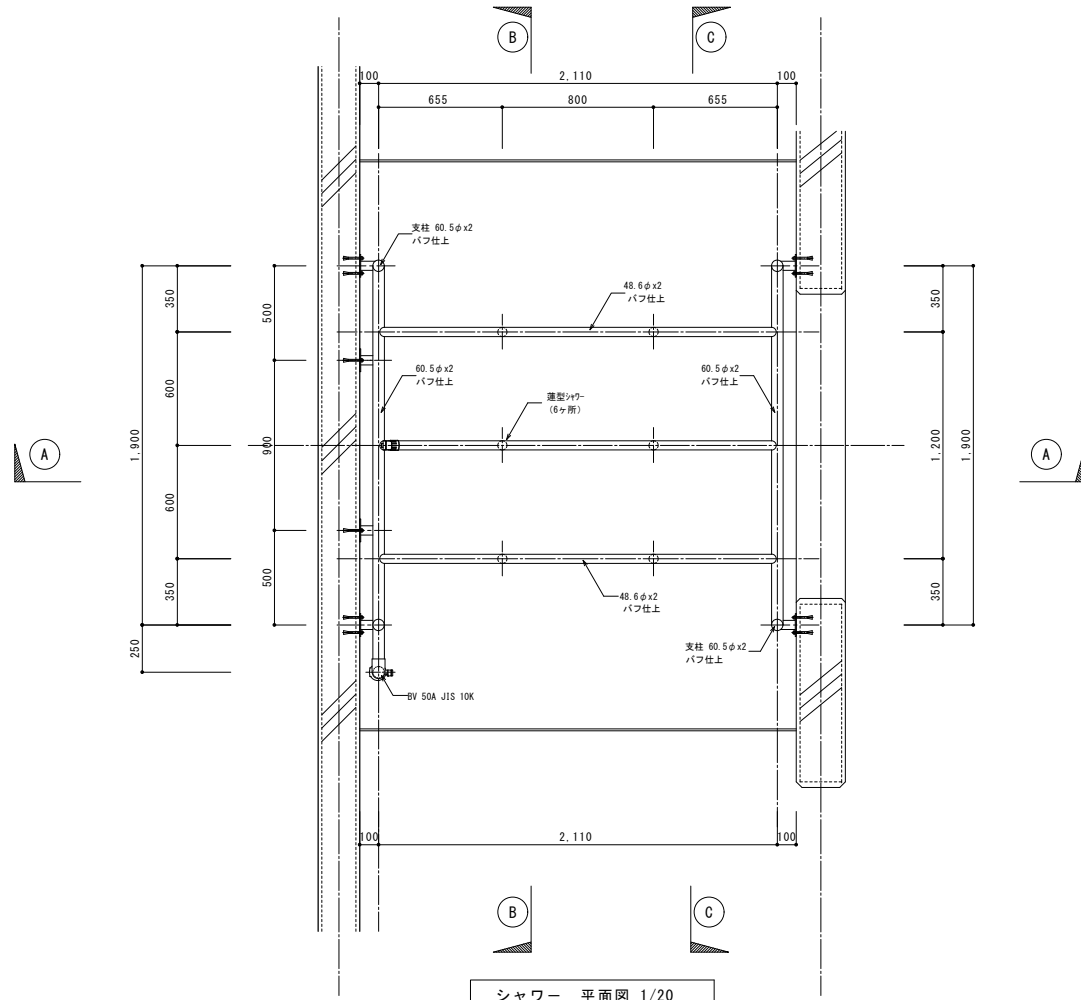


L型排水樹 詳細図 1/10 2ヶ所

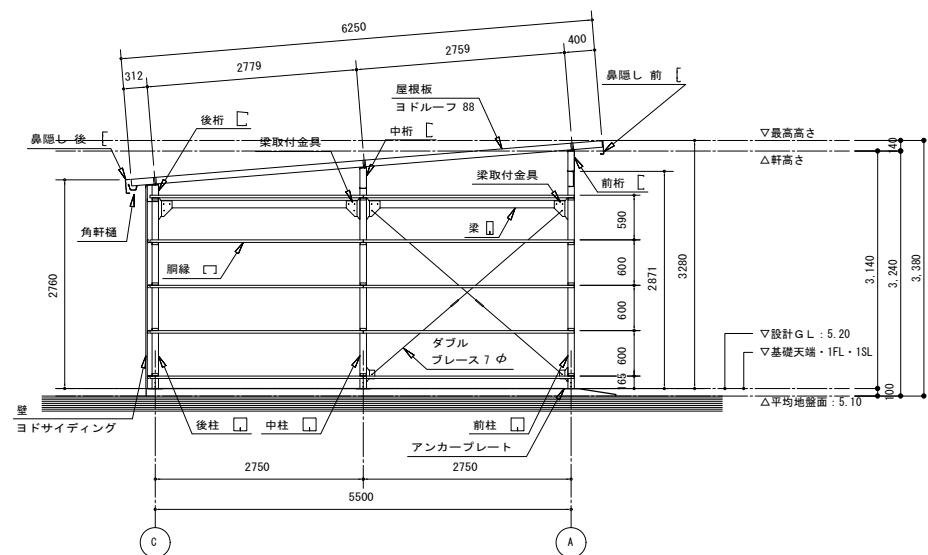
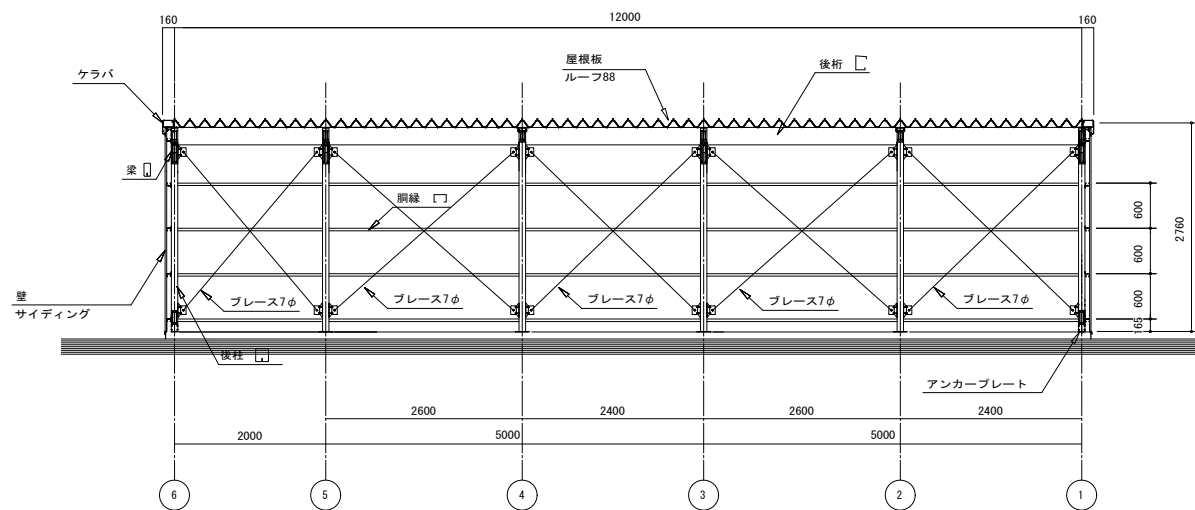
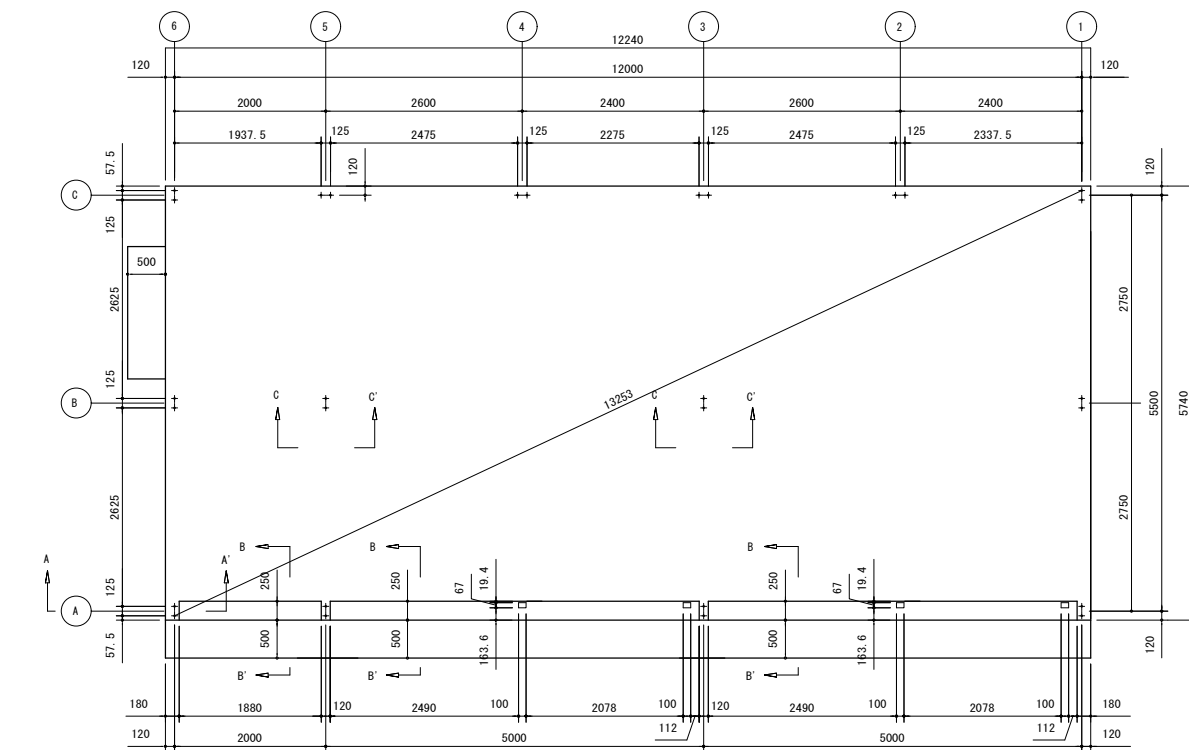


※ 材質の特記なき部材は SUS304 とする。





ステンレスシャワー 特記仕様書			
1) 規 模	シャワー 2,110x1,900x2,050		
2) 使用材料	φ48.6φx2 φ60.5x2 SUS 304		
3) 附属部品	名 称	仕 様	数 量
附属部品	1) シャワーヘッド	SUS 304	6 個
	2) ボールバルブ	SUS 304 50A用 JIS 10K	1 個
	48.6φx2t パフ	SUS 304	一式
	60.5φx2t パフ	SUS 304	一式

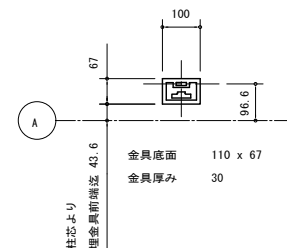
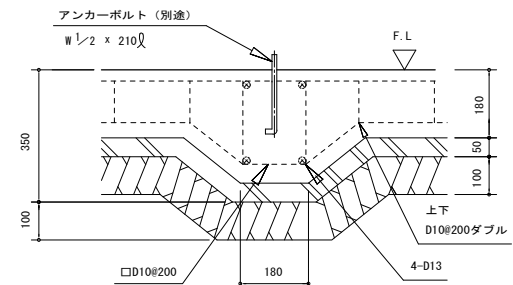
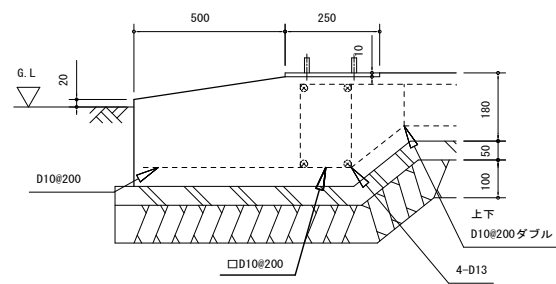
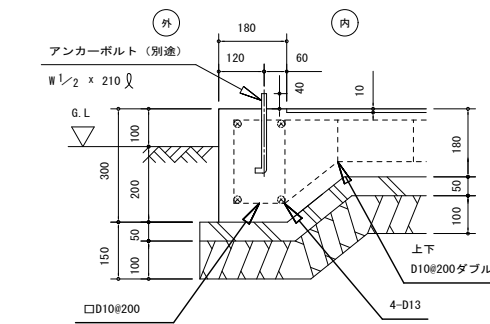


・ベタ基礎断面図 縮尺=1/10

（地耐力 50KN/m^2 以上、コンクリート設計基準強度 18N/mm^2 以上
基準風速 36m/s 、地表面粗度区分Ⅲ）

◎平板載荷試験を行い、 50kN/m^2 に満たない場合は表層改良を行う

アンカーボルトの止結は、
ダブルナット等の戻り止め
を施す事。



淀川製鋼（株）：ヨド倉庫 SOB-3057MD型 + 5857MD型 x 2 同等品

建築面積	66.0m ²	(間口柱芯寸法) × (奥行柱芯寸法)
------	--------------------	---------------------

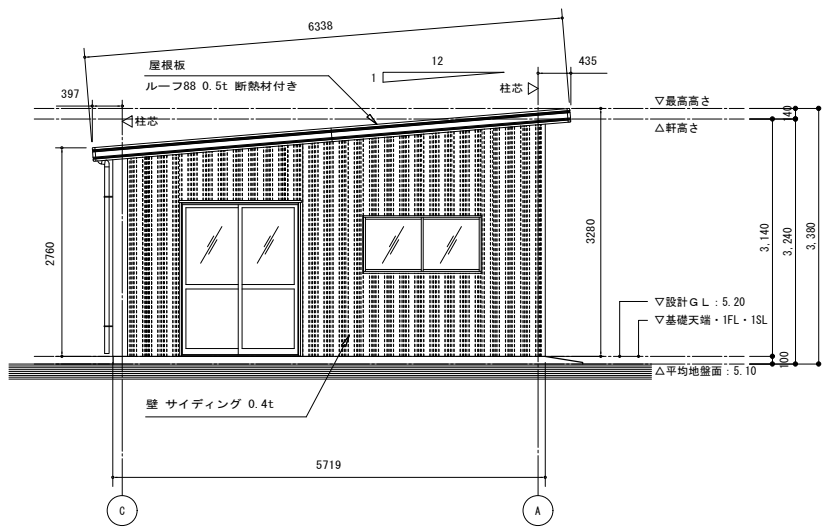
構造耐力上主要な部分の部材

部材表	形状	板厚	使用材料	有効細長比
柱	 — 85 x 85	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	102
梁	 — 100 x 50	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	-
桁（前）	 — 280 x 92 x 25	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	-
桁（中）	 — 280 x 92 x 25	2.3mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC	-
桁（後）	 — 230 x 150 x 35	1.2mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC	-
ブレース	—	7.0φ	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材 SS400	-
ブレース	—	10.7φ	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材 SS400	-
ターンバックル	—	7.0φ用	JIS A5541 建築用ターンバックル胴 STKM	-
ターンバックル	—	10.7φ用	JIS A5541 建築用ターンバックル胴 STKN400	-
アンカプレート	—	9.0mm	JIS G3101 一般構造用圧延鋼材 SS400	-

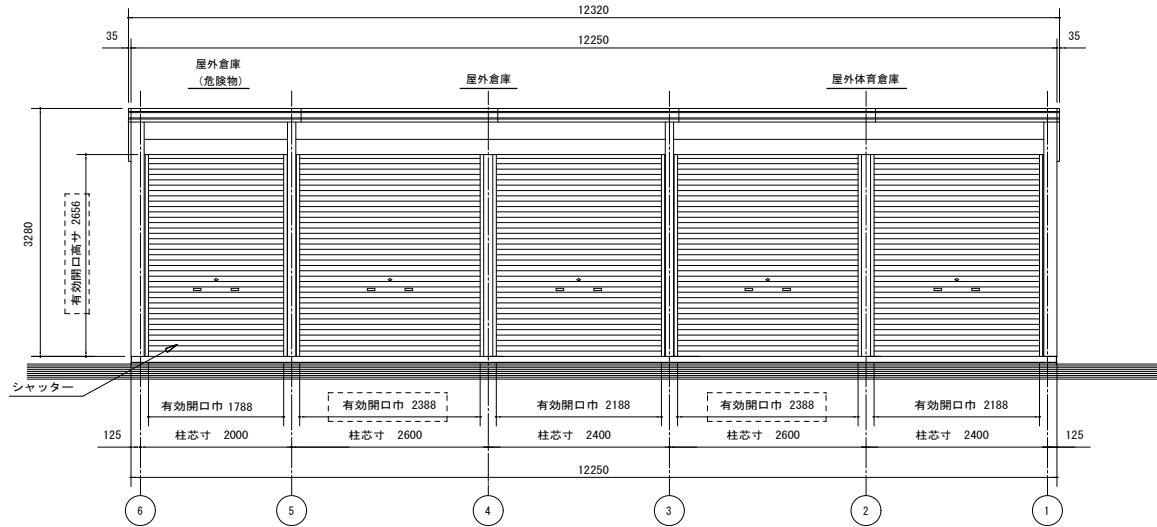
構造耐力上主要な部分以外の部材

部材表	形状	板厚	使用材料
胴縁	 — 54 x 33 x 10	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
屋根	ヨドルーフ８８ 4mm発泡ポリエチレン貼り	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC (建告：1365号第1－)
壁	ヨド角波サイディング８００Ｎ型	0.4mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
鼻隠し・ケラバ	－	0.6mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
桁補強（前）	－	1.6mm	JIS G3312 塗装溶融亜鉛めっき鋼板 CGCC
桁補強（後）	－	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
シャッター	－	0.5mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
前板（H）	－	1.0mm	JIS G3322 塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板 CGLCC
トイ	塩ビ製 角樋	－	－

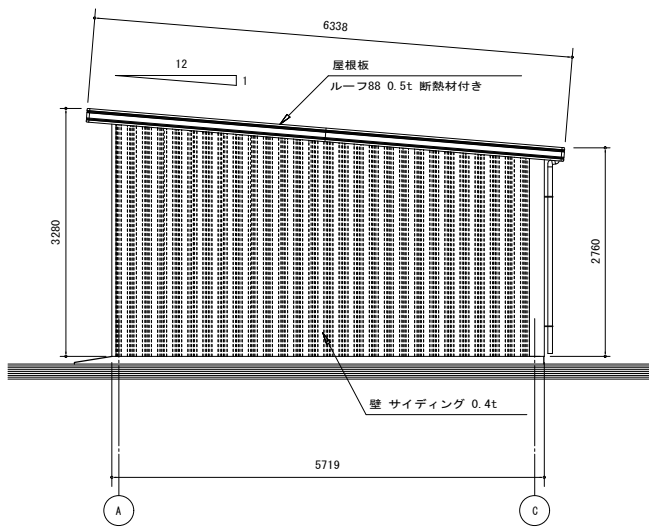
※無窓階判定：手動式軽量シャッター（スラットの板厚が1.0mm以下とする）



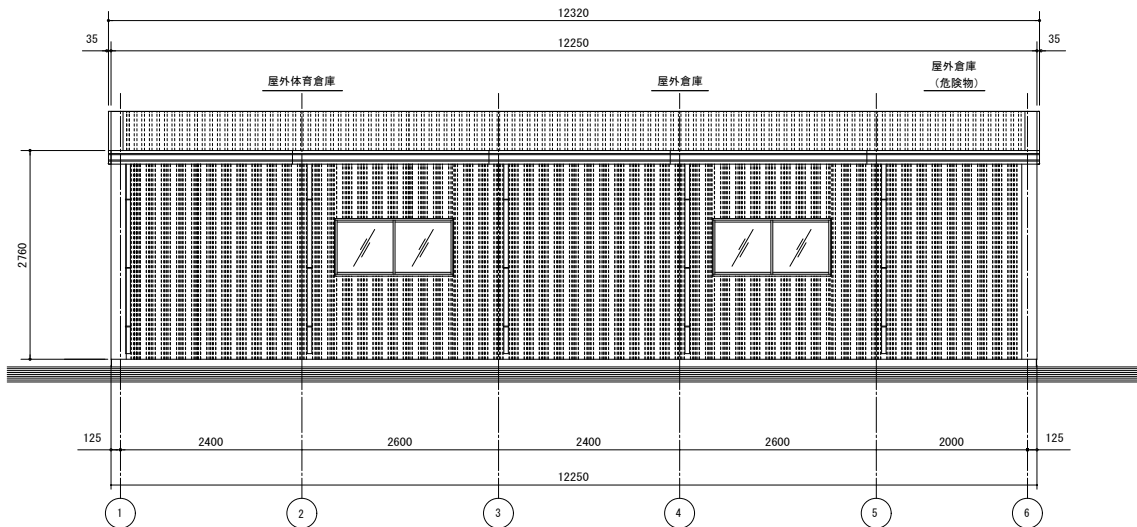
側面立面図



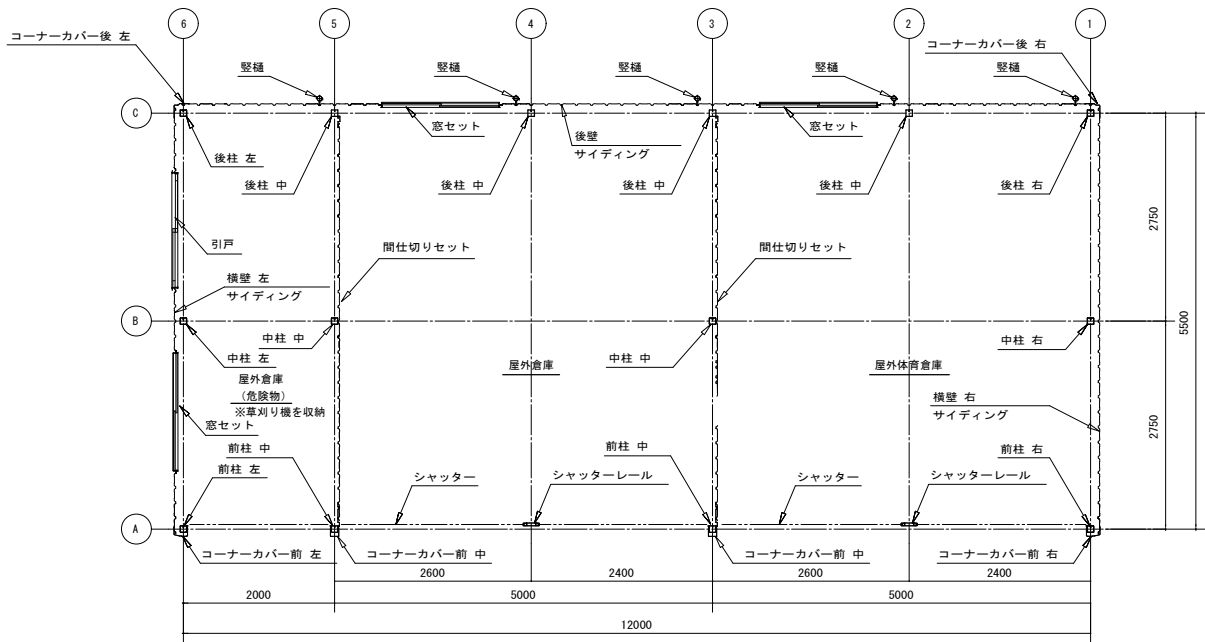
正面図



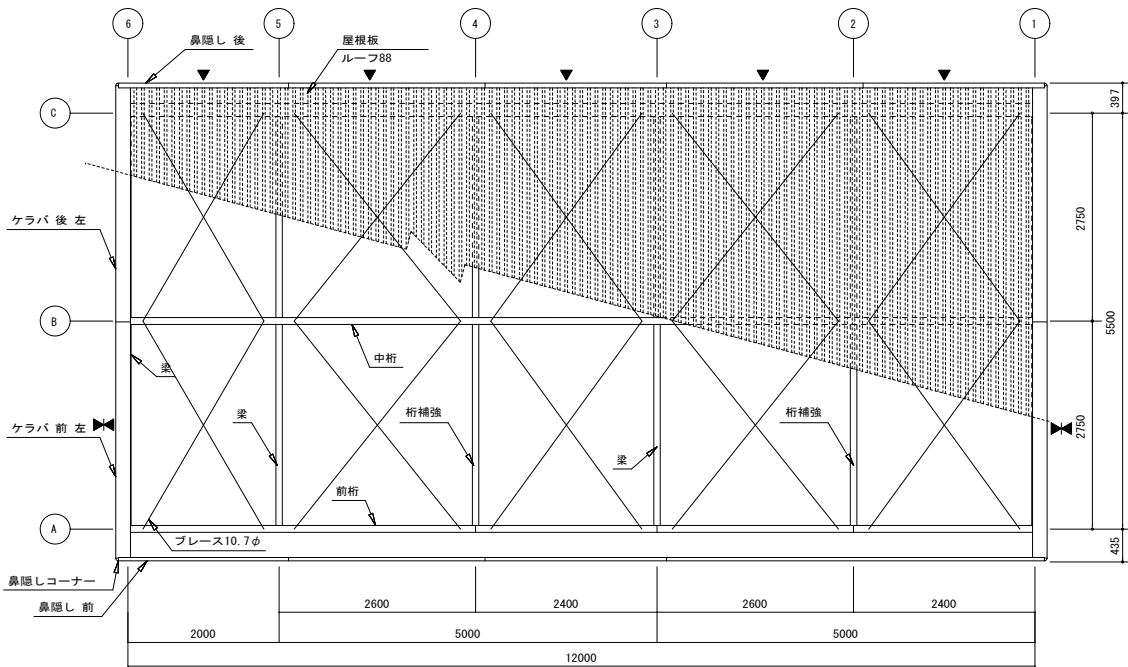
側面立面図



後面図



平面図



小屋伏図

(屋外倉庫)無窓階の判定

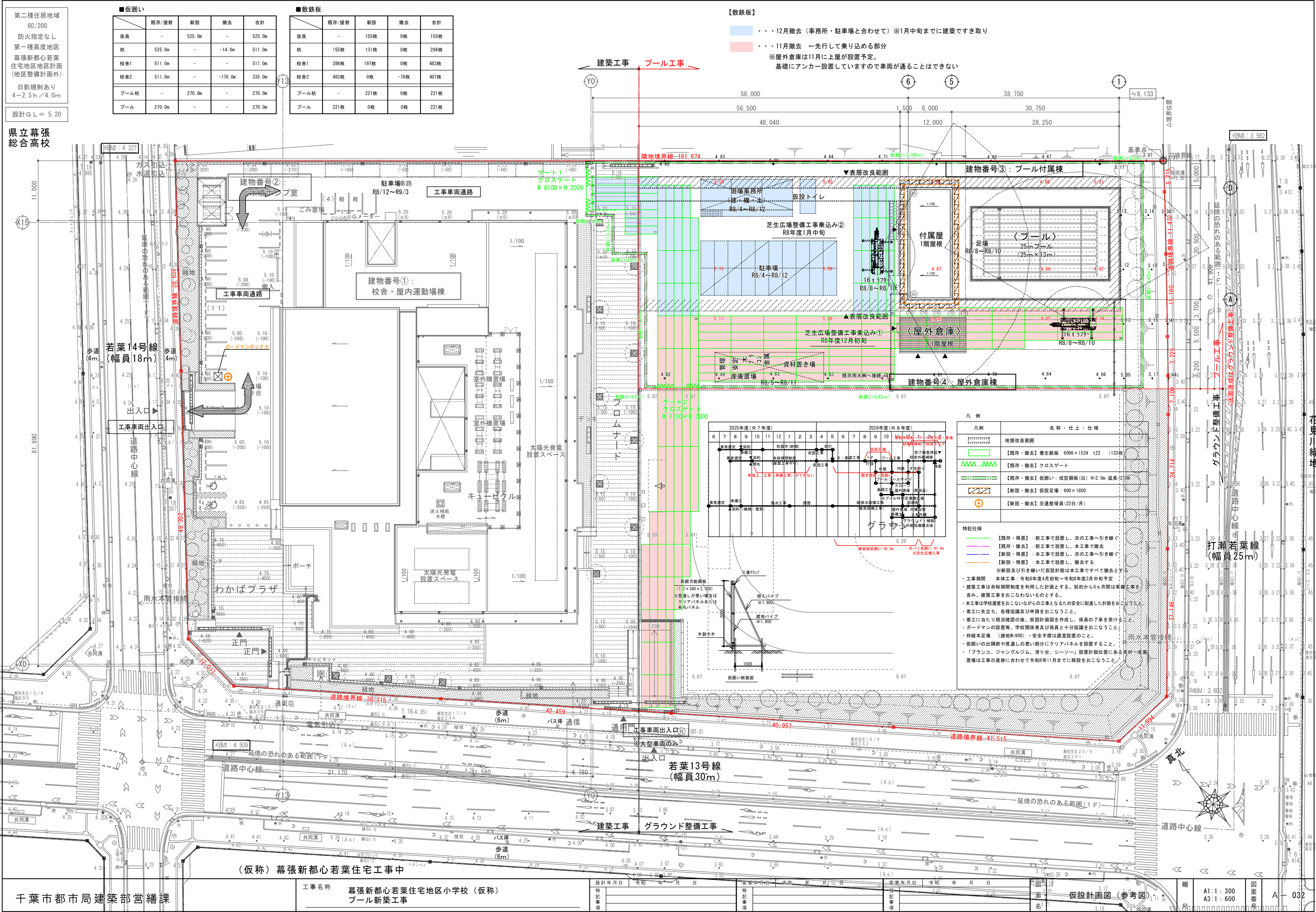
必要開口面積=床面積 / 30 =
66.00 / 30 = 2.20㎡

手動式軽量シャッター (スラットの板厚が1.0mm以下)

75cm×120cm以上の開口部2カ所以上
(シャッター開口) 2カ所 ≧ 2カ所

2.38 × 2.65 × 1 = 6.30
(2ヶ所) 6.30 × 2 = 12.60㎡

= 12.60㎡ ≧ 2.20㎡ ……OK



■仮囲い

	既存/置替	新設	撤去	合計
改良	-	525.0m	-	525.0m
杭	525.0m	-	-14.0m	511.0m
校舎1	511.0m	-	-	511.0m
校舎2	511.0m	-	-176.0m	335.0m
プール杭	-	270.0m	-	270.0m
プール	270.0m	-	-	270.0m

■敷鉄板

	既存/置替	新設	撤去	合計
改良	-	155枚	0枚	155枚
杭	155枚	131枚	0枚	286枚
校舎1	286枚	197枚	0枚	483枚
校舎2	483枚	0枚	-76枚	407枚
プール杭	-	221枚	0枚	221枚
プール	221枚	0枚	0枚	221枚

【敷鉄板】

・・・12月撤去（事務所・駐車場と合わせて）※1月中旬までに建築ですき取り

・・・11月撤去 ←先行して乗り込める部分

※屋外倉庫は11月に上屋が設置予定。

基礎にアンカー設置していますので車両が通ることはできない

凡例

凡例	名称・仕上・仕様
	地盤改良範囲
	【既存・撤去】養生鉄板 6096×1524 t22 (133枚)
	【既存・撤去】クロスゲート
	【既存・撤去】仮囲い・成型鋼板(白) H=2.0m 延長27m
	【新設・撤去】仮設足場：900×1800
	【新設・撤去】交通整理員(22日/月)

特記仕様

- 【既存・残置】：前工事で設置し、次の工事へ引き継ぐ
- 【既存・撤去】：前工事で設置し、本工事で撤去
- 【新設・残置】：本工事で設置し、次の工事へ引き継ぐ
- 【新設・撤去】：本工事で設置し、撤去する

※新設及び引き継いだ仮設計画は本工事ですべて撤去とする

- ・工事期間 本体工事：令和8年度4月初旬～令和8年度3月中旬予定
- ・建築工事は余裕期間制度を利用した計画とする。契約から6ヵ月間は準備工事を含み、建築工事をおこなわないものとする。
- ・本工事は学校運営をおこなっている間の工事となるため安全に配慮した計画をおこなうこと。
- ・若工に先立ち、各種協議及び申請をおこなうこと。
- ・若工に当たり現況確認の後、仮設計画図を作成し、係員の了承を受けること。
- ・ガードマンの設置等、学校関係者及び係員と十分協議をおこなうこと。
- ・枠組足場（建地H=900）・安全手摺は適宜設置のこと。
- ・仮囲いの出隅部や見通しの悪い部分にクリアパネルを設置すること。
- ・「プランコ、ジャングルジム、滑り台、シーソー」設置計画位置にある資材・産廃置場は工事の進捗に合わせて令和8年11月までに移設をおこなうこと。

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図（１）

1. 一般事項

- a. 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
b. 「特記による」とあるものは構造図を参照する事。該当項目がない場合は監理者に相談する事。
c. 丸鋼・溶接鋼は原則使用しない。使用する場合は監理者に相談する事。

2. かぶり厚さ

- a. 設計かぶり厚さは表 1 による。
b. ひび割れ誘発目地部などかぶり厚さが部分的に減少する箇所は、防錆鉄筋を使用するなどの防錆処置を講ずることもあるが、目地底から最小かぶり厚さを確保する。

表 1 設計かぶり厚さ

部材の種類		短期		標準・長期		超長期	
		屋内・屋外	屋内	屋外	屋内	屋外	屋内
構造部材	梁・耐力壁	40	40	40	40	50	50
	スラブ	30	30	40	40	50	50
非構造部材	構造部材と同等の耐久性を要求する部材	30	30	40	40	50	50
	計画使用期間中に維持保全を行う部材	30	30	40	(30)	(30)	(30)
直接土に接する梁・壁・床および布基礎の立上り部分		50					
基礎		70					

- 【注】(1) ビット内のかぶり厚は屋外を適用とする。
(2) スペース及び施工計画については設計かぶり厚により行う。
(3) D29以上の鉄筋を使用する場合の最小かぶりは呼び径d1.5以上とする。
(4) 最小かぶりは設計かぶり-10mmとする。

3. 鉄筋間隔と鉄筋のあき

鉄筋間隔と鉄筋のあきの最小値は表 2 による。

表 2 鉄筋間隔・鉄筋のあきの最小値

異形鉄筋	鉄筋間隔	鉄筋のあき
	・呼び名の数値の 1.5 倍＋最外径 ・粗骨材最大寸法の 1.25 倍＋最外径 ・25mm＋最外径 のうち大きいほうの数値	・呼び名の数値の 1.5 倍 ・粗骨材最大寸法の 1.25 倍 ・25mm のうち大きいほうの数値

【注】D：鉄筋の最外径 d：鉄筋径

4. 加工形状

表 3 折曲げ形状・寸法

図	折曲げ角度	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法直径 (D)
	180°	SD 295	D16以下	3d 以上
	135°	SD 345	D19～D41	4d 以上
	90°	SD 390	D41以下	5d 以上
	90°	SD 490	D26以下 D29～D41	6d 以上

- 【注】(1) d は、異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。
(2) スパイラル筋の重ね継手部に 90°フックを用いる場合は、余長は 12d 以上とする。
(3) 片持スラブの上端筋の先端、壁筋の自由端側の先端で 90°フックまたは 135°フックを用いる場合は、余長は 4d 以上とする。
(4) 折曲げ内法直径を上表の数値よりも小さくする場合は、事前に鉄筋の曲げ試験を行い、支障の無いことを確認した上で工事監理者の承認を得る事。

5. 加工

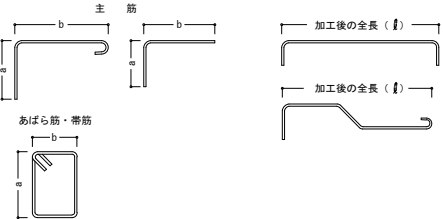
- a. 有害な曲がりあるいは損傷のある鉄筋は用いない。
b. コイル状の鉄筋は直線器にかけて用いる。この際鉄筋に損傷を与えてはならない。
c. 鉄筋は鉄筋加工図に従い、所定の寸法に切断する。切断は、シヤカッターまたは電動カッターなどによって行う。
d. 鉄筋の折曲げは冷間加工とし、手動鉄筋折曲げ機または自動鉄筋折曲げ機などによって行う。
e. 鉄筋の加工は、設計図書および鉄筋加工図に従い、下記（１）および（２）により行う。

- (1) 加工寸法の許容差は、表 4 による。

表 4 加工寸法の許容差

項目		符 号	許容差
各加工寸法	主筋	a, b	±15
	あばら筋・帯筋	a, b	±20
	あばら筋・帯筋・スパイラル筋	a, b	±5
	加工後の全長	ℓ	±20

【注】各加工寸法および加工後の全長の測り方の例を下図に示す。



- (2) 折曲げは冷間加工とし、その形状・寸法は表 3 による。

- e. 下記（１）～（３）に示す鉄筋の末端部には、フックを付ける。あばら筋および帯筋のフック折曲げ角度は各規定による。
(1) あばら筋および帯筋
(2) 梁（基礎梁を除く）の出隅部の鉄筋
(3) 煙突の鉄筋

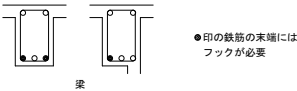


図 1 異形鉄筋でも建築基準法によって末端にフックを必要とする出隅部の鉄筋

6. 組立て

鉄筋は施工図に基づき、所定の位置に正しく配筋し、コンクリートの打込み完了まで移動しないよう堅固に組み立てる。

7. パーサポート・スペーサー

- a. パーサポート・スペーサーの種類は下記による。

- (1) コンクリート製
(2) 鋼製（かぶり部分は防錆塗装を施すこと）
(3) プラスチック製
(4) ステンレス製

表 5 パーサポートおよびスペーサーなどの種類および数量・配置の標準

部 位	ス ラ ブ	梁	柱
種 類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
数 値	上端筋、下端筋それぞれ 1.3 節ノ m 程度 間隔は 0.8m 程度	間隔は 1.5m 程度 端部は 1.5m 以内	上段は梁より 0.5m 程度 中段は柱脚と上段の中間 柱軸方向は 1.0m まで 2 節 1.0m 以上 3 節
備 考	端部上端筋および中央部 下端筋には必ず設置	側梁以外の梁は上又は下に 設置。側梁は側面の両側へ 対称に設置	同一平面に点対称となるように 設置
部 位	基 礎	基 礎 梁	壁・地下外壁
種 類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
数 値	面積 4㎡程度 8 節 16㎡程度 20 節	間隔は 1.5m 程度 端部は 1.5m 以内	上第一横筋に設置 または 左右第一縦筋に設置 間隔は 1.5m 程度
備 考		上または下と側面の両側 へ対称に設置	

【注】スペーサーの種類は、側面に限りプラスチック製でも良い。
それ以外の箇所ではプラスチック製を使用する場合には剛性・強度・安定性・耐火性など十分に確認し利用すること。
べた基礎はスラブ、布基礎は基礎梁の標準を準用すること。

8. 定着

- (1) 定着長さ

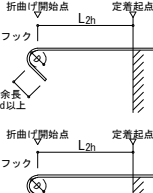
- a. 特記のない場合、小梁・スラブの下端筋を除く異形鉄筋の、直線定着長さL2は表 6（a）の数値以上とし、フック付き定着の長さL2hは同表（b）の数値以上とする。

表 6 鉄筋の定着の長さ

(a) 直線定着の長さL2				
コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	SD295	SD345	SD390	SD490
18	40d	40d	—	—
21	35d	35d	40d	—
24～27	30d	35d	40d	45d
30～36	30d	30d	35d	40d



(b) フック付き定着の長さL2h				
コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	SD295	SD345	SD390	SD490
18	30d	30d	—	—
21	25d	25d	30d	—
24～27	20d	25d	30d	35d
30～36	20d	20d	25d	30d



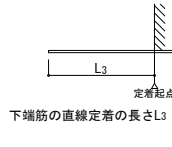
- 【注】(1) d は、異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。
(2) フック付き鉄筋の定着長さL2hは定着起点から鉄筋の折曲げ開始点までの距離とし、折曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
(3) フックの折曲げ内法寸法直径d1および余長は表 3 による。
(4) 軽量コンクリートを使用する場合は、Fc ≤ 36N/mm²の軽量コンクリートと SD490 以外の異形鉄筋を対象として、表 6 の数値に 5d 以上を加算した数値とし、工事監理者の承認を得ること。

- b. 特記のない場合の小梁・スラブの下端筋の定着長さL3は、表 7（a）の数値以上とし、フック付き定着長さL3hは同表（b）の数値以上とする。

表 7 小梁・スラブの下端筋の定着の長さ

(a) 直線定着の長さL3

コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	鉄筋の種類	下端筋	
		小梁	スラブ
18～36	SD295 SD345 SD390	20d*	10d*かつ 150mm以上



【注】*：片持ち小梁・片持ちスラブの下端筋を直線定着する場合は、25d以上とする。

(b) フック付き定着の長さL3h

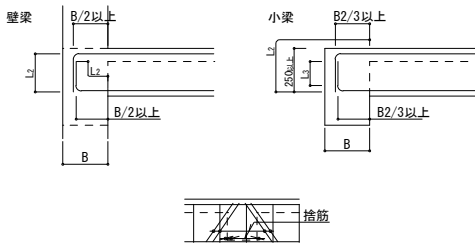
コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	鉄筋の種類	下端筋	
		小梁	スラブ
18～36	SD295 SD345 SD390	10d	—



- 【注】(1) d は、異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。
(2) 耐圧スラブの下端筋の定着長さは表 6 による。
(3) フック付き鉄筋の定着長さL3hは定着起点から鉄筋の折曲げ開始点までの距離とし、折曲げ開始点以降のフック部は定着長さに含まない。
(4) フックの折曲げ内法寸法直径d1および余長は表 3 による。

- c. 仕口内に 90°折曲げ定着する鉄筋の定着長さが、表 6（b）のフック付き定着長さL3hを満足しない場合は定着方法は下記による。

定着する梁幅B上端筋は余長部でL2、下端筋は壁梁の場合は躯体面からL2、小梁はL3とする。
このとき投影定着長さをB/2以上とすること。



定着する梁せいが小さく垂直に余長が確保できない場合は、上端筋は斜め定着、下端筋は斜めあるいは水平定着としてよい。

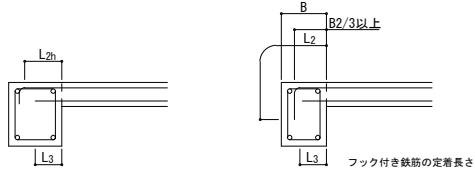


図 2 スラブの定着長さの取り方

- d. 基礎梁は 1 2. 基礎梁、壁梁は 1 3. 壁梁、小梁は 1 5. 小梁、片持ち梁を各々参照すること。

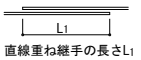
9. ガス圧接継手・重ね継手及び特殊継手

- a. ガス圧接の仕様は、（社）日本鉄筋継手協会「鉄筋継手工事標準仕様書 ガス圧接継手工事」（2009年度版）による。
b. 特記のない場合の重ね継手長さは、柱・梁主筋以外のその他の鉄筋を対象として、直線重ね継手の長さL1は表 9（a）の数値以上とし、フック付き重ね継手L1hは同表（b）の数値以上とする。但し、杭主筋を除きD35以上の異形鉄筋には、原則として重ね継手は用いない。
c. 機械式継手を用いる場合は、機械式継手標準図を参照すること。
d. 継手は、1 か所に集中することなく、相互にずらして設けること。

表 8 異形鉄筋の重ね継手の長さ

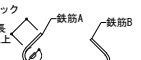
(a) 直線重ね継手長さL1

コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	SD295	SD345	SD390	SD490
18	45d	50d	—	—
21	40d	45d	50d	—
24～27	35d	40d	45d	55d
30～36	35d	35d	40d	50d



直線重ね継手の長さL1

コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	SD295	SD345	SD390	SD490
18	35d	35d	—	—
21	30d	30d	35d	—
24～27	25d	30d	35d	40d
30～36	25d	25d	30d	35d



フック付き重ね継手の長さL1h

- 【注】(1) d は、異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。
(2) 直径の異なる重ね継手の長さは、細いほうの d による。
(3) フック付き重ね継手の長さは、鉄筋相互の折曲げ開始点間の距離とし、折曲げ開始点以降のフック部は継手長さに含まない。
(4) フックの折曲げ内法直径および余長は、特記のない場合は表 3 による。
(5) 軽量コンクリートを使用する場合は、Fc ≤ 36N/mm²の軽量コンクリートと SD490 以外の異形鉄筋を対象として、表 9 の数値に 5d 以上を加算した数値とし、工事監理者の承認を得ること。

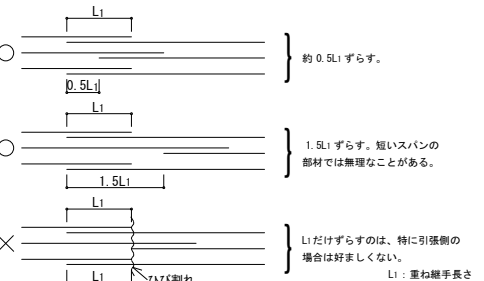


図 3 重ね継手のずらし方

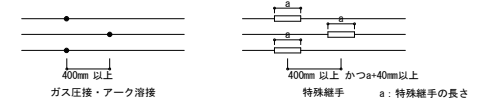
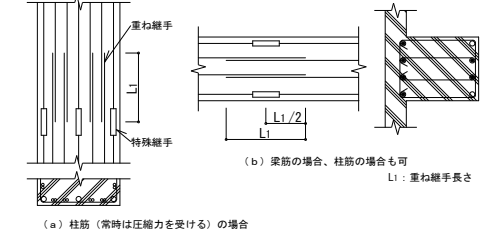


図 4 ガス圧接継手・アーク溶接継手・特殊継手のずらし方



(a) 柱筋（常時は圧縮力を受ける）の場合

図 5 特殊継手と重ね継手併用の場合のずらし方

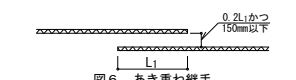


図 6 あき重ね継手

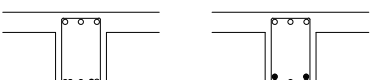


図 7 水平重ね・上下重ね

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (2)

10. フレアグループ溶接

本建物の施工において、原則フレアグループ溶接は行わない事。
(場所打ちコンクリート杭のフープ筋を除く)

11. 基礎

a. 独立基礎
特記による。

b. 連続基礎
特記による。

c. べた基礎
特記による。

12. 基礎梁

(1) 壁梁の標準配筋図
13. 壁梁による。

(2) 壁梁の範囲
13. 壁梁による。

(3) 定着

① 直接基礎

② 杭基礎

(注) 水平定着は、直交梁内に500以上定着をとること。
なお、隅部の上端筋1段目最外角の主筋及び隅部に配置される基礎梁の腹筋は直交梁内に折り曲げ起点からL2 水平定着をとること。

(注) 基礎梁主筋は直交梁内から定着長をとること。
なお、隅部の上端筋1段目最外角の主筋及び隅部に配置される基礎梁の腹筋は直交梁内に折り曲げ起点からL2 水平定着をとること。

③ 断面

(i) 梁端部・中央部の範囲とカットオフ筋のカットオフ位置

(a) 杭基礎の場合

(b) 布基礎・べた基礎の場合

(ii) 基礎梁筋の継手位置
(ガス圧接継手)

(a) 杭基礎の場合

(b) 基礎つなぎ梁、基礎小梁の場合

(c) 布基礎・べた基礎の場合

印 ガス圧接位置
継手の好ましい位置
継手の好まない位置

(4) あばら筋・腹筋

(i) あばら筋の割付け
13. (4) による。

(ii) あばら筋の形状

基礎梁のあばら筋の一般形状は図8の(a)～(h)および図9の(a)～(c)とし、基礎梁に打継ぎを設ける場合は図10の(b) (c) および (e) (f) の形状の組合せで、継手を設けてもよい。

(a) (b) (c) (d) (e) (f) (g) (h)

図8 あばら筋の一般形状

(a) (b) (c)

[注] フックを180°で図示しているところは 135°フックとしてもよい。

図9 副あばら筋の一般形状

(a) (b) (c) (d) (e) (f)

[注] (a)で ㄱ を使用してもよいが ㄴ を使用してはいけない。
(b)では、あばら筋の継手は90°、135°フックとしてよい。
(c)では、副あばら筋の末端は上下とも90°フックとしてよい。
(d)では、副あばら筋の継手は90°、135°フックとしてよい。
(e) (f)では、末端のフックを180°で図示しているところは、135°フックとしてよい。

図10 基礎梁に用いるあばら筋・副あばら筋の一般形状

13. 壁梁

(1) 壁梁の標準配筋図

(2) 壁梁の範囲

(3) 定着

① 壁梁

(注) 基礎梁は、主筋及び腹筋と同位置に水平補強筋を入れること。

② 壁梁

(注) 基礎梁は、主筋及び腹筋と同位置に水平補強筋を入れること。

(4) あばら筋・腹筋

(i) あばら筋の割付け

(ii) あばら筋の形状

複配筋 (一般の場合)

単配筋

(梁の上端に床スラブが取付く場合)

[注] 副あばら筋末端部の180°もしくは 135° フックは、スラブ が取り付く側 (一般的には梁の上側) に限り90°フックとしてもよい。ただし、梁の端部で主筋の降伏が予測される領域では 135° または 180°に限りフックを原則とする。
また、キャップタイはスラブが取り付く側のみ90°フックとできる。ただし、梁とスラブに段差がある場合は 135° フックとする。
単配筋の場合は、片側スラブ付きの場合②としフックの位置はスラブ側とすること。

(iii) 腹筋

腹筋を継ぐ場合は、重ね継手長さIとする。

(iv) 幅止め筋

(5) 壁梁と壁のおさまり

壁梁の幅は耐力壁の厚さ以上とする

複配筋 逆梁 単配筋 スラブ

はり幅の最小寸法 (構造体寸法) (単位 mm)

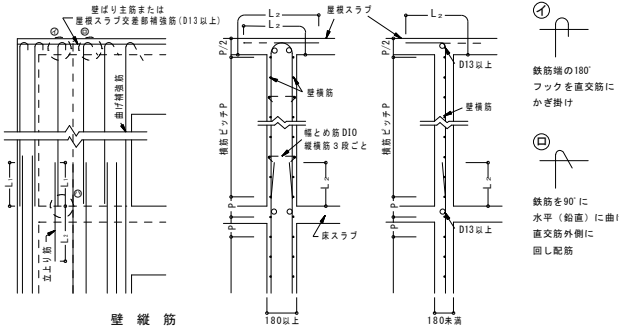
おさまり	曲げ補強筋		おさまり	曲げ補強筋	
	D13	D16		D13	D16
A	180	180	B	195	200
D16	180	190	D19	205	220
D19	190	200			

(柱) かぶり厚さ 40mm の場合

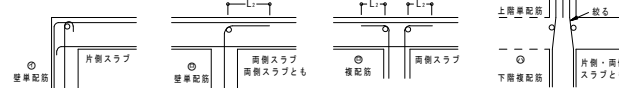
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (3)

14. 耐力壁

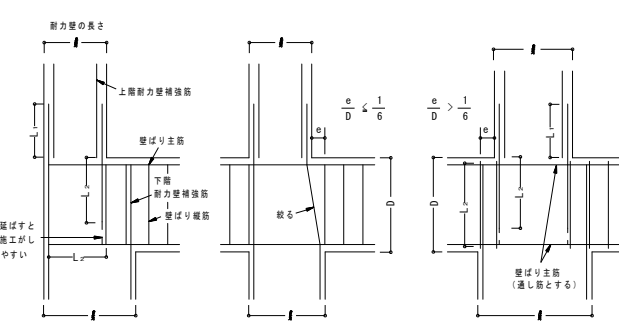
(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



耐力壁と床・屋根スラブ

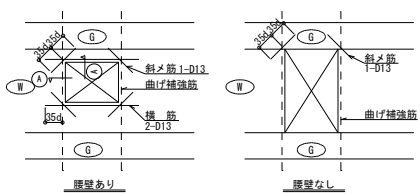


(2) 上・下階耐力壁の各種配置

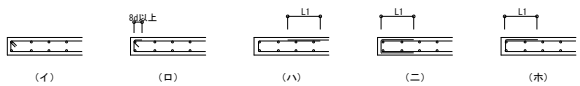


(3) 開口補強筋

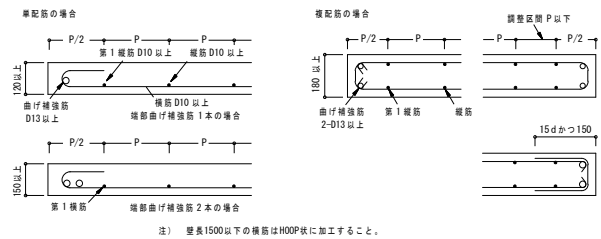
①断面図は上図(イ)～(ホ)にならう。
開口補強筋は特記による。



※ 斜め補強筋位置は開口縁から設計かぶり位置に配筋すること。

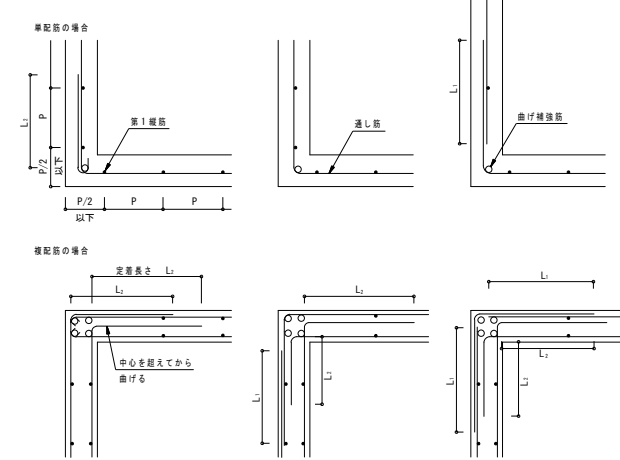


(4) 耐力壁の縦・横筋の配置

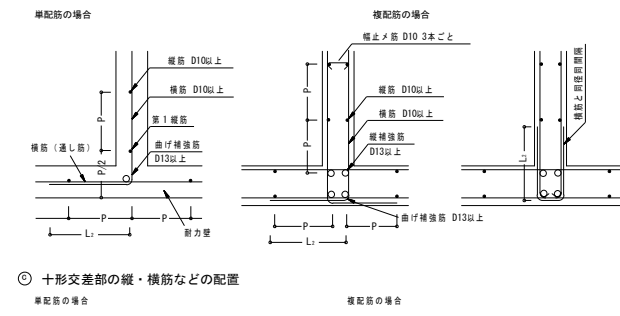


(5) 耐力壁が交差する場合(平面)

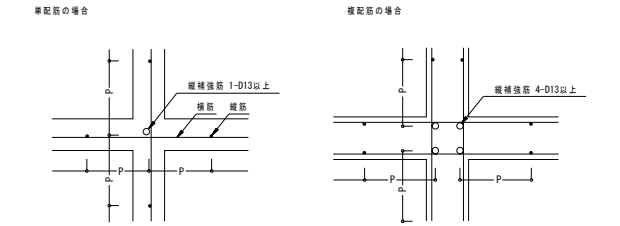
① L形交差部の縦・横筋などの配置



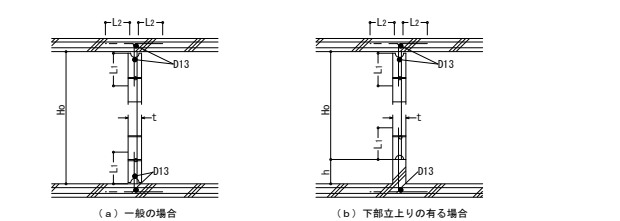
② T形交差部の縦・横筋の配置



③ 十形交差部の縦・横筋などの配置



(6) コンクリートブロック横壁

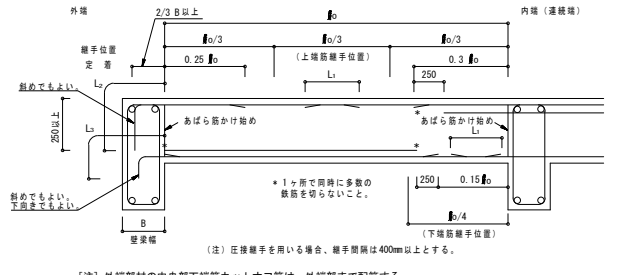


[注] ・ $h \leq 25t$ かつ3,500以下とする。但し直交方向25t以内に壁又は柱がある場合は除く。
・ h はコンクリートブロック段数調整寸法とする。但し $200 \leq h \leq 400$
・継ぎ手部は必ずモルタルを充てんすること。

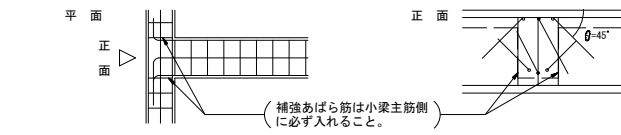
15. 小梁、片持ち梁

(1) 小梁

② 小梁の定着・継手位置およびトップ筋長さ



[注] 外端部材の中央部下端筋カットオフ筋は、外端部まで配筋する。



③ あばら筋、腹筋

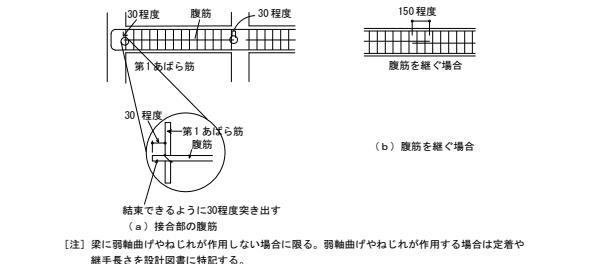
(i) あばら筋の割付け

13.(4)による。

(ii) あばら筋の形状

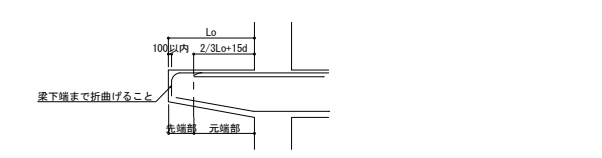
13.(4)による。

(iii) 腹筋

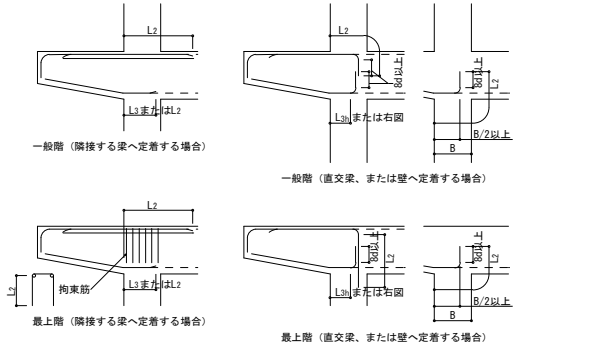


(2) 片持ち梁

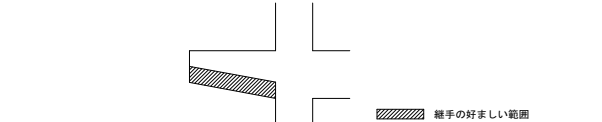
① 片持梁元端部・先端部の範囲とカットオフ筋のカットオフ位置



② 定着

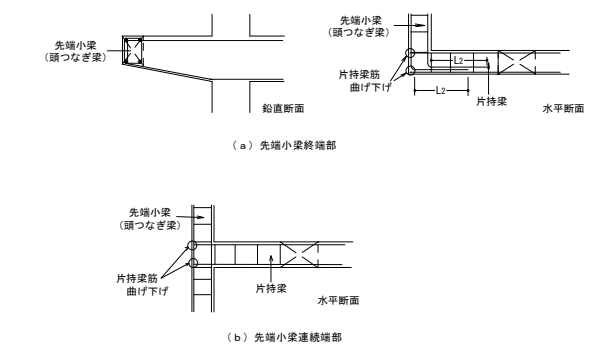


③ 片持梁筋の継手位置



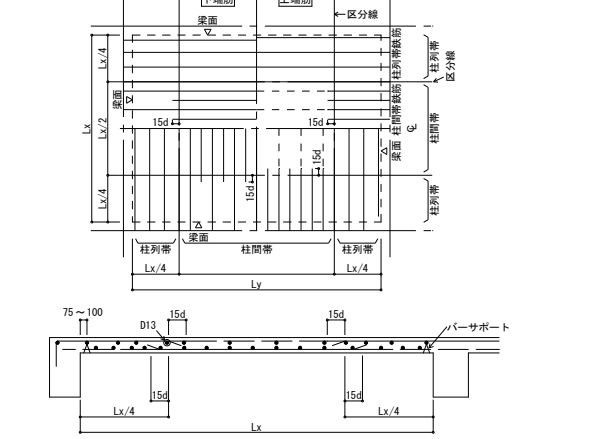
[注] ・片持梁筋のカットオフ位置は設計図書の特記による。特記のない場合は上図による。
・最上筋は通し配筋とする。

(4) 片持梁と先端小梁の納まり



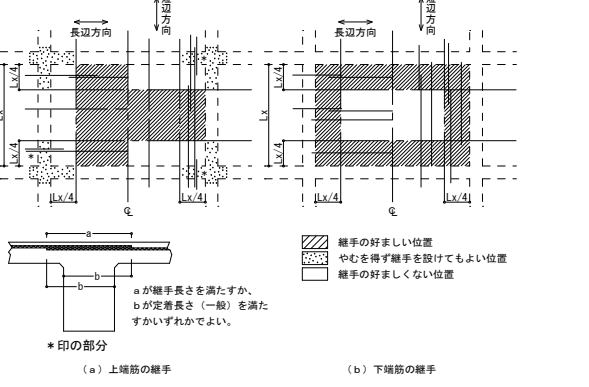
16. 床版

a. 配筋



[注] L_x : 短辺有効スパン長さ
 L_y : 長辺有効スパン長さ

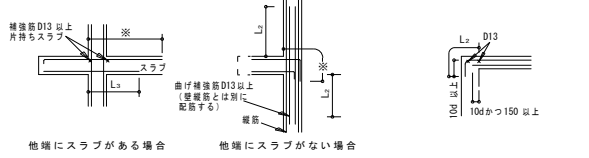
b. 継手位置



[注] ・スラブ筋の継手は、梁幅内に設けないことが望ましい。(a)図の*印の定着は隣接するスラブ配筋が異なる場合など、やむを得ない場合とする。
・べた基礎(耐圧スラブ)のスラブ筋の継手位置は、(a)(b)の図で上端筋→下端筋、下端筋→上端筋として接合しなさい。

c. 定着

① 片持ちスラブ

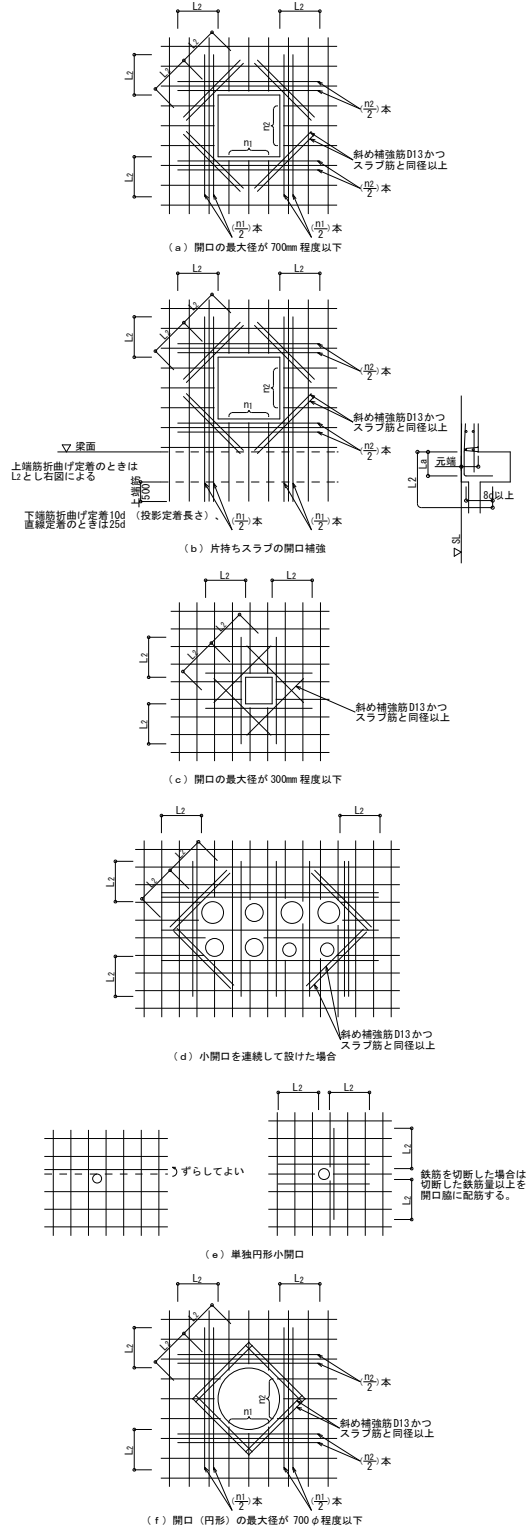


d. 片持スラブ

特記による。

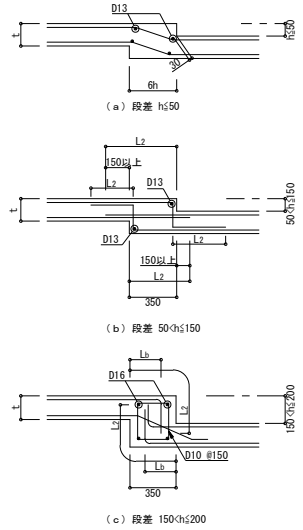
壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (4)

e. 開口補強

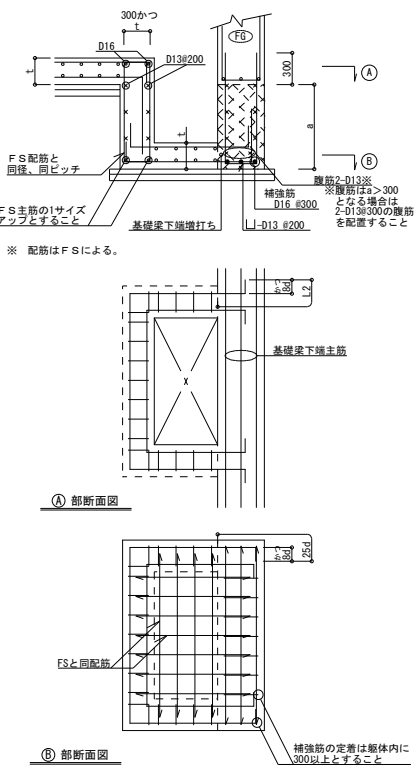


【注】 (1) 開口によって切断される鉄筋と同量の鉄筋で周囲を補強する（上下筋とも）。
(2) 補強筋は鉄筋の間隔を50mm程度あけて配筋する。
(3) 斜め補強筋は上下筋の内側に配筋する。
又、開口隅（縁）から設計かぶりの位置に配筋すること。
(4) 開口が梁に接している場合は、補強筋の定着長さは梁面からの長さとする。

f. 段差

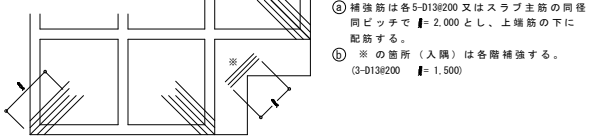


g. 釜場

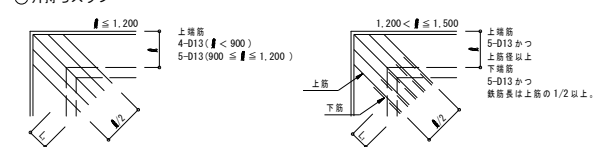


h. スラブ補強

① 一般スラブ

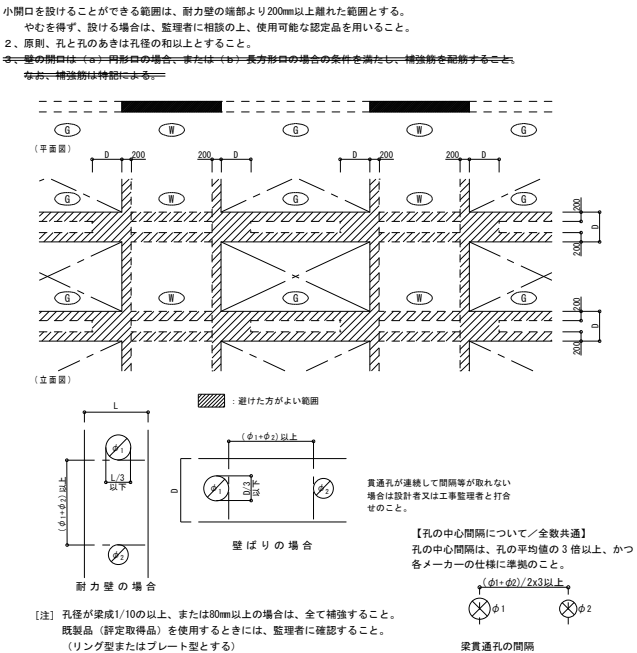


② 片持ちスラブ

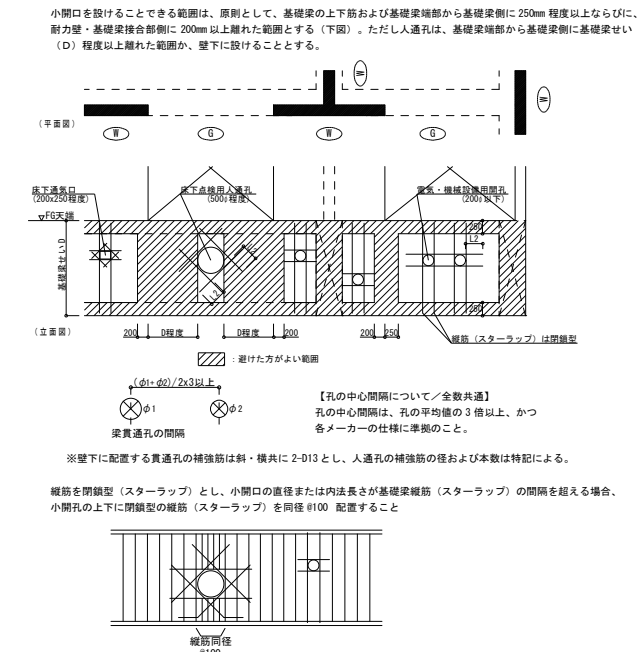


17. 小開口設置可能範囲

設置可能範囲（一般階）



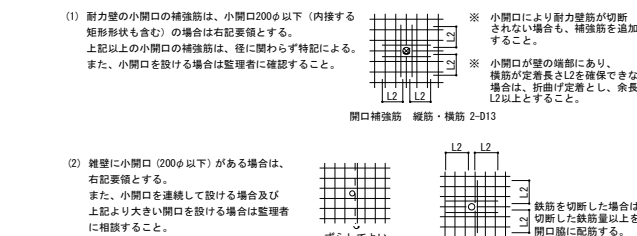
設置可能範囲（基礎梁）



既製品を使用する場合

開口補強を既製品（認定・評定品）を使用する場合は上記範囲内においてメーカー仕様準拠のこと。
但し、建物全体として仕様を適用すること。

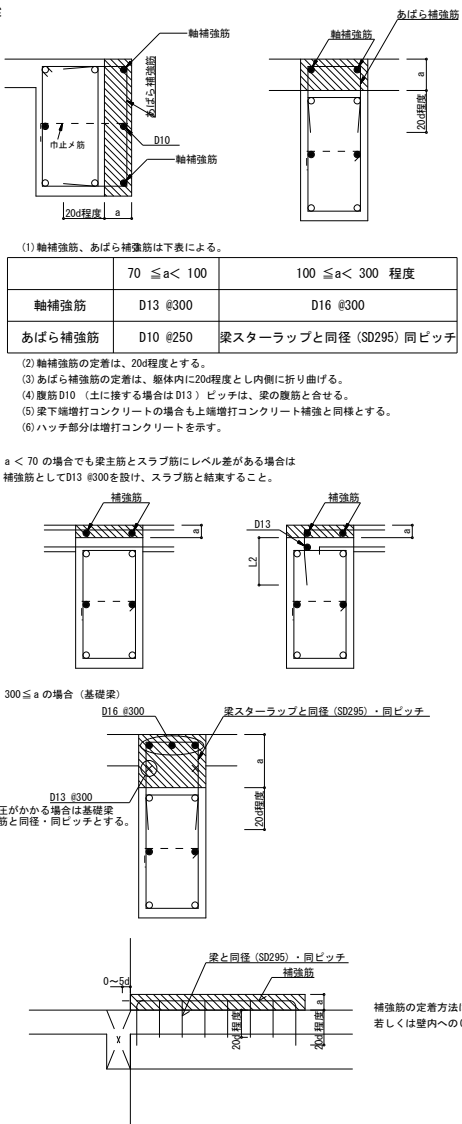
壁小開口部



18. 梁増打コンクリート補強

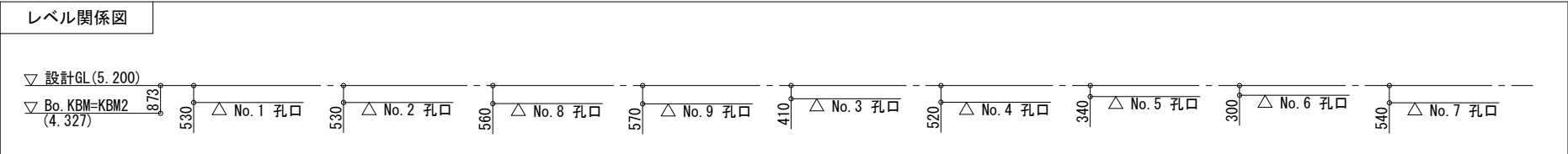
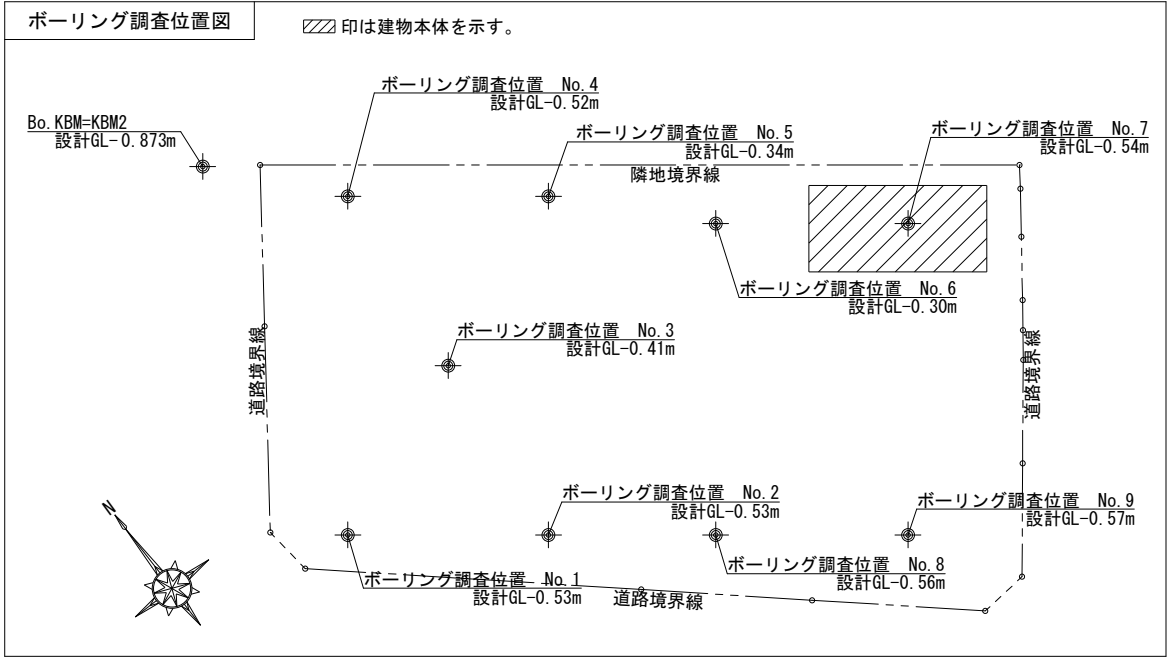
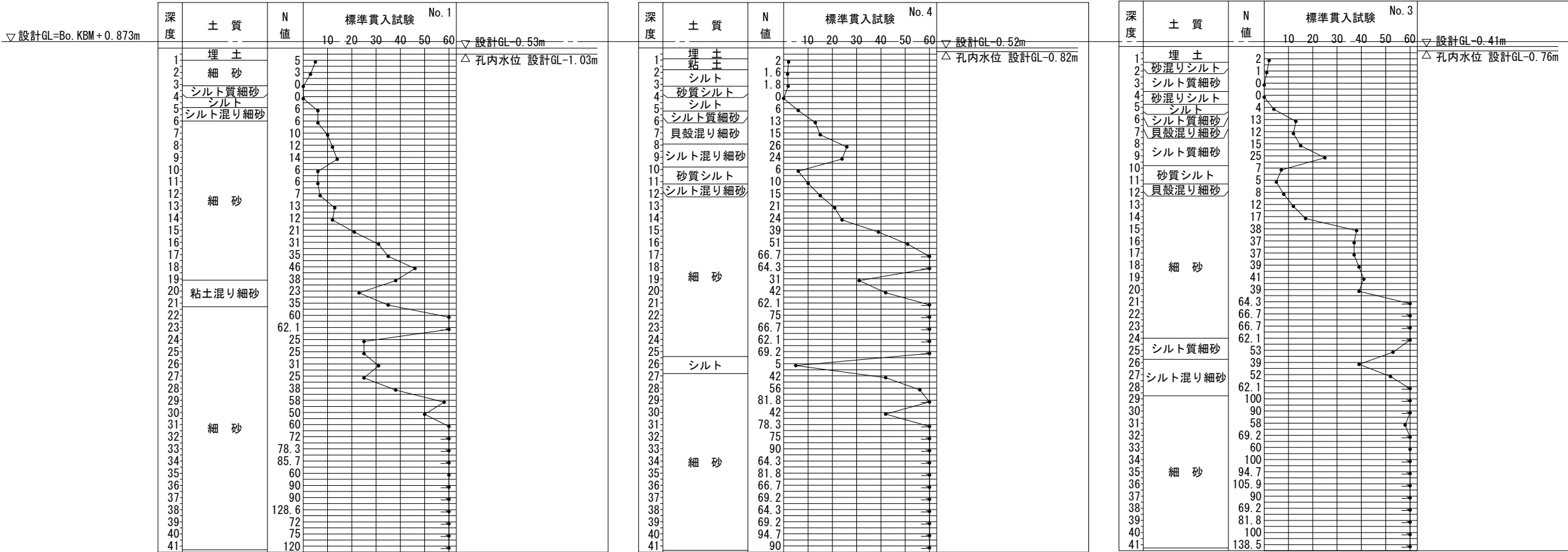
a. 特記なき部位に増打をする場合は事前に設計者および工事監理者と打ち合わせする事。

b. 梁



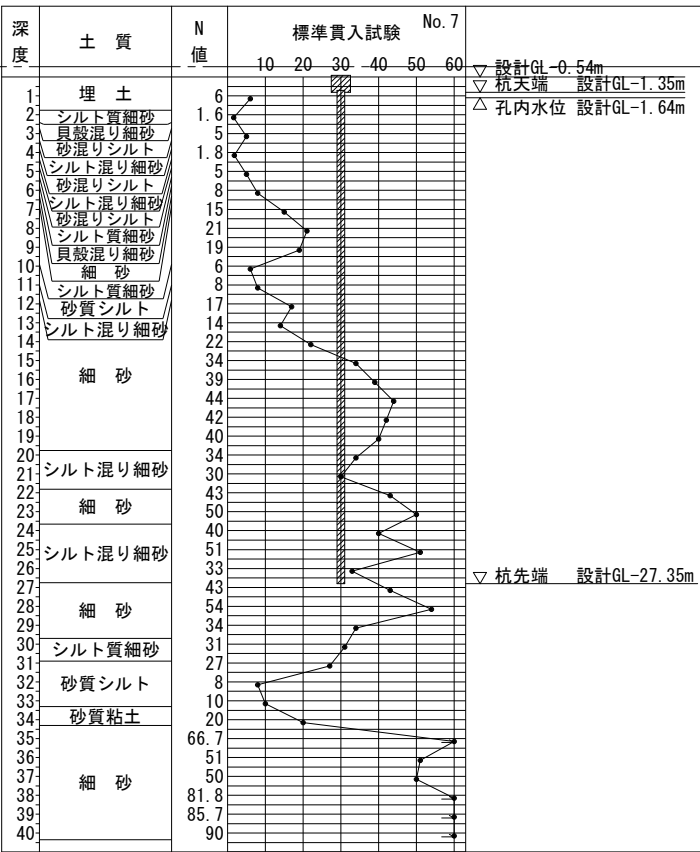
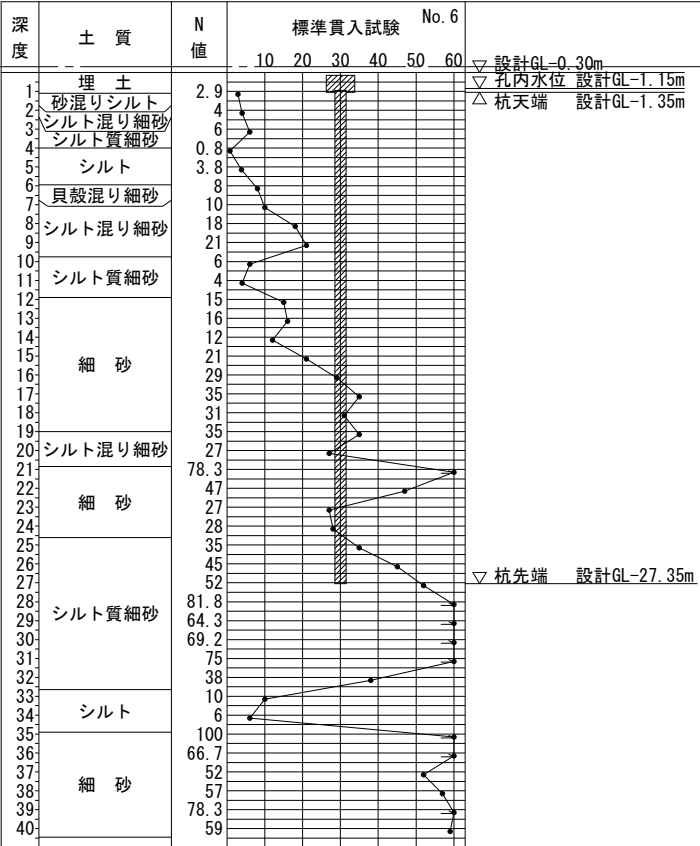
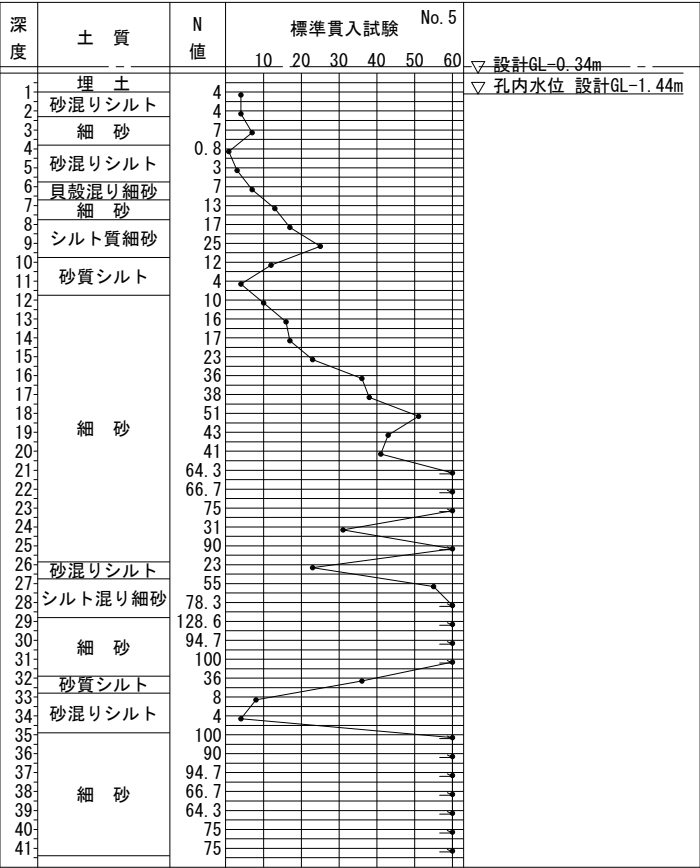
補強筋の定着方法は、梁自身への20d程度定着
若しくは壁内への0~5d定着とする。

土質柱状図（１）

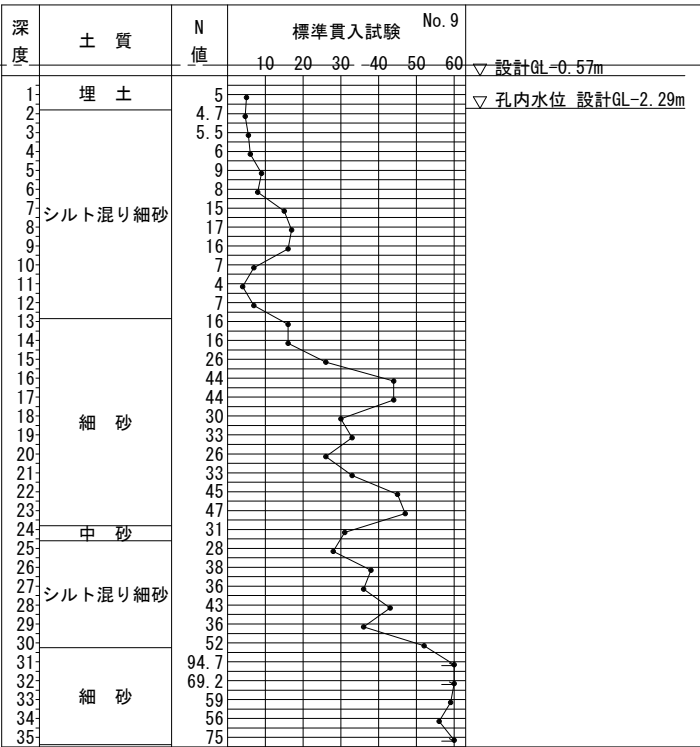
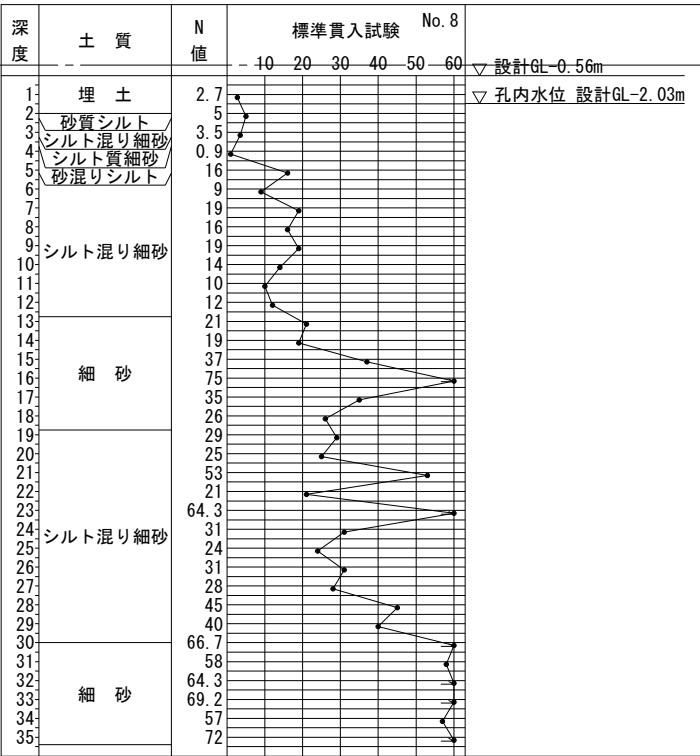
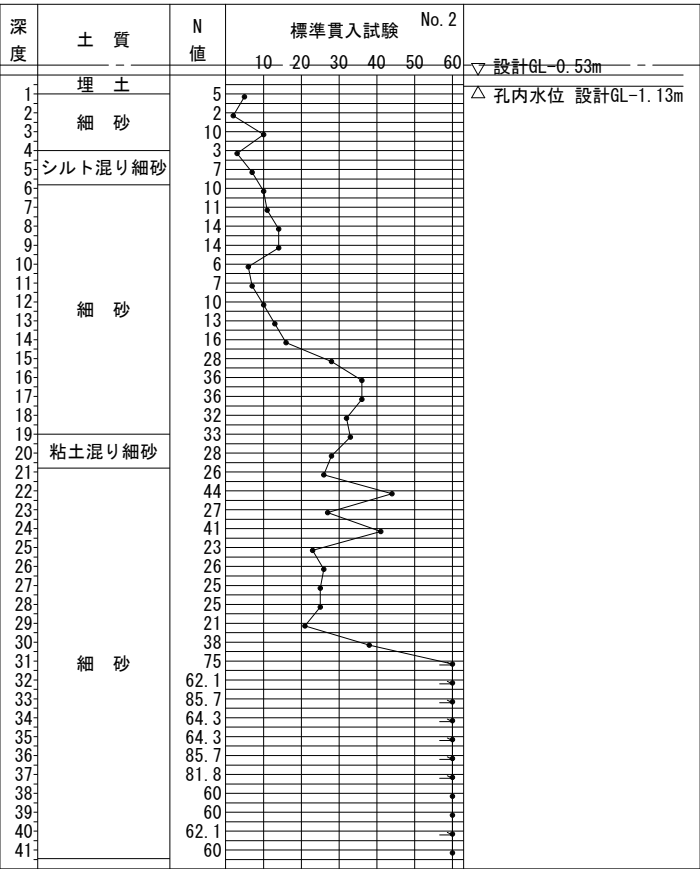


土質柱状図（2）

▽ 設計GL=Bo. KBM + 0. 873m

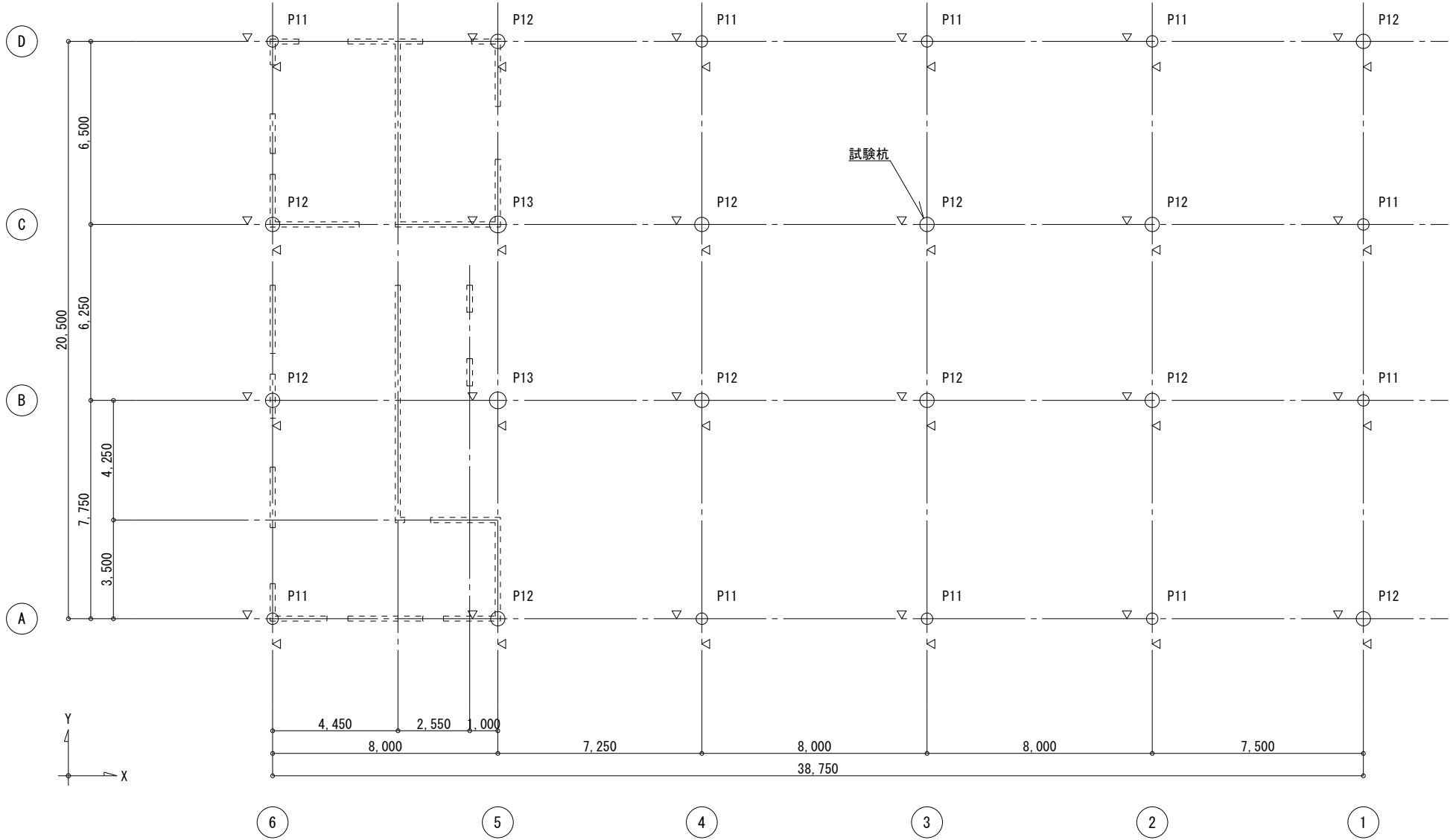


▽ 設計GL=Bo. KBM + 0. 873m

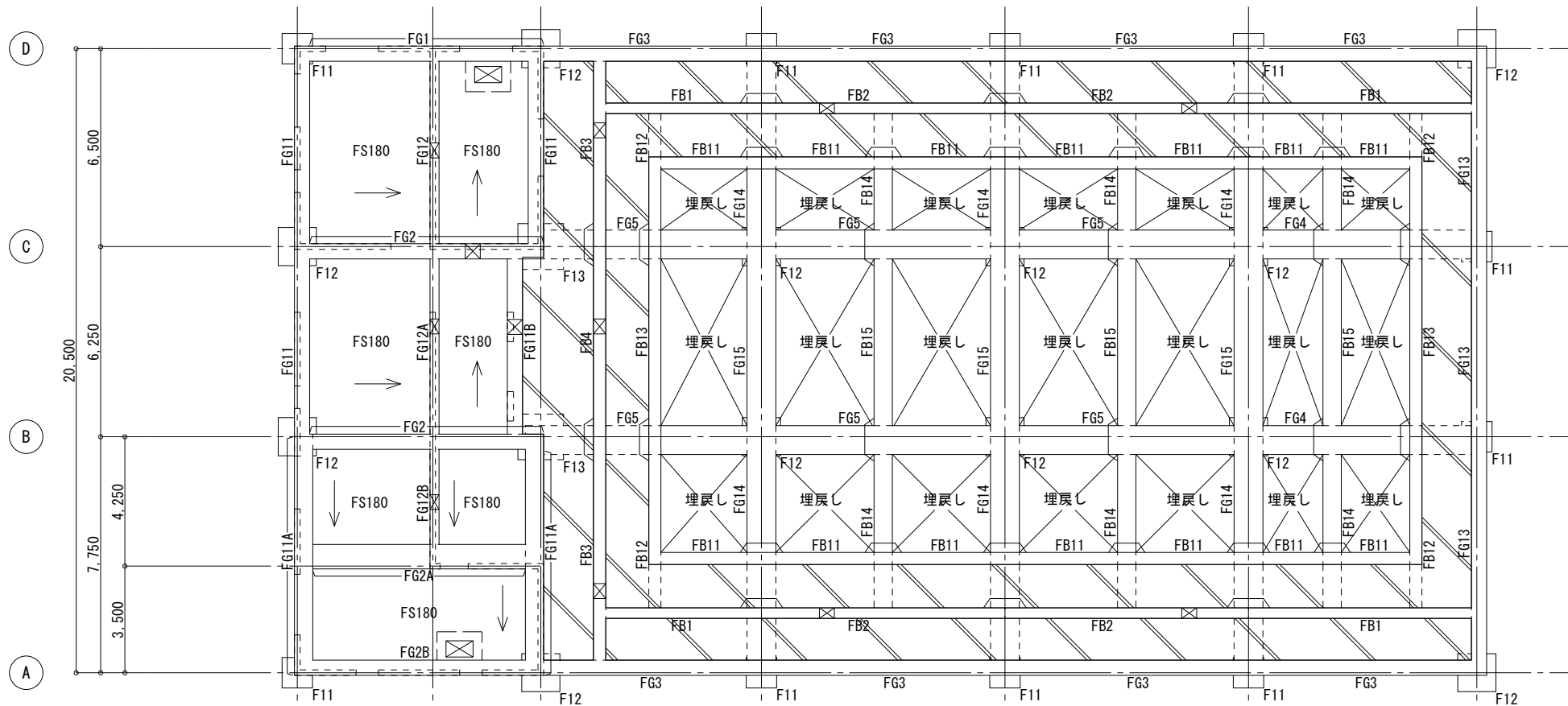


共通事項
特記なき限り下記とする。 1. 杭天端 設計GL -1,350 2. ▽印は、杭芯を示す。 3. 杭施工後、杭芯位置を測定し監理者に報告すること。 4. 試験杭は施工の進捗状況に合わせて係員と協議し決定すること。

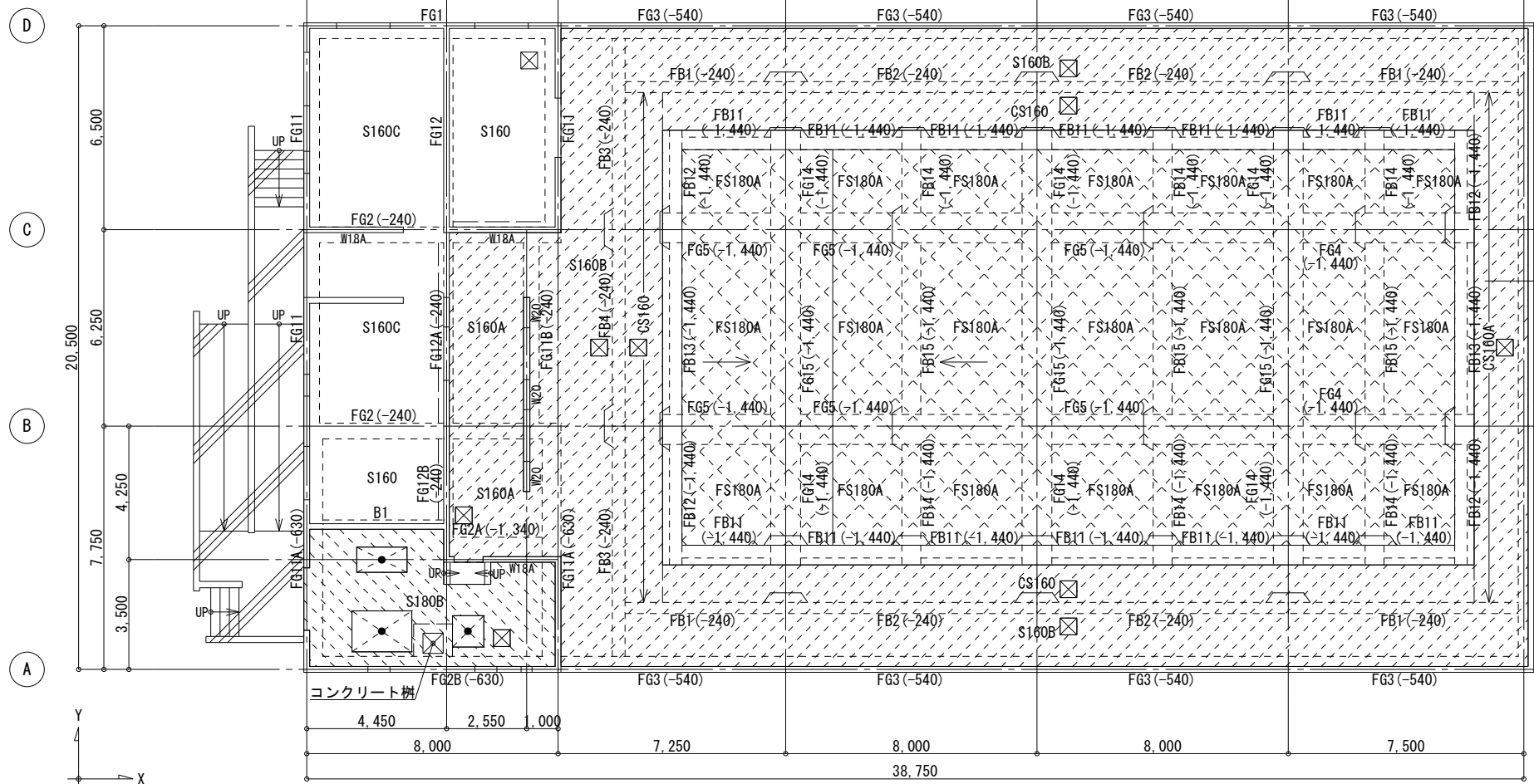
杭仕様			
杭 種 — PHC杭、PRC杭 杭工法 — プレボーリング拡大根固め工法 MAGNUM-BASIC工法（砂質・礫質地盤） 杭先端 — 設計GL-27.35 m以深 支持層 — 細砂、シルト混り細砂層			
符 号	杭 径	杭本数	長期 許容支持力（KN/本）
P11	400	10	1,363
P12	500	12	1,838
P13	600	2	2,362
		Σ= 24	



杭伏図

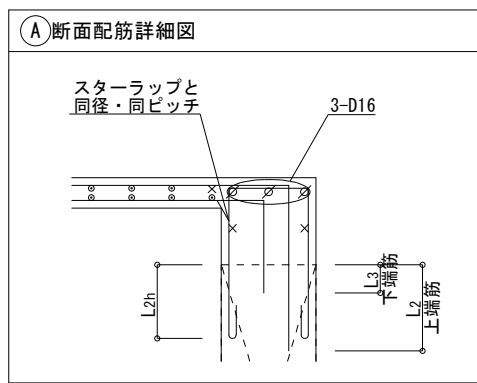


基礎・ピット伏図

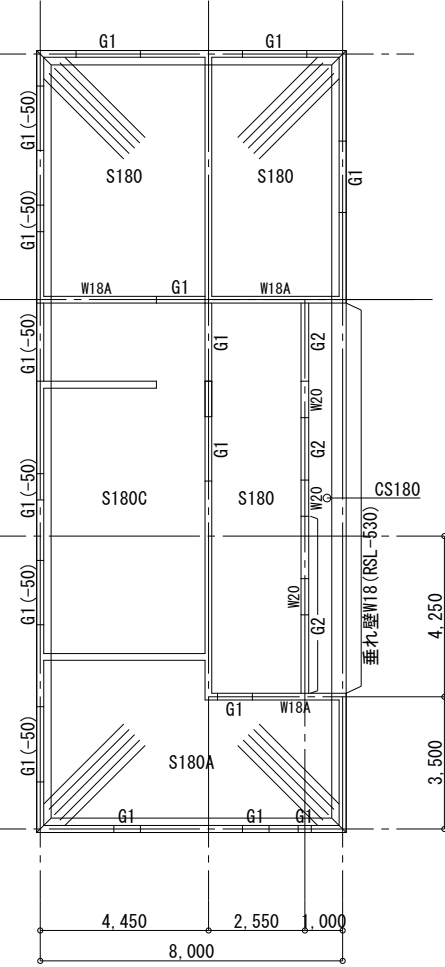


1階壁・1階床梁伏図

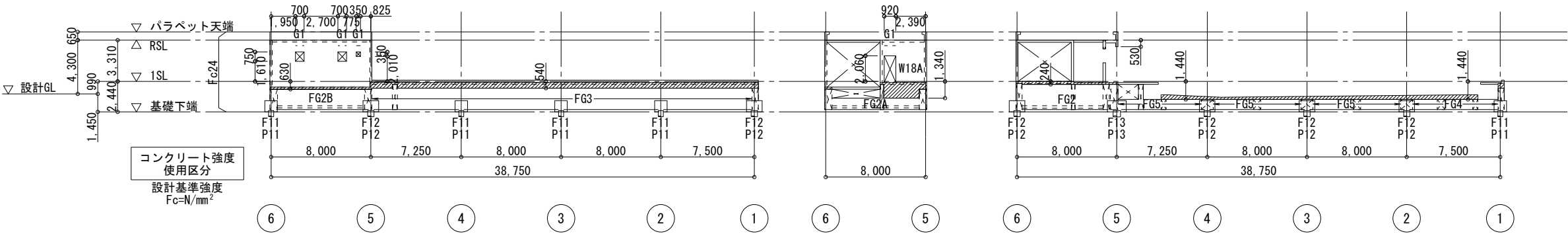
- 共通事項【 基礎・ピット伏図 】
- 特記なき限り下記とする。
- 1SL = 1FL-10 = 設計GL+990
 - 基礎下端 1SL-2,440
 - ピットスラブ天端 1SL-1,940
 - 印は人通路(500φ)を示す。(S-012図参照)
 - 印は砕石を示す。
 - 印は釜場を示す。(S-005図参照)



- 共通事項【 1階壁・1階、R階床梁伏図 】
- 特記なき限り下記とする。
- 壁符号 W18
 - 1SL = 1FL-10 = 設計GL+990
 - 印はスラブ天端SL-80を示す。
印はスラブ天端SL-450を示す。
印はスラブ天端SL-1,060~1,260を示す。
 - 1階梁天端 = 1SL-160(小梁含む)
R階梁天端 = RSL±0
 - ()内の数値はSLからの梁天端を示す。
 - スラブ天端と梁天端が異なる場合は梁天端を増打ちすること。
 - 印は、連続梁を示す。(施工中に小梁位置を調整し、かかりが梁幅の1/2未満となる場合は監理者に相談すること。)
 - 印はスラブ開口を示す。(S-005図参照)
 - スラブ補強筋は5-D13 @200(L=3,000)とする。(上端筋の下に配筋すること。)
 - 同一部材で屋内外となる床スラブ、壁、梁は、全て屋外としてかぶり厚を確保すること。
 - 印は設備基礎を示す。(S-014図参照)
 - 印は土間スラブを示す。(S-014図参照)
 - 印は水勾配を示す。
 - 開口部(掃き出し・腰壁窓)の支保工解体は、設計基準強度の100%を確認した上で行うこと。



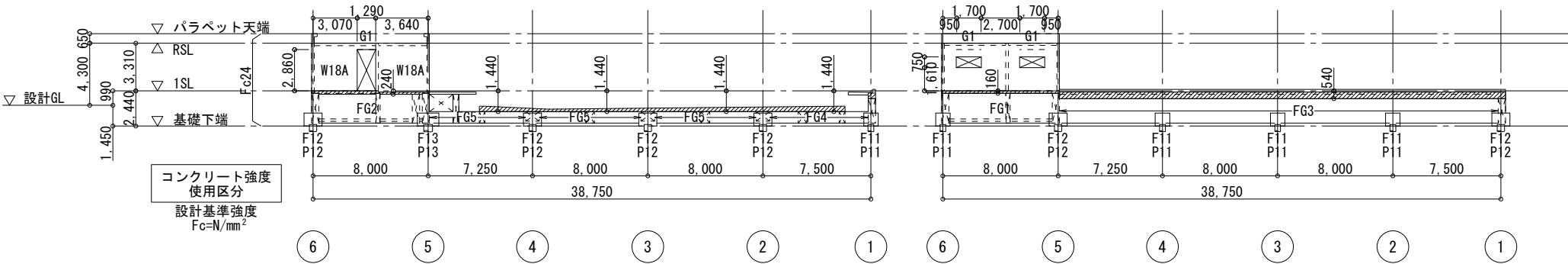
1階壁・R階床梁伏図



A通り軸組図

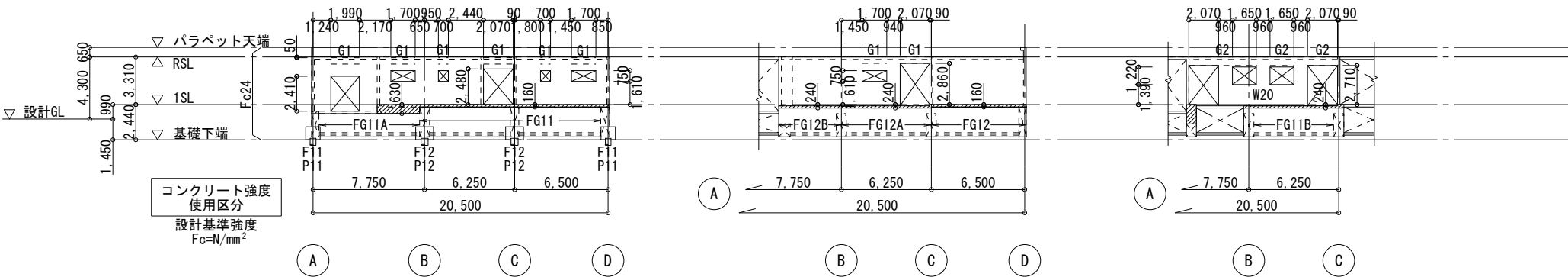
A+3,500通り軸組図

B通り軸組図



C通り軸組図

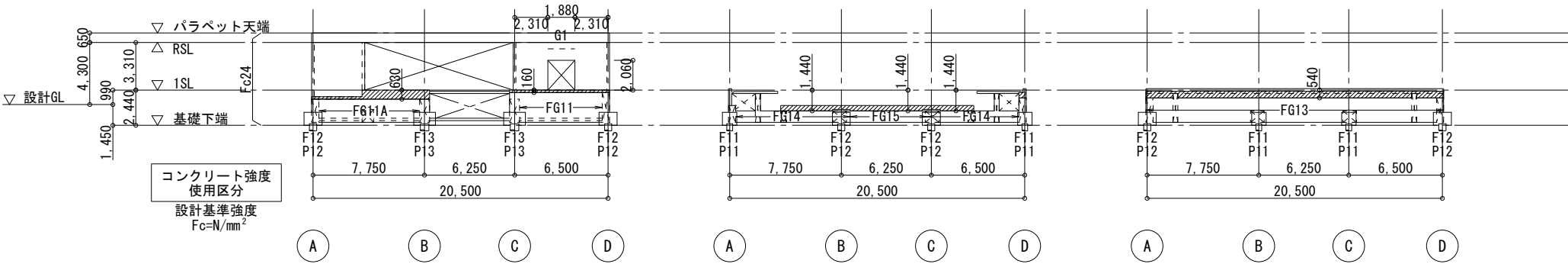
D通り軸組図



6通り軸組図

6+4,450通り軸組図

5-1,000通り軸組図



5通り軸組図

4,3,2通り軸組図

1通り軸組図

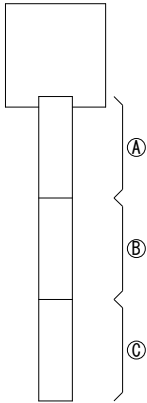
共通事項

- 特記なき限り下記とする。
1. 梁符号は、上階に倣う。
 2. 壁符号 W18
 3. 印は基礎梁天端増打ちを示す。
 4. < >内の数値は1SLからの基礎下端を示す。
 5. 基礎梁天端 = 1SL-160
 6. 開口位置・高さ・大きさは図中の寸法を厳守すること。
変更する場合は監理者に相談すること。

杭リスト（参考）

杭 種 — PHC 杭、PRC 杭
杭工法 — プレボーリング拡大根固め工法
MAGNUM-BASIC工法（砂質・礫質地盤）
拡径比 — 1.2
杭継手 — TPジョイント（標準型）
コンクリート強度 — Fc105

符 号		P11	P12	P13
㉠	種 別	105PRC I 種	105PRC I 種	105PHC C 種
	杭 径	400	500	600
	実 長	6.0	6.0	6.0
㉢	種 別	105PHC A 種	105PHC A 種	105PHC A 種
	杭 径	400	500	600
	実 長	10.0	10.0	10.0
㉣	種 別	105PHC A 種	105PHC A 種	105PHC A 種
	杭 径	400	500	600
	実 長	10.0	10.0	10.0
杭 実 長		26.0	26.0	26.0
総 本 数		10	12	2

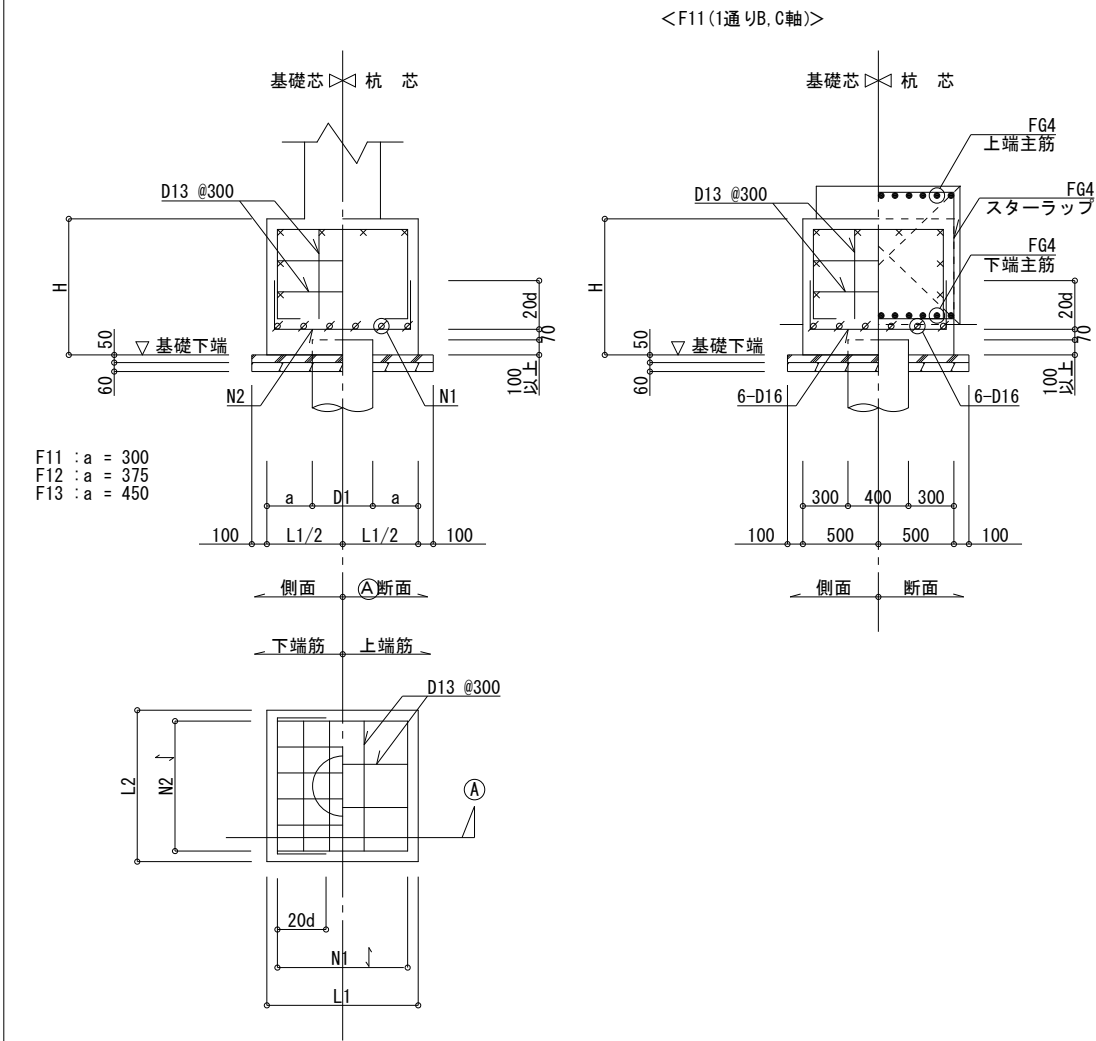


基礎リスト

特記なき限り上端筋はカゴ筋とし、D13 @300 とする。

符 号	杭 径 D1	H	L1	L2	上端筋		下端筋	
					N1	N2	N1	N2
F11	400	900	1,000	1,000	_____	_____	6-D16	6-D16
F12	500	900	1,250	1,250	_____	_____	7-D16	7-D16
F13	600	900	1,500	1,500	_____	_____	8-D16	8-D16

基礎要領図



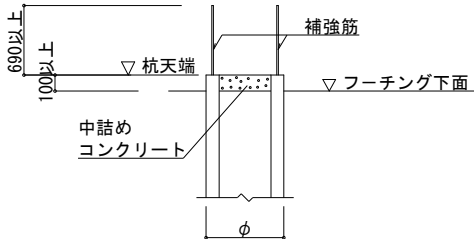
使用材料

鉄 筋
D10 - D16 : SD295
D19 - D25 : SD345

杭頭補強筋リスト（NCPアンカー工法）（参考）

符 号	杭 径 φ	杭頭補強筋	トルク値 (N・m)
P11	400	6-D25 (M24)	497
P12	500	12-D25 (M24)	497
P13	600	8-D16 (M24)	280

杭頭補強要領図



※施工時、メーカー標準図も参照すること。

基礎梁リスト									
符号	FG1	FG2	FG2A	FG2B	FG3	FG4			FG5
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	2端	中央	1端	全断面
▽1SL ▽設計GL 断面									
b×D	500x2,080	500x2,000	800x900	500x1,610	500x1,700	950x800			950x800
上端筋	5-D25	8-D25	8-D25	6-D25	6-D25	19-D25	19-D25	10-D25	19-D25
下端筋	5-D25	10-D25	13-D25	4-D25	3-D25	16-D25	16-D25	9-D25	16-D25
スターラップ	2-D13 @200	2-D13 @150	2-D13 @150	2-D13 @200	2-D13 @200	3-D13 @150			3-D13 @200
腹筋	10-D13	8-D13	2-D13	8-D13	8-D13	2-D13			2-D13

符号	FG11	FG11A	FG11B	FG12	FG12A	FG12B	FG13	
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	
▽1SL ▽設計GL 断面								
b×D	500x2,080	600x1,610	500x2,000	300x2,080	300x2,000	300x2,000	500x1,700	
上端筋	7-D25	10-D25	7-D25	3-D25	5-D25	3-D25	4-D25	
下端筋	5-D25	11-D25	5-D25	3-D25	3-D25	3-D25	4-D25	
スターラップ	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @200	2-D13 @250	2-D13 @250	2-D13 @250	3-D13 @150	
腹筋	10-D13	8-D13	10-D13	10-D13	10-D13	10-D13	8-D13	

符号	FG14			FG15		
位置	A, D端	中央	B, C端	B端	中央	C端
▽1SL ▽設計GL 断面						
b×D	950x800			950x800		
上端筋	10-D25	10-D25	19-D25	19-D25	10-D25	19-D25
下端筋	16-D25	16-D25	16-D25	8-D25	8-D25	8-D25
スターラップ	3-D13 @200			3-D13 @200		
腹筋	2-D13			2-D13		

キープラン

共通事項

特記なき限り下記とする。

- 巾止筋 D10 @1,000 以内とする。
- 地業：土に接する梁の地業は下記とする。
捨コンクリート ㌀50
砕石 ㌀60
- X方向の梁主筋を外側に配置すること。
但し、上端筋はレベルを考慮して配筋すること。
- 土圧・水圧を受ける梁の腹筋は柱内、もしくは、直交の梁内にL2定着とし、継手を設ける場合はL1継手とする。
(キープラン内〰印の基礎梁の腹筋を対象とする。)
- 梁交差部はX方向梁のスターラップを通すこと。(S-013図交差部配筋要領図参照)

使用材料

鉄筋
D10 - D16 : SD295
D19 - D25 : SD345

人通孔補強要領

符 号	斜 筋	横 筋	備 考
FG11B	4x(2-D19)	2x(3-D16)	
FG12	4x(2-D19)	2x(3-D16)	
FG12A	4x(2-D19)	2x(3-D16)	
FG12B	4x(2-D19)	2x(3-D16)	
FB2	4x(2-D19)	2x(3-D16)	
FB3	4x(2-D19)	2x(3-D16)	
FB4	4x(2-D19)	2x(3-D16)	
備 考			
1. 人通孔からの鉄筋かぶり厚さを確保する。			
2. 補強筋は、基礎梁主筋からの必要あき間隔を確保する。 ※印部、上下スターラップは、一般部と同材種、同径、同本数@100とする。(135°フック)			
3. 人通孔は500φとし、梁断面中央部に設けること。 尚、人通孔の上下に通気管・通水管などを設けてはならない。			
4. 孔際スターラップは、ダブル巻きとする。			
5. 斜筋は、二段配筋も可とする。			

基礎小梁リスト

※共通事項および使用材料はS-012図を参照すること。

符号	FB1			FB2		FB3			FB4		
位置	連続端	中央	他端	端部	中央	他端	中央	連続端	端部	中央	
▽1SL ▽設計GL 断面											
b × D	350x2,000			350x2,000		400x2,000			400x2,000		
上端筋	7-D19	4-D19	4-D19	7-D19	4-D19	4-D19	4-D19	5-D19	5-D19	3-D19	
下端筋	4-D19	8-D19	4-D19	4-D19	8-D19	5-D19	9-D19	5-D19	5-D19	4-D19	
スターラップ	2-D13 @250			2-D13 @250		2-D13 @250			2-D13 @250		
腹筋	10-D13			10-D13		10-D13			10-D13		

符号	FB11	FB12			FB13		FB14			FB15	
位置	全断面	他端	中央	連続端	端部	中央	他端	中央	連続端	端部	中央
▽1SL ▽設計GL 断面											
b × D	400x800	400x800			400x800		600x800			600x800	
上端筋	3-D19	4-D19	4-D19	7-D19	7-D19	4-D19	8-D19	8-D19	11-D19	11-D19	8-D19
下端筋	3-D19	4-D19	6-D19	4-D19	4-D19	4-D19	4-D19	8-D19	8-D19	8-D19	8-D19
スターラップ	2-D13 @250	2-D13 @250			2-D13 @250		2-D13 @200			2-D13 @200	
腹筋	2-D13	2-D13			2-D13		2-D13			2-D13	

配管ビット通水孔補強筋

FG5端部定着要領図(B通り5軸)

交差部配筋要領図

キープラン

断面

断面

断面

千葉市都市局建築部営繕課

工事名称
幕張新都心若葉住宅地区小学校（仮称）
プール新築工事

設計年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日	変更年月日	令和 年 月 日
特記事項		特記事項		特記事項	

図面番号

基礎小梁リスト

縮尺
A1：1／30
A3：1／60

図面番号
S－ 013
SA－ 113

壁梁リスト

符号	G1	G2
位置	全断面	全断面
断面		
b×D	180x450	200x600
上端筋	4-D13	4-D16
下端筋	4-D13	4-D16
スターラップ	2-D10 @200	2-D10 @200
腹筋	—	2-D10

小梁リスト

符号	B1	
位置	端部	中央
断面		
b×D	300x600	
上端筋	3-D19	3-D19
下端筋	3-D19	5-D19
スターラップ	2-D10 @200	
腹筋	2-D10	

スラブリスト

符 号	版 厚 t	位 置	短辺方向（主筋）	長辺方向（配力筋）
S160	160	上端筋	D10D13 @ 200	D10 @ 250
		下端筋	D10 @ 200	D10 @ 250
S160A	160	上端筋	D10D13 @ 200	D10D13 @ 250
		下端筋	D10 @ 200	D10 @ 250
S160B	160	上端筋	D13 @ 200	D10 @ 250
		下端筋	D10 @ 200	D10 @ 250
S160C	160	上端筋	D13 @ 150	D10D13 @ 200
		下端筋	D10D13 @ 150	D10D13 @ 200
S180	180	上端筋	D10D13 @ 200	D10D13 @ 200
		下端筋	D10 @ 200	D10 @ 200
S180A	180	上端筋	D13 @ 200	D10D13 @ 200
		下端筋	D10 @ 200	D10 @ 200
S180B	180	上端筋	D13 @ 150	D10D13 @ 200
		下端筋	D10D13 @ 150	D10 @ 200
S180C	180	上端筋	D13 @ 125	D10D13 @ 200
		下端筋	D10D13 @ 125	D10D13 @ 200
FS180	180	上端筋	D13 @ 200	D13 @ 250
		下端筋	D13 @ 200	D13 @ 250
FS180A	180	上端筋	D13 @ 100	D13 @ 200
		下端筋	D13 @ 200	D13 @ 200

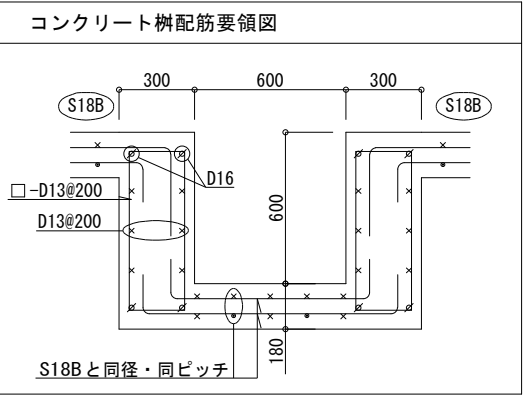
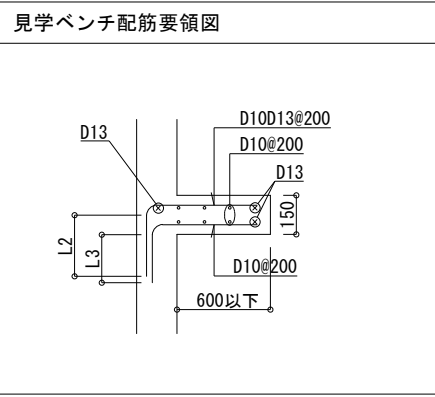
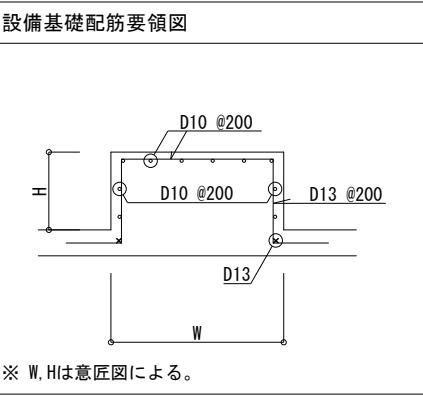
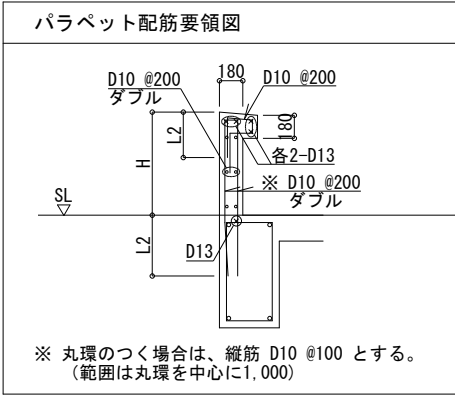
共通事項

特記なき限り下記とする。

- スラブには、設備配管を埋め込まない。やむを得ず一般階のスラブに埋め込む場合は、配管類をスラブ上下配筋の中間に納め、配管類間のあきは 50mm 以上とする。
- 土に接する場合は、かぶり厚50を確保すること。

壁リスト

符 号	W18	W18A	W20
立断面			
縦 筋	D10 @200 D	D13 @200 D	D10 @175 D
横 筋	D10 @200 D	D10 @200 D	D10 @175 D
開 口 補強筋	縦	2x(4-D13)	2x(4-D16)
	横	2x(2-D13)	2x(2-D13)
	斜メ	4x(1-D13)	4x(1-D13)



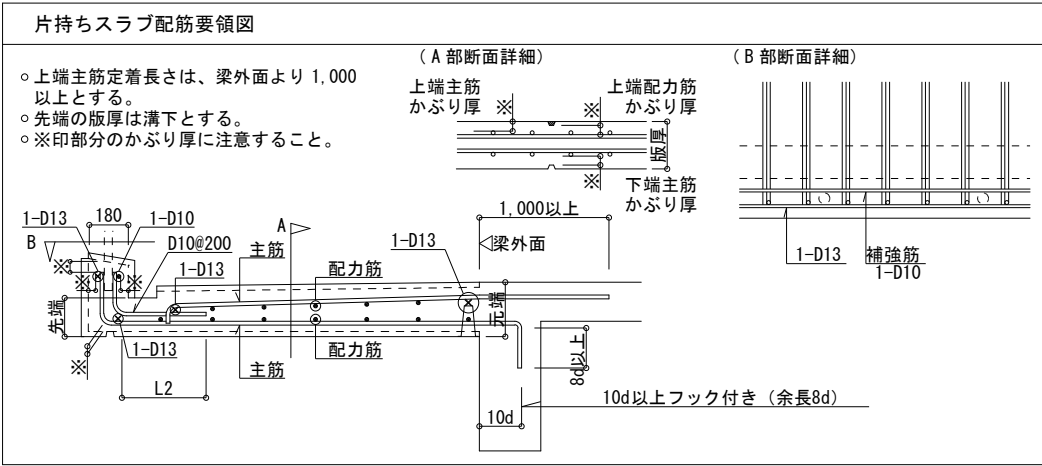
片持ちスラブリスト

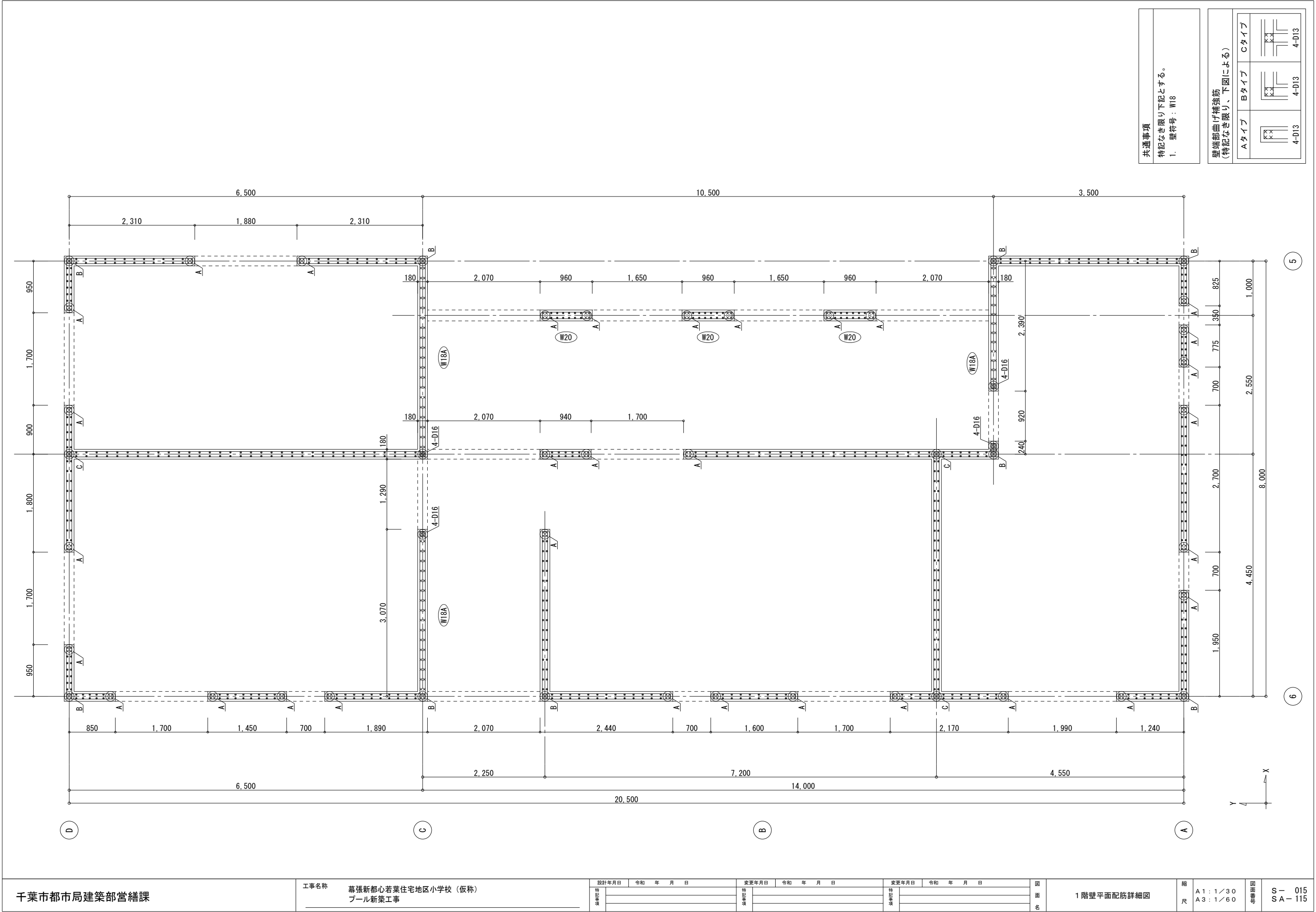
符 号	版 厚		位 置	主 筋	配力筋
	元 端	先 端			
CS160	160		上端筋	D13 @ 200	D10 @ 250
			下端筋	D10 @ 200	D10 @ 250
CS160A	160		上端筋	D13 @ 125	D10 @ 250
			下端筋	D10 @ 125	D10 @ 250
CS180	180		上端筋	D13 @ 150	D10 @ 250
			下端筋	D10 @ 150	D10 @ 250

共通事項

特記なき限り下記とする。

- 外部廊下の手摺及びバルコニーの床・スラブは、@ 3,000 前後毎にひび割れ誘発目地を設けること。
- 下端筋のかぶり厚さは40を確保すること。（誘発目地共）
- 片持ちスラブのスラブ厚は、目地厚込みの断面とする。





共通事項		
特記なき限り下記とする。		
1. 壁符号：W18		

壁端部曲げ補強筋 (特記なき限り、下図による)		
Aタイプ	Bタイプ	Cタイプ
4-D13	4-D13	4-D13

